



チューリッヒ サービスブリッジ

最終更新日: **2025年12月17日**

自動翻訳

これらの資料は、翻訳ソフトウェアを使用してお客様の便宜のために翻訳されています。正確な翻訳をご提供できるよう相当な努力を払っておりますが、いかなる自動翻訳も人間の翻訳者に代わることはなく、そのようなことは意図されておりません。翻訳は「現状のまま」提供されています。他言語への翻訳の的確性、信頼性または正確性については、明示または黙示を問わず、いかなる保証も行われません。翻訳ソフトには限界があるため、一部のコンテンツが正確に翻訳されていない場合があります。これらの資料の公用言語は英語です。翻訳の際に生じる相違または不一致は、コンプライアンスまたは履行の目的に関しては拘束力を有さず、法的効力はないものとします。

ここで示したいくつかの例と図は、説明の目的でのみ提供されています。ServiceNow 製品またはサービスへの実際の関連付けやつながりは意図されておらず、推測されるものではありません。

ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の商標または登録商標です。その他の会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標です。

下記の ServiceNow ウェブサイト利用規約をお読みください。 www.servicenow.com/terms-of-use.html

自動翻訳

本社
2225 Lawson Lane
Santa Clara, CA 95054
United States
(408) 501-8550

目次

サービスブリッジ.....	4
サービスブリッジ の探索.....	5
不一致バージョンのサポート.....	9
リビジョンの構成.....	10
リモートカタログ.....	10
積極的ケース.....	12
プロバイダータスク.....	12
リモートタスク.....	12
ジャーナルフィールドフレームワーク.....	13
基盤データ同期.....	14
マジックリンク.....	15
フローアクション.....	15
インスタンススキャンチェックと健全性ダッシュボード.....	16
サービスブリッジ プロバイダー向け.....	17
プロバイダーの サービスブリッジ のインストールと構成.....	18
プロバイダーの サービスブリッジ の使用.....	45
サービスブリッジ コンシューマー向け.....	62
コンシューマー向け サービスブリッジ のインストールと構成.....	62
サービスブリッジタスクにスクラッチパッドを使用する.....	73
コンシューマーとしての基盤データ同期の使用.....	73
セールスと注文管理 との統合.....	77
サービスブリッジの参照.....	77
サービスブリッジデータモデル.....	77
プロバイダー向け サービスブリッジ とともにインストールされるコンポーネント.....	84
コンシューマー向け サービスブリッジ とともにインストールされるコンポーネント.....	96
サービスブリッジ エラーログ.....	103
ドメインセパレーションと サービスブリッジ.....	104
サービスブリッジ によるインスタンスのクローン作成.....	105
コンシューマー基準の新規レコードフォーム.....	111
のスキャンチェックのリスト サービスブリッジ.....	111

サービスブリッジ

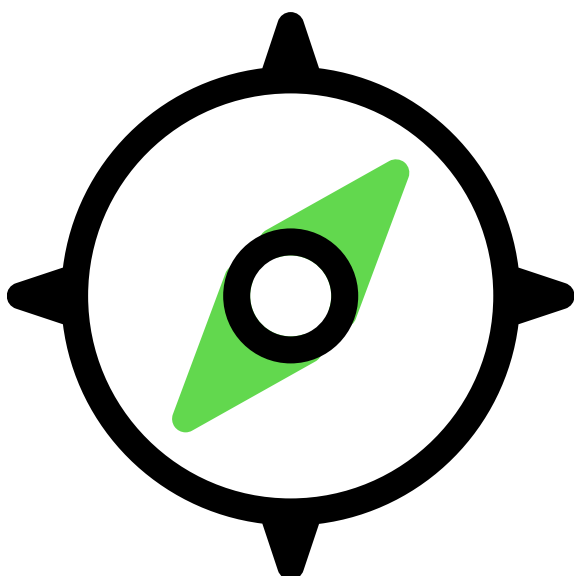
ServiceNow サービスブリッジ は複数の ServiceNow インスタンスを接続し、企業顧客からサブライヤー、システムインテグレーターに至るまで、エコシステム全体でシームレスなサポートとサービスエクスペリエンスを提供します。サービスブリッジ は、摩擦のないエクスペリエンスを提供し、要求のコラボレーションと処理を容易にすると同時に、ユーザーが自分の ServiceNow インスタンスで作業しやすいようにします。

サービスブリッジ アプリケーションの概要については、こちらの短いビデオをご覧ください。

https://player.vimeo.com/video/973114049?badge=0&autoplay=0&player_id=0&app_id=58479

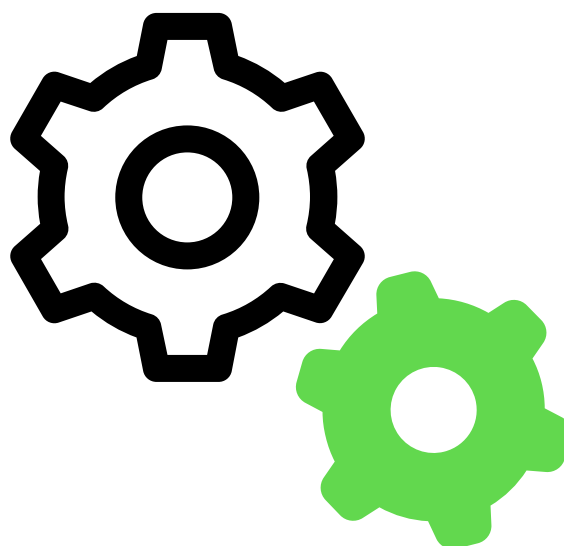
開始

探索



サービスブリッジの利点とその使用方法について説明します。

構成



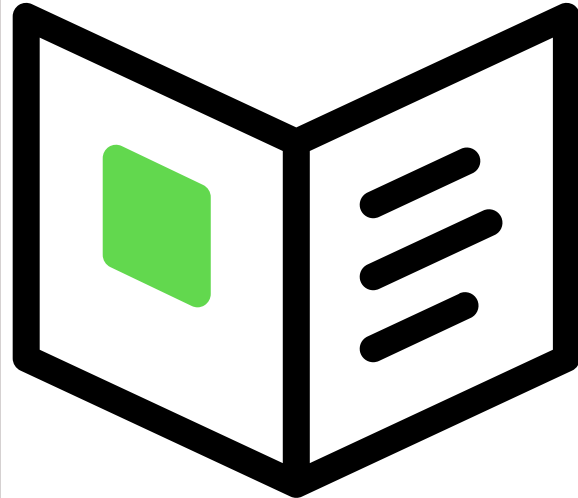
サービスブリッジアプリケーションをインストールして構成します。

使用方法



アドミンとエージェントがサービスブリッジを使用して複数の ServiceNow インスタンスを接続する方法について説明します。

参照



データモデル、エラーログ、クローン作成インスタンスなど、ServiceNow に関する追加の詳細を取得します。

その他のリソース

- 最新情報と変更内容の詳細については、「[Service Bridge release notes](#)」を参照してください。
- でリアルタイムコース、自分のペースで進められるトレーニング、キャリアリソースにアクセスします [ServiceNow University](#)
- [Now Community](#) で他の カスタマーサクセス管理 ユーザーとつながることができます。
- [サービスブリッジナレッジベース](#) で KB 記事を表示します。
- [サービスブリッジ製品](#) からサービスブリッジ製品ページにアクセスします。

サービスブリッジの探索

サービスブリッジ は、プロバイダー、コンシューマー、およびパートナーが ServiceNow インスタンスを接続して、ServiceNow エコシステム全体で安全なビジネスワークフローをビルドするのに役立ちます。

サービスブリッジの概要

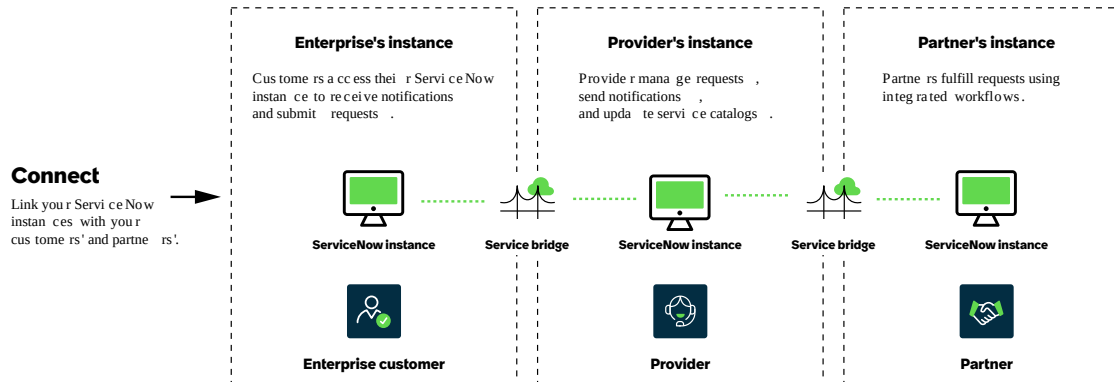
サービスブリッジ は複数の ServiceNow インスタンスを接続し、企業顧客からサプライヤー、システムインテグレーターに至るまで、エコシステム全体でシームレスなサポートとサービスエクスペリエンスを提供します。サービスブリッジ は、摩擦のないエクスペリエンスを提供し、要求のコラボレーションと処理を容易にすると同時に、ユーザーが自分の ServiceNow インスタンスで作業しやすいようにします。

サービスブリッジ には、次の 2 つのコンポーネントまたはアプリケーションがあります。

- **プロバイダーアプリケーション:** サービスプロバイダーがサービスオフリングを管理するための簡素化された包括的なソリューションを提供できるようにするアプリケーション。
- **コンシューマーアプリケーション:** コンシューマーがサービスプロバイダーとやり取りし、共同作業できるようにするアプリケーション。

サービスブリッジのワークフロー

サービスブリッジを使用すると、プロバイダーは ServiceNow インスタンスを顧客やパートナーと統合できます。



1. サービスブリッジ 接続を確立

プロバイダーは、サービスブリッジを使用して登録タスクを開始し、複数のインスタンス間に安全な双方向接続を確立して、コラボレーションを向上させます。エンタープライズインスタンスやパートナーインスタンスなどの必要なすべてのインスタンスは、サービスブリッジを使用して接続されます。

2. エンタープライズが要求を開始します

ワークフローは、企業 (コンシューマー) がプロバイダーによって公開されたカタログアイテムにアクセスするところから始まります。これらのカタログアイテムは、エンタープライズの ServiceNow インスタンスに統合されます。エンタープライズユーザーがこれらのアイテムのいずれかに対する要求を送信すると、コンシューマーインスタンスにタスクが作成されます。このタスクはプロバイダーのインスタンスと同期されるため、コンシューマーが進行状況を可視化しながら、プロバイダーは要求を履行できます。

3. プロバイダーはサービスを実行および管理します

プロバイダーとコンシューマーの間の接続が確立されると、プロバイダーは要求されたサービスの提供と管理を担当します。これには、プロバイダーとコンシューマーインスタンス間でミラーリングされ、共同作業をサポートするリモートタスクの設定が含まれます。さらに、コンシューマーはこれらのタスクの実行に参加しませんが、コンシューマーは要求の進捗状況を可視化するためにプロバイダータスクが作成されます。プロバイダーは、特定のアラートまたは条件が満たされたときにコンシューマーのインスタンスでプロバイダータスクを自動的に生成する積極的ケースを開始することもできるため、タイムリーなコミュニケーションとアクションが可能になります。

4. パートナーは履行をサポートします

プロバイダーは、特定のタスクを履行パートナーに委任できます。これらのパートナーは、同じサービスブリッジインフラストラクチャ内で運用され、リアルタイムで追跡および更新されるタスクを受け取ります。このメカニズムにより、サービス提供プロセスに関与するすべての関係者間の透明性と継続性が促進されます。

サービスブリッジ 接続されているすべてのインスタンスを最新の変更、コメント、およびステータスの更新で更新することで、リアルタイムのコラボレーションを促進します。これらの更新は構成された設定に基づいて同期されるため、プロバイダーとコンシューマーの両方がサービスプロセス全体で整合性を維持できます。この情報の継続的なフローにより、コラボレーションが向上し、透明性が高まり、ServiceNow インスタンス間での安全なデータ交換が維持されます。

サービスブリッジのメリット

機能	利益
不一致バージョン	アクティブなエンタイトルメントやプロセスを中断することなく、異なるプラットフォームリリースとアプリケーションバージョンでプロバイダーインスタンスとコンシューマーインスタンスを実行します。
構成リビジョン	リモートタスク、リモートカタログなどのエンタイトルメントのリビジョンを、更新された機能を使用して編集または作成し、コンシューマーに展開します。
リモートカタログ	共有カタログとワークフロー/統合の開発をプロバイダーインスタンスで保持しながら、プロバイダーインスタンスで統合された要求を生成するシンプルなしコードプロデューサーとしてコンシューマーと共有します。
積極的ケース	プロバイダータスクをコンシューマーインスタンスに送信することで、顧客と協力して透明性を促進します。
プロバイダータスク	追加のセットアップや構成を行うことなく、プロバイダータスクテーブルから接続されたコンシューマーにケースアラートをプロアクティブに送信し、透明性とコラボレーションを促進します。
リモートタスク	カスタム eBonding の持続可能な代替手段としてリモートタスクを使用して、統合をビルドせずに複数のインスタンスにリンクされたタスクを作成します。リモートタスクは、コメント、添付ファイル、およびマッピングされたフィールドをインスタンス間で送信し、ビジネスワークフローを改善します。
スクラッチ パッド	名前と値のペアをプロバイダータスクとリモートタスクの JSON データとして共有して、インスタンス間の構造化されたデータ交換を可能にします。
基盤データ同期	選択した基盤データタイプをスケジュールされた頻度でコンシューマーと共有することで、手作業を減らし、データを外部と共有する必要がなくなります。
ジャーナルフィールドフレームワーク	プロバイダーインスタンスとコンシューマーインスタンスの間でジャーナルタイプフィールドをマッピングして同期し、重要な運用上の更新を最新の状態に保ちます。また、以前のジャーナルエントリを同期することで履歴の継続性を維持し、一般的な会社名を使用するのではなく、名前付きユーザーとしてジャーナルエントリを書き込むことで、信頼性と説明責任を強化します。
フローアクション	マッピングされた変数の完全性を保持する 4 つの新しいフローアクションを使用して、構成の更新間でフローの互換性を維持することで、新しいリビジョンを採用してもリモートタスクとリモートレコードプロデューサーが引き続き正しく機能するようにします。
マジックリンク	プロバイダーインスタンスから送信された通常のリンクをマジックリンクに変換して、コンシューマーユーザーが手動でログイン

機能	利益
	しなくてもプロバイダーインスタンスでリンクされたリソースに直接アクセスできるようにします。
データスコープの保護	アプリケーションアドミニストレーターのみがデータにアクセスできるように、サービスブリッジを介して渡される機密データへのアクセスを制限します。
注文管理	注文の処理と追跡を自動化することで、プロバイダーと顧客のインスタンス間の統合を簡素化します。このメカニズムにより、遅延が減り、クロスインスタンスワークフローによるサービスデリバリーが強化されます。

アプリケーション

アプリケーション	説明
プロバイダー	このアプリケーションにより、プロバイダーはサービスとサポートをコンシューマーに提供できます。 • コンシューマーのインスタンスからリモートカタログを作成して公開し、インスタンスで履行できるサービス要求を生成します。 • 自分のタスクをコンシューマーのタスクと双方向で統合します。 • セットアップなしで、プロバイダータスクを介してインシデントとケースをコンシューマーの ServiceNow インスタンスに送信します。
コンシューマー	このアプリケーションを使用すると、コンシューマーはプロバイダーからサービスとサポートを受けることができます。 • プロバイダーからアサインされたりリモートカタログアイテムをローカルカタログに組み込み、生成された要求を実行のためにプロバイダーに送り返します。 • 自分のタスクをプロバイダーのタスクと双方向に統合します。 • プロバイダーからプロアクティブなタスクを受け取り、透明性とコラボレーションを強化します。

サービスブリッジ ユーザー

アプリケーション	ユーザー	説明
プロバイダー	管理者	プロバイダーアドミニストレーターは、サービスブリッジの技術コンポーネントの設定と保守を担当します。これには、接続の確立、ワークフロースタジオ フローの構成、コンシューマー

アプリケーション	ユーザー	説明
		インスタンスへのサービスコンテンツの公開が含まれます。また、登録をサポートし、統合の問題をトラブルシューティングして、プロバイダーインスタンスとコンシューマーインスタンス間のスムーズで安全なコラボレーションを促進します。
プロバイダー	プロバイダー履行者/エージェント	履行者/エージェントは、消費者の質問や問題の解決を担当し、サービス提供をサポートするために必要に応じてネットワーク運用に従事することもあります。
プロバイダー	コンシューマー	コンシューマーは、コンシューマー登録タスクを担当します。
コンシューマー	管理者	コンシューマーアドミニストレーターは、コンシューマー側からの サービスブリッジ 接続の設定と管理を担当します。これには、プロバイダーインスタンスとのスムーズで信頼性の高い統合を促進するための、 サービスブリッジ アプリケーションのインストール、プロバイダーおよび接続レコードの作成、変換の維持、トランスポートペイロードのトラブルシューティングが含まれます。
コンシューマー	履行者/エージェント	コンシューマーエージェントは、部分的または完全に外部プロバイダーに依存する IT サービスを管理する責任を負います。また、自身のインスタンス内からプロバイダーにサービス要求を出して追跡し、問題が解決され、サービスが期待どおりに提供されるようにします。
コンシューマー	要求者	要求者は、リモートカタログから要求を行う責任があります。

次に探索する内容

- [サービスブリッジ プロバイダー向け](#)
- [サービスブリッジ コンシューマー向け](#)
- [サービスブリッジの参照](#)

不一致バージョンのサポート

異なるバージョンの サービスブリッジ アプリケーションを使用するプロバイダーとコンシューマーは、ServiceNow インスタンス間でデータを交換および同期できます。

- プロバイダーは、アプリケーションにアップグレードしていないコンシューマーへのサービスを中断することなく、 サービスブリッジ アプリケーションをアップグレードし、新しい機能を展開できます。
- アップグレードしていないコンシューマーは、プロバイダーの既存のエントタイトルメントと、現在の互換性レベル以下の新しいエントタイトルメントを使用できます。ただし、最新バージョンにアップグレードするまで、新しい互換性レベルでエントタイトルメントをアクティブ化することはできません。

シナリオの例を次に示します。

- プロバイダーとコンシューマーは、サービスブリッジ for Providers 1.0 と サービスブリッジ for Consumers 1.0 を使用しています。プロバイダーがいくつかの構成 (リモートタスク定義、リモートレコードプロデューサー、基盤データ同期オフリングなど) を作成し、コンシューマーがこれらのエンタイトルメントを使用している。
- プロバイダーは サービスブリッジ for Providers 2.0 へのアップグレードを決定しましたが、コンシューマーはまだ古いバージョンを使用しています。この場合、コンシューマーは古いバージョンの サービスブリッジ を使用して作成されたエンタイトルメントを引き続き使用し、プロバイダーとデータを同期できます。
- (アップグレードされたアプリケーションで作成された) 最新の構成リビジョンを使用するには、コンシューマーはプロバイダーと互換性のあるバージョンにアップグレードする必要があります。

役に立つ参考資料

サポート機能の詳細については、「[リビジョンの構成](#)」を参照してください。

リビジョンの構成

プロバイダーは、リモートレコードプロデューサー、リモートタスク定義、基盤データ同期オフリングの構成を更新し、コンシューマーに資格を付与できる新しいバージョンを作成できます。

機能が更新された新しいバージョンのエンタイトルメントを、サービスブリッジ アプリケーションをアップグレードしていないコンシューマーに影響を与えることなく、互換性のあるコンシューマーに展開できます。コンシューマーが最新バージョンにアップグレードしていなくても、サービスブリッジ アプリケーションをアップグレードして新機能を採用できます。

複数の構成リビジョンを作成できますが、アクティブで新しいエンタイトルメントとして使用できるのは、最新の公開リビジョンのみです。コンシューマーは、新しいエンタイトルメントをアクティブ化するか、アーカイブされるか廃止されるまで古いリビジョンを引き続き使用するかを選択できます。コンシューマーが新しいリビジョンを使用する場合は、サービスブリッジ アプリケーションをプロバイダーのインスタンスで実行されているものと同じバージョンにアップグレードする必要があります。コンシューマーのインスタンスで新しいリビジョンがアクティブ化されると、以前のリビジョンは使用できなくなり、非アクティブステータスに移行します。

次の構成リビジョンを作成できます。

- リモートレコードプロデューサー
- リモートタスク定義
- 基盤データ同期オフリング

詳細については、「[構成のリビジョンを作成](#)」を参照してください。

リモートカタログ

プロバイダーのアプリケーション開発者は、コンシューマー向けのサービスを含むリモートカタログアイテムを作成できます。リモートカタログアイテムを作成した後、コンシューマーのインスタンスのアドミニストレーターは、他のカタログアイテムと同様に、それをカタログとカテゴリに割り当ててアクティブ化できます。

例：

たとえば、複数の SD-WAN 製品オフリング (ゴールド、シルバー、ブロンズ) があるとします。リモートカタログには、SD-WAN 製品に関連付けられた 20 個のサービスが含まれています。

- ゴールド製品オフリングは、20 のサービスすべてに対する消費者の権利を付与します。
- シルバー製品オフリングでは、20 のサービスのうち 15 のサービスに対する消費者の権利が付与されます。
- ブロンズ製品オフリングでは、20 のサービスのうち 10 のサービスのみに対する権利が消費者に付与されます。

これらの 20 個のサービスすべてを 1 つのカタログにパッケージ化できます。各製品オフリングのコンシューマーは、権利を与えられたサービスに対する権利のみを持ちます。

詳細については、「[プロバイダーの サービスブリッジ でのリモートカタログの作成](#)」を参照してください。

リモート選択フィールドを使用してプロバイダーデータに直接アクセスする

リモート選択フィールドを使用すると、コンシューマーはインスタンスからリモートカタログアイテムを送信しながら、リアルタイムで (プロバイダー) データに直接アクセスできます。

リモート選択フィールドを使用すると、コンシューマーはプロバイダーのインスタンスから直接カタログ参照フィールドの選択リストを表示できます。次の利点があります。

- 基盤データをレプリケートする必要がなくなります。
- 統合のコストとメンテナンスを削減します。

リモート選択フィールドを定義することで、コンシューマーがアクセスするデータを制御することができます。詳細については、「[サービスブリッジ for Providers でのリモート選択定義の作成](#)」を参照してください。

サービスブリッジ 認定ユーザーとペルソナ

認定ユーザー機能を使用すると、プロバイダーはユーザーペルソナ別にリモートカタログアイテムを分類し、これらのペルソナを持つ認定ユーザーのみがカタログアイテムにアクセスできるようにすることができます。また、コンシューマーアドミニストレーターは、これらのペルソナをインスタンス内のユーザーに関連付けて、アクセスを許可することもできます。

プロバイダーとコンシューマーが最初に サービスブリッジ アプリケーションを登録すると、プロバイダーの ServiceNow インスタンスにあるコンシューマーのアカウントのアクティブな連絡先が [認定ユーザー] テーブルに自動的に追加され、コンシューマーの ServiceNow インスタンスと同期されます。

プロバイダーがユーザーのペルソナ別にサービスを細分化できるようにして、コンシューマーがプロバイダーのサービスへのアクセスをインスタンスで簡単に定義できるようにします。認定ユーザー機能を使用すると、プロバイダーインスタンスとコンシューマーインスタンスの間で特定のユーザーを識別し、プロバイダーのサービスに対するコンシューマー要求を管理できます。その後、許可されたユーザーにペルソナをアサインして、リモートカタログアイテムへのアクセスを制御できます。

- プロバイダーとコンシューマーの両方が認定ユーザーを作成できます。
- プロバイダーは、認定ユーザーの承認ステータスを管理します。デフォルトでは、承認ステータスは [承認済み] に設定されています。
- コンシューマーは、認定ユーザーのアクティブ状態を管理します。
- プロバイダーは、接続ごとに許可されたユーザーの最大数を設定できます。この場合、すべてのコンシューマーは、プロバイダーによって設定された制限以下のアクティブな承認ユーザーのリストを維持する必要があります。値が設定されていない場合、コンシューマーは必要な数のアクティブな承認ユーザーを持つことができます。

詳細については、「[認定ユーザーの追加](#)」を参照してください。

積極的ケース

ケースアラートをプロアクティブにコンシューマーユーザーに通知し、接続されたコンシューマーインスタンスで追加の構成を行うことなくプロバイダーとのリアルタイムのコラボレーションを可能にします。

プロバイダータスク

サービスブリッジを使用するすべてのプロバイダーが、ServiceNowを使用するコンシューマーに対して透明性とコラボレーションを実現できるようにします。

プロバイダータスクは、プロバイダーの ServiceNow インスタンスで実行され、コンシューマーのインスタンスで監視されている作業を表します。プロバイダータスクを使用することで、コンシューマーはインスタンスに追加の構成を必要とせずに、すべてのプロバイダーと共同作業を行うことができます。詳細については、「[のリモートレコードプロデューサー サービスブリッジ](#)」を参照してください。

リモートタスク

プロバイダーがリモートタスクを使用して、インシデント、ケース、サービス要求などの複数のコンシューマータスクを解決して実行する方法について説明します。また、コンシューマーは、解決のためにインシデントを複数のプロバイダーにアサインできます。

リモートタスクを使用すると、個別のインスタンスでタスクのデータをアサインして同期できるため、コンシューマーからのサービス要求を迅速に満たすことができます。コンシューマー要求の例を次に示します。

1. コンシューマーがサービスで抱えている問題についてのヘルプを要求します。
2. コンシューマーが購入したサービスのサービス変更を要求します。
3. コンシューマーの問題をサポートできるように、既存のタスクのアサインを要求します。

リモートタスクの仕組み

プロバイダーは、まず、コンシューマーがリモートタスクの作成に使用できるリモートタスク定義を作成して公開する必要があります。これらの定義は、マッピングとフィールドデータルールを調整したり、単に定義をアクティブ化したりできるコンシューマーに付与します。コンシューマーは、アクティブな定義に基づいて、定義にトリガーを適用するか、プロバイダーのリモートタスクを手動で作成できます。

詳細については、「[プロバイダー向け サービスブリッジ でのリモートタスク定義の作成](#)」を参照してください。

リモートタスク機能には、ServiceNow AI Platformのタスクテーブルの拡張であるリモートタスクテーブルが含まれています。リモートタスクを使用すると、複数の ServiceNow インスタンス間でワークフローの双方向リンクを有効にすることができます。

たとえば、コンシューマーインスタンスのインシデントは、ケースとしてプロバイダーのインスタンスにアサインする必要があります。各インスタンスのリモートタスクレコードは、ケースとインシデントの間でのタスクのデータの双方向フローを容易にします。

サービスブリッジ変換フレームワークを使用したデータの変換

変換フレームワークを使用して、2 つの ServiceNow インスタンス間でタスクを統合し、サービスブリッジアプリケーションのリモートタスクデータを変換します。

プロバイダーは、変換フレームワークを使用して、ServiceNow インスタンスとコンシューマーのインスタンス間でリモートタスクの受信データと送信データ（インシデント、ケース、サービス要求

など)を変換できます。リモートタスクとは何かについては、「[リモートタスク](#)」を参照してください。

プロバイダー向け サービスブリッジ アプリケーションを使用している間、ユーザーとコンシューマーはテーブルとフィールドを介してリモートタスクデータを交換できます。変換フレームワークは、これらのテーブルおよびフィールド間でデータを変換し、インシデント、ケース、およびコンシューマーの要求を解決する際にユーザーとコンシューマーが簡単に通信できるようにするのに役立ちます。変換は一度作成すれば、すべてのリモートタスク定義で使用できます。

リモートタスクの変換フレームワークでは、次の変換タイプを使用できます。

- **シンプル:**リモートタスクの受信フィールドと送信フィールドの事前定義された値を使用するには、簡易変換オプションを選択します。たとえば、この変換タイプを使用すると、プロバイダーの ServiceNow インスタンスのインシデントの [オープン] ステータスをコンシューマーの ServiceNow インスタンスの [処理中] ステータスに変換します。
- **詳細:**スクリプトを実行してリモートタスクの受信および送信データ値を決定する高度な変換を使用します。たとえば、この変換タイプを使用して、受信sys_idを参照フィールドの関連sys_idに変換します。
- **仮想受信:**これを使用して、受信仮想フィールドの値を変換または設定します。このオプションでは、スクリプトを使用してデータを変換し、必須の [受信フィールド] フィールドを追加します。
- **仮想送信:**これを使用して、送信仮想フィールドの値を変換または設定します。このオプションでは、スクリプトを使用してデータを変換し、必須の [送信フィールド] フィールドを追加します。
- **グローバル:**グローバル変換オプションを使用して、すべてのコンシューマーアカウントに適用できるデフォルトの変換定義を作成します。

i 注:

一致する会社またはアカウント固有の変換は、[グローバル変換] オプションを上書きします。

変換の作成方法については、「[での変換の作成 サービスブリッジ](#)」を参照してください。

ジャーナルフィールドフレームワーク

ジャーナルフィールドフレームワーク (JFF) を使用すると、プロバイダーとコンシューマーの間で、コメントや作業メモなどのジャーナルタイプフィールドをリアルタイムで同期できます。

JFFはまた、運用の透明性を高め、履歴コンテキストを保持し、透明性を高めるために更新が実際のユーザーに帰属することを検証します。

コンシューマーインスタンスとプロバイダーインスタンス間のジャーナルタイプフィールドの同期は、互換性バージョン 2.2.x 以降で構成されたリモートタスク定義 (RTD) によって有効になります。

JFF では、次のことができます。

ジャーナルフィールドマッピング

リモートタスク定義の受信フィールドと送信フィールド構成に基づいて、プロバイダーインスタンスとコンシューマーインスタンス間でジャーナルタイプフィールドをマッピングして同期します。

たとえば、RTD を作成するときに、次のようなマッピングを作成できます。

- 作業メモへのコメント
- 作業メモからコメントへ

RTD に基づいてリモートタスクが作成されると、これらのマッピングされたジャーナルフィールドがプロバイダーインスタンスとコンシューマーインスタンスの間で自動的に同期されます。その結果、コメントまたは作業メモが 1 つのインスタンスに投稿されると、接続されたインスタンスにも表示されます。

コメント間のマッピングは、サービスブリッジ バージョン 2.2.x からリモートタスク定義を作成するときに、受信と送信の両方のフィールド構成でデフォルトで作成されます。詳細については、「[プロバイダー向け サービスブリッジ でのリモートタスク定義の作成](#)」を参照してください。

実際のユーザーとしてジャーナルエントリを書き込む

汎用の会社名ではなく、ユーザー ID を使用してジャーナルエントリを書き込みます。たとえば、ユーザー David のすべてのコメントは David (xyz company) と表示されます。

履歴ジャーナルエントリを同期する

リモートタスクのコンシューマーインスタンスとプロバイダーインスタンス間ですべての履歴ジャーナルエントリを同期します。

リモートタスク定義 (RTD) のセットアップ中および RTD の有効化中に [既存のエントリを同期する (**Sync pre-existing entries**)] オプションが設定されている場合、リモートタスクが接続されると、タスクに作成されたすべてのジャーナルコメントがコンシューマーインスタンスとプロバイダーインスタンス間で同期されます。

考慮事項

ジャーナルの同期または履歴ジャーナルの同期は、次のシナリオでは機能しない可能性があります。

- リモートタスクが削除され、後で同じ親タスクと RTD に対して新しいリモートタスクが作成された場合、ジャーナルフィールドの同期は機能しません。
- 接続された RTD で [既存のエントリを同期する (**Sync pre-existing entries**)] オプションが有効になっている場合でも、リモートタスクが切断されて後で再接続された場合、履歴ジャーナルエントリの同期は停止し、再開されません。

関連情報

[プロバイダー向け サービスブリッジ でのリモートタスク定義の作成](#)
[でのリモートタスク定義レコードのアクティブ化 サービスブリッジ](#)

基盤データ同期

基盤データ同期 (FDS) により、プロバイダーからコンシューマーインスタンスへの構造化された定期的なデータ共有が可能になります。これにより、消費者はプロバイダーからの正確で最新の基盤データにアクセスできるようになり、より良いサービスデリバリーと運用の整合性がサポートされます。

FDS は、プロバイダーインスタンスがサーバー、ハードウェア、ネットワーク情報などの基盤データを日次、週次、または月次スケジュールされた周期でコンシューマーインスタンスと共有できるようにするデータ同期メカニズムです。

FDS は、すべての CMDB テーブルと、資産、ユーザー、グループ、場所、会社、および部門の非 CMDB テーブルをサポートしています。

FDS のメリット

FDS は、プロバイダーが構造化された自動化された方法でコンシューマーと基盤データを共有できるようにすることで、サービスライフサイクルをサポートします。このデータ転送は、運用ワークフ

ローに不可欠なコンテキストを提供し、手作業を減らし、外部チャネルを介してデータを交換する必要性を排除します。

ユースケースの例

通信プロバイダーである XYZ 社は、自社のサーバーを所有または管理していません。代わりに、サードパーティのインフラストラクチャプロバイダーである ABC 社に依存しています。ABC は、ハードウェア仕様やネットワークの依存関係など、サーバーの構成データを保持します。

XYZ は、帯域幅要件に基づいてユーザーを適切なサーバーに割り当てるために、このデータを必要としています。FDS により、ABC はこのデータを定期的に XYZ にプッシュし、XYZ が信頼性の高いサービスを提供するために必要な情報を確実に入手できます。このシナリオでは、ABC がプロバイダー、XYZ がコンシューマーであり、データは ABC から XYZ に流れます。

関連情報

[基盤データ同期をプロバイダーとして使用する](#)

[コンシューマーとしての基盤データ同期の使用](#)

マジックリンク

マジックリンクにより、コンシューマーインスタンスからプロバイダーインスタンスへのシームレスな認証が サービスブリッジ可能になり、コンシューマーは手動でログインしなくても共有リソースにアクセスできるようになります。このメカニズムは、ユーザーごとのログインモードとシングルユーザーログインモードの両方をサポートしており、HR タスク、カタログ送信、ナレッジベースへのアクセスに特に役立ちます。

フローアクション

ワークフロースタジオ 事前定義されたアクションは、マップされた変数の整合性を維持し、構成のリビジョン間でフローの互換性を維持するのに役立ちます。

サービスブリッジ には、フローまたはサブフローで使用する、リモートタスクとプロバイダータスクから変数値を取得できる、事前定義された一連の ワークフロースタジオ アクションが用意されています。フローの詳細については、「[Getting started with flows](#)」を参照してください。

サービスブリッジワークフロースタジオで次のアクションを提供します。

i 注:

アップグレードの問題を回避するには、フローおよびサブフローでこれらの事前定義されたアクションを使用します。

アクション	説明	入力	目的	出力
RRP のプロバイダータスク変数を取得	選択したリモートレコードプロデューサー (RRP) に基づいてプロバイダータスクから変数値をデータピルとして取得し、他のアクションで使用します。	プロバイダータスク、RRP。	親タスクの更新やローカルカタログアイテムの注文などの自動化フローで変数を使用します。	RRP 内の変数に基づいて、名前付きデータピルを返します。

アクション	説明	入力	目的	出力
	sn_sb基本スコープ内にある必要があります。			
コンシューマーからリモートタスク変数を取得	選択したリモートタスク定義 (RTD) ID に基づいてリモートタスクから変数の回答を取得し、他のアクションで使用するためのデータピルとして公開します。 プロバイダーのスコープ内である必要があります。	リモートタスク、RTD ID。	親タスクの更新などの自動化フローで変数を使用します。	最後に公開されたRTD 内の変数に基づいて、名前付きデータピルを返します。
プロバイダーからリモートタスク変数を取得	選択したリモートタスク定義に基づいて、リモートタスクから変数値を取得します。 コンシューマースコープ内である必要があります。	リモートタスク、RTD ID。	親タスクの更新などの自動化フローで変数を使用します。	最後に公開されたRTD 内の変数に基づいて、名前付きデータピルを返します。
リモートレコードプロデューサーを注文	RRP の注文を自動化します。 コンシューマースコープ内である必要があります。	RRPです。	RRP 注文をスク립ティングすることで、ハードウェア資産管理 (HAM) などのプロセスを簡素化します。	新しく作成されたプロバイダータスク GlideRecord を返します。

インスタンススキャンチェックと健全性ダッシュボード

サービスブリッジのインスタンススキャンチェックは、問題やシステムの不整合を事前に特定し、アドミニストレーターがシステムの健全性を維持し、ダウンタイムを短縮するのに役立ちます。健全性ダッシュボードには、結果、エラー、およびチェックのステータスが表示され、問題をすばやく特定して解決するのに役立ちます。

サービスブリッジ スキャンチェックには次のメリットがあります。

- ケースタスクの負荷を軽減し、 サービスブリッジ 統合の安定性と信頼性を促進します。
- 問題を早期に特定することで、ダウンタイムとトラブルシューティングの労力を削減します。
- 既知のエラーと詳細なソリューションを提供します。
- 自動化と可視化によって全体的な生産性を向上させます。

サポートされている サービスブリッジ スキャンチェック

サービスブリッジ には、オンデマンドとスケジュール済みの 2 つのメインスイートが用意されています。

各スイートには複数の子スイートが含まれ、各子スイートには複数のスキャンチェックが含まれます。スイートとスキャンのチェックの詳細については、「[Instance Scan](#)」を参照してください。

- オンデマンドスイート: オンデマンドチェックは、必要に応じて実行できます。
- スケジュール済みスイート: スケジュール済みチェックは、毎日スケジュールされた時刻に実行されます。

スケジュール済みスイートの実行タイミングをカスタマイズしたり、スケジュール済み実行時間をオンデマンドスイートに割り当てたりすることもできます。

サポートされている サービスブリッジ スキャンチェックのリストを表示するには、「[の スキャンチェックのリスト サービスブリッジ](#)」を参照してください。

これらの サービスブリッジ スキャンチェックは、サービスブリッジ Health プラグインを介して利用できます。このプラグインは、サービスブリッジのインストールまたはアップグレード時に有効になります。このプラグインは手動でアクティブ化することもできます。アクティブ化手順については、「[Activate a plugin](#)」を参照してください。

i 注:

サービスブリッジ Health プラグインには下位互換性があります。古いバージョンの サービスブリッジ アプリケーションを使用している場合は、このプラグインをインストールしてその機能を使用できます。

健全性ダッシュボード

サービスブリッジ健全性ダッシュボードは、検出結果、エラー、およびスキャンタスクのステータスを単一のビューに統合します。任意のウィジェットを選択して、スキャンチェックに関する情報を表示できます。

各スキャンタスクには、関連する既知のエラードキュメントへのリンクを含む作業メモが含まれています。このドキュメントでは、問題の解決に役立つ可能性のあるステップバイステップのガイダンスを提供します。

健全性ダッシュボードには、[サービスブリッジ 管理] メニューからアクセスできます。

関連情報

[の スキャンチェックのリスト サービスブリッジ](#)

サービスブリッジ プロバイダー向け

プロバイダー向け サービスブリッジ アプリケーションを使用して、サービスのカタログを作成して公開し、コンシューマーから生成された要求を受信して実行し、コンシューマーインスタンスとの統合を確立します。

プロバイダーは、次のことができます。

- インスタンスでコンシューマーのリモートサービスカタログを作成して公開します。
- インスタンスをコンシューマーのインスタンスと統合します。
- コンシューマーの ServiceNow インスタンスからインスタンスでサービス要求を受信して履行します。

コンシューマーの場合は、「[サービスブリッジ コンシューマー向け](#)」を参照してください。

関連情報

[サービスブリッジ コンシューマー向け](#)

プロバイダーの サービスブリッジ のインストールと構成

サービスブリッジ for Providers アプリケーションを設定および構成するには、次の手順を実行します。

インストール前のチェック

glide.servlet.uri プロパティの確認:Glide インスタンスの glide.servlet.uri プロパティが正しいインスタンス URL に設定されていることを確認します。インスタンスが本番環境からクローンされても、 glide.servlet.uri プロパティの本番 URL を参照している場合、問題が発生する可能性があります。

プロバイダー向けサービスブリッジの設定

タスク	リンク
プロバイダー向け サービスブリッジ アプリケーションをインストールします。	「プロバイダーのインストールサービスブリッジ」 を参照してください。
新しいプロバイダーレコードを設定します。	「サービスブリッジプロバイダーレコードの設定」 を参照してください。
プロバイダーに サービスブリッジ ロールを割り当てます。	「プロバイダーのユーザーロール」 を参照してください。
カタログペルソナを作成します。	「カタログペルソナの作成」 を参照してください。
リモート選択定義を作成します。	「サービスブリッジ for Providers でのリモート選択定義の作成」 を参照してください。
リモートカタログアイテムを作成します。	「プロバイダーの サービスブリッジ でのリモートカタログの作成」 を参照してください。
リモートタスク定義を作成します。	「プロバイダー向け サービスブリッジ でのリモートタスク定義の作成」 を参照してください。
変換を作成します。	「での変換の作成 サービスブリッジ」 を参照してください。
認定ユーザーの設定を更新します。	「認定ユーザーの設定を更新」 を参照してください。

コンシューマーの場合は、「[コンシューマー向け サービスブリッジ のインストールと構成](#)」を参照してください。

関連情報

[コンシューマー向け サービスブリッジ のインストールと構成](#)

プロバイダーのインストールサービスブリッジ

admin ロールを持っている場合は、プロバイダー向け サービスブリッジ (sn_sb_pro) アプリケーションをインストールできます。このアプリケーションには、ServiceNow Store アプリケーションとプラグインに関連するデモデータとインストールが含まれています。

始める前に

- アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認してください。詳細については、次を参照してください。 [のエンタイトルメントを取得する ServiceNow 製品またはアプリケーション](#)。

必要なロール：admin

このタスクについて

次のプラグインは、プロバイダー向け サービスブリッジ アプリケーションとともに自動的にインストールされます。

- sn_req_criteria
- sn_sb
- sn_sb_rps
- sn_transport
- com.glide.hub.process.sync
- com.snc.ihub_spoke_util_pack

これらとは別に、ロール、ビジネスルール、テーブル、フローなどのいくつかのコンポーネントもインストールされます。このアプリケーションとともにインストールされるコンポーネントの詳細については、「[プロバイダー向け サービスブリッジ とともにインストールされるコンポーネント](#)」を参照してください。

手順

1. 移動先 [すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて](#)。
2. フィルター基準と検索バーを使用して、プロバイダーアプリケーション (sn_sb_pro) の サービスブリッジ を検索します。

名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store へのリクエストが必要になることがあります。

[ServiceNow Store](#) Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「[ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート](#)」を参照してください。

3. アプリケーションのインストールダイアログで、アプリケーションの依存関係を確認します。

このリストは、各依存プラグインとアプリケーションがインストールされている場合、既にインストールされている場合、またはインストールする必要があることを示します。インストールする必要があるプラグインまたはアプリケーションがある場合は、サービスブリッジ for Providers をインストールする前にインストールする必要があります。

4. 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] をクリックします。
デモデータには、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードが含まれています。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。インストール時にデモデータを読み込んでおかないと、後から読み込むことはできません。

5. [Install (インストール)] を選択します。

サービスブリッジプロバイダーレコードの設定

新しいプロバイダーレコードを設定して、プロバイダー向け サービスブリッジ (sn_sb_pro) アプリケーションの一意の識別子を確立します。

始める前に

- 必要なロール: admin、sn_sb.admin
- このバージョンの サービスブリッジ では、プロバイダー向け サービスブリッジ アプリケーションを設定する前にインストールする必要があるグローバルスクリプトが必要です。Now Supportインスタンスで[KB1225292](#) の指示に従って、スクリプトをインストールします。

このタスクについて

この 1 回限りのセットアップタスクは、ServiceNow インスタンスから完了する必要があります。

手順

1. 移動先 **すべて > サービスブリッジプロバイダー > プロバイダー**。
2. プロバイダーの名前を入力します。
これには、英数字とダッシュのみを含めることができます。スペースまたは特殊文字を含む名前はエラーになります。
3. **[Submit (送信)]** を選択します。

プロバイダーのユーザーロール

プロバイダー向け サービスブリッジ アプリケーションのさまざまなユーザーのロール、スキル、およびタスクについて説明します。

ユーザーロールは、アプリケーションに事前設定されたロールで、複数の詳細なロールで構成されます。ユーザーロールは、IT 組織のマネージャー、アナリスト、およびサービスオーナーの一般的な役職に対応するように設計されています。ロールで許可されている数よりも多くのアクセス権をユーザーとグループに付与する場合は、詳細なロールをさらにユーザーとグループに追加できます。タスクレベルで特定のユーザーとグループのアクセスを制限する場合は、詳細なロールを削除できます。ニーズに合わせてカスタムロールとアクセス制御 (ACL) をビルドすることもできます。

ユーザーロール

ペルソナ	スキル	タスク	ロール
開発者	• 認定 ServiceNow アドミニストレーターである • 認定 ServiceNow アプリケーション開発者である	• プロバイダー接続コードを作成します。 • リモートタスクの定義と変換を作成および維持します。 • 要求実行プロセスを決定する ワークフロースタジオ フローを作成および管理します。 • リモートレコードプロデューサーを作成および管理します。	• アドミン • sn_sb.admin 注: ユーザーが admin ロールを持っていない場合、リモートレコードプロデューサーを変更して公開するには、カタログ admin ロールが必要です。

ユーザーロール (続く)

ペルソナ	スキル	タスク	ロール
管理者	認定 ServiceNow システムアドミニストレーターである	- サービスブリッジ登録要求を完了します。 - 必要に応じて、コンシューマーのシステムアドミニストレーターを支援します。 - コンシューマーのインスタンスにリモートカタログを公開します。 - リモートタスク定義をコンシューマーのインスタンスに公開します。 - サービスブリッジトランスポートペイロードのトラブルシューティングを行います。	- アドミン - sn_sb.admin - sn_transport.admin
プロバイダー履行者	エージェントスキルあり	- 消費者の質問や問題を解決します。 - 必要に応じてネットワーク運用に従事します。	*itil - sn_sb.requestor *sn_customerservice_agent *incident_read *problem_read *change_read
コンシューマー要求者	エンドユーザー	リモートカタログから要求を行います	sn_sb.requestor

のグループへのロールのアサイン サービスブリッジ

ロールをアサインして、各ユーザーが使用できるアクションを制御します。ServiceNow では、個々のユーザーではなくグループごとにロールをアサインします。ユーザーのジョブの説明が変更されると、そのユーザーのロールが自動的に更新されます。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

ユーザーロールは、複数の詳細なロールで構成される、アプリケーションの事前設定されたロールです。ユーザーロールは、IT 組織のマネージャー、アナリスト、およびサービスオーナーの一般的な役職に対応するように設計されています。詳細については、「[プロバイダーのユーザーロール](#)」を参照してください。

手順

1. 移動先 **すべて** > ユーザー管理 > グループ.
2. ロールをアサインするグループを選択します。
3. [ロール] 関連リストで、[編集] を選択します。
4. グループにロールを追加します。
5. **[Save (保存)]** を選択します。

カタログペルソナの作成

カタログユーザーペルソナを作成して、コンシューマーがインスタンスでアクセスできるカタログアイテムを制御します。

始める前に

必要なロール:admin、sn_sb.admin

このタスクについて

ペルソナをリモートレコードプロデューサー (RRP) にアサインできます。ペルソナはリモートレコードプロデューサーに関連付けられ、そのレコードプロデューサーのエンタイトルメントが生成され、コンシューマーインスタンスと同期されます。コンシューマーのインスタンスのすべてのペルソナに対してエンタイトルメントが生成されます。最後に、ペルソナをリモートレコードプロデューサーにアクセスできる認定ユーザーに関連付けることができます。

手順

1. 移動先 **すべて** > サービスブリッジプロバイダー > アドミニストレーション > カatalogペルソナ.
2. **[New]** をクリックします。
3. カatalogペルソナの名前と説明を入力します。
4. **[Submit (送信)]** を選択します。

サービスブリッジ **for Providers** でのリモート選択定義の作成

プロバイダーは、コンシューマーがインスタンスからリアルタイムで選択データを取得できるように、リモート選択フィールドを定義します。

始める前に

- リモート選択定義の作成に必要なロール:security_admin
- リモート選択フィールドの作成に必要なロール:admin

手順

1. ロールを security_admin に昇格させます。
2. 移動先 **すべて** > サービスブリッジプロバイダー > アドミニストレーション > リモート選択定義.
3. **[New]** をクリックします。
4. フォームで、フィールドに入力します。

リモート選択定義フォーム

フィールド	説明
テーブル	コンシューマーがサービスポータルでカタログアイテムを選択しているときにクエリできるテーブルの名前。
名前	<code>security_admin</code> ロールを持つユーザーが変更できる自動アサインの名前。
GlideRecordSecure	このオプションを選択すると、このテーブルのすべてのクエリはアクセス制御リスト (ACL) の制限に従います。このオプションを選択しない場合: - このテーブルのクエリは、すべての ACL 制限を無視します。 - データアクセスを制限するには、各リモート選択肢変数に参照修飾子条件を指定する必要があります。
AccountSecure	このオプションを選択すると、このテーブルのすべてのクエリは、クエリを実行しているサービスアカウントの [会社] フィールドとテーブルの [会社] または [アカウント] フィールドに基づく結果を制限します。 注: このフラグは、フィールドの名前が <code>account</code>、<code>u_account</code>、<code>company</code>、または <code>u_company</code> である会社またはアカウントへの参照を持つテーブルでのみ使用できます。
簡単な説明	テーブルに関する追加情報。
フィルター	テーブルの基本条件を定義するフィルター条件。

5. **[Save (保存)]** をクリックします。

6. 移動先 サービスブリッジプロバイダー > アドミニストレーション > リモートカタログアイテム。

7. リモートレコードプロデューサーを選択し、**[編集]** をクリックします。

8. **[変数]** 関連リストで、**[新規]** をクリックします。

9. フォームで、フィールドに入力します。

リモート選択変数フォーム

フィールド	説明
レコードプロデューサーテーブル	フィールドを選択すると表示される自動選択テーブル。このテーブルは、フィールドにマッピングされていない場合は手動で選択できます。

フィールド	説明
タイプ	参照タイプ。
リモート選択が有効	リモート選択用に選択できるオプション。
カタログアイテム	リモートレコードプロデューサーの名前。
質問	コンシューマーのサービスポータルカタログレコードに表示される質問。
タイプ仕様	- この変数のコンシューマークエリに使用するリモート選択定義を含むリモート選択の参照。 - クエリ結果でコンシューマーに表示されるプライマリデータ値を含むリモート選択表示フィールド。 - クエリ結果でコンシューマーに表示されるセカンダリデータ値を含む、リモート選択の追加情報フィールド。 - 定義によって返されるデータを制限するために定義するフィルターオプションを含む参照修飾子の条件。

10. [Submit (送信)] を選択します。

タスクの結果

リモート選択変数が作成されます。

プロバイダーの サービスブリッジ でのリモートカタログの作成

プロバイダーは、リモートカタログを作成して、コンシューマーのタスク実行プロセスを自動化できます。

リモートカタログを使用することで、プロバイダーはインスタンスで共有カタログの開発を維持し、インスタンス内のネイティブカタログアイテムをコンシューマーに提供できます。

プロバイダーがリモートカタログを作成するプロセスは次のとおりです。

1. リモートカタログにリモートレコードプロデューサーを作成します。「[サービスブリッジ for Providers のリモートカタログにリモートレコードプロデューサーを作成する](#)」を参照してください。
2. リモートレコードプロデューサーの変数を作成します。「[サービスブリッジ for Providers でリモートレコードプロデューサーの変数を作成する](#)」を参照してください。
3. フローをレコードプロデューサーに関連付けます。

のリモートレコードプロデューサー サービスブリッジ

サービスブリッジ for Providers のリモートレコードプロデューサーは、コンシューマーインスタンスで公開されるサービス要求です。これにより、コンシューマーはサービスカタログを通じてプロバイダーサービスを要求できます。

レコードプロデューサーの概要

リモートレコードプロデューサーには、コンシューマーが要求を送信するために提供できる情報、または提供する必要がある情報を決定する変数が含まれています。リモートレコードプロデューサーが

コンシューマーのサービスカタログから送信されると、プロバイダーのインスタンスにプロバイダータスクレコードが生成され、[ケースを作成]、[インシデントを作成]、または [変更要求の作成] 実行タスクがトリガーされます。

タスクがプロバイダーのインスタンスで実行フローを移動すると、プロバイダーとコンシューマーの両方の ServiceNow インスタンスに更新が表示されます。

リモートレコードプロデューサーテーブルは、sc_cat_item_producerテーブルの拡張であり、sn_sb_pro_remote_requestテーブルを使用します。

次の例は、リモートレコードプロデューサーを作成するときに使用するフォームのサンプルを示しています。

リモートレコードプロデューサー

What it will contain

Short description

Description

Meta

Redirect to: Generated task record

Icon: Click to add...

Picture: Click to add...

Update Copy Edit Retire Try It

Related Links

Item Diagnostic
Show VA render issue
Run Patch Scan

Variables (1)

Consumer criteria (1)	Catalog UI Policies
for text	

Remote record producer = SGRRP-Cus Activate

Active	Remote consumer criteria	Domain
☒	ALL COMPANY	global

1 to 1 of 1

サービスブリッジ **for Providers** のリモートカタログにリモートレコードプロデューサーを作成するサービスブリッジ for Providers でリモートカタログを作成する一環として、リモートレコードプロデューサーを作成します。

始める前に

- カタログスコープが [グローバル] に設定されていることを確認します。
- 必要なロール: admin、sn_sb.admin

i 注:

admin ロールを持たないユーザーには、リモートレコードプロデューサーを変更および公開するためのカタログ admin ロールが付与されている必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > サービスブリッジプロバイダー > アドミニストレーション > リモートカタログアイテム。
2. [New] をクリックします。
3. フォームで、フィールドに入力します。

リモートレコードプロデューサーの新規レコードフォーム

フィールド	説明
名前	リモートレコードプロデューサーの名前。
アプリケーション	これは読み取り専用フィールドで、アプリケーションスコープに基づいてデフォルトで設定されています。
状況	リモートレコードプロデューサーのステータスを表示します。リモートレコードプロデューサーを作成すると、このフィールドは [ドラフト] ステータスに設定されます。 i 注: このフィールドは、リモートレコードプロデューサーを公開、アーカイブ、または廃止すると自動的に更新されます。
テーブル名	テーブル名は [プロバイダータスク] です。これは読み込み専用フィールドです。
フロー	提供されているデフォルトの サービスブリッジ フローのいずれかを選択するか、必要に応じて独自のフローを作成します。
アクティブ	これは読み取り専用フィールドで、[公開]、[廃止]、[アーカイブ]、または [削除] の各アクションに基づいて有効になります。
ペルソナ	このレコードプロデューサーにアサインするカタログペルソナ。
互換性	このフィールドはデフォルトで設定されます。プロバイダーが使用している サービスブリッジ バージョンが表示されます。コンシューマーが互換性のある サービスブリッジ バージョンを使用している場合は、プロバイダーインスタンスとコンシューマーインスタンス間でデータを同期できます。ただし、コンシューマーが互換性のあるバージョンを使用していない場合、対応する サービスブリッジ バージョンがアップグレードされるまで新しいエンタイトルメントをアクティブ化することはできません。
簡単な説明	レコードプロデューサーの簡単な説明。
説明	レコードプロデューサーの詳細な説明。

4. [アイコン] フィールドの横にあるリンクをクリックして、画像を添付します。

5. [画像] フィールドの横にあるリンクをクリックして、画像を添付します。

i 注:
不要になった画像は削除することもできます。

6. [Submit (送信)] を選択します。

7. 少なくとも 1 つの変数を追加します。

「[サービスブリッジ for Providers](#) でリモートレコードプロデューサーの変数を作成する」を参照してください。

8. コンシューマー基準を追加します。

9. [公開] をクリックしてリモートレコードプロデューサーを公開し、プロバイダーインスタンスとコンシューマーインスタンスで使えるようにします。

次のタスク

この公開されたリモートレコードプロデューサーの構成リビジョンを複数作成できます。構成リビジョンの作成方法の詳細については、「[構成のリビジョンを作成](#)」を参照してください。次の操作を実行することもできます。

- 構成リビジョンのアーカイブ: 「」を参照してください。 [構成リビジョンのアーカイブ](#)
- 構成のリビジョンのコピー: [構成リビジョンのコピー](#)を参照してください。
- 構成を廃止する: [構成の廃止](#)。
- 構成の削除: [構成の削除](#)を参照してください。

サービスブリッジ for Providers でリモートレコードプロデューサーの変数を作成する

サービスブリッジ for Providers アプリケーションでリモートレコードプロデューサー (RRP) の変数を作成します。

始める前に

必要なロール: admin

手順

1. 移動先 [すべて](#) > [サービスブリッジプロバイダー](#) > [アドミニストレーション](#) > [リモートカタログアイテム](#).
2. 変数を作成するレコードプロデューサーをクリックします。
3. 関連リストの [変数] タブをクリックし、[新規] をクリックします。
4. フォームで、フィールドに入力します。

変数の新規レコードフォーム

フィールド	説明
タイプ	サポートされている変数タイプは次のとおりです。 ○ 添付ファイル ○ 休憩 ○ チェックボックス ○ コンテナ終了 ○ コンテナ分割 ○ コンテナ開始 ○ 日付 ○ 日付/時刻 ○ 期間

フィールド	説明
	- メール - HTML - IP アドレス - ラベル - リストコレクター - 複数選択肢をルックアップ - 選択ボックスをルックアップ - マスク済み - 複数行テキスト - 複数選択肢 - 数値スケール - 参照 - 要求元 - リッチテキストラベル - 選択ボックス 1 行テキスト - URL - ワイドな 1 行テキスト - はい/いいえ サポートされていない変数を使用すると、サービスブリッジ が正しい形式でデータを統合できない可能性があります。
カタログアイテム	変数を使用するカタログアイテム。
アプリケーション	これは読み取り専用フィールドで、アプリケーションスコープに基づいてデフォルトで設定されています。
必須	注文プロセスの一部として変数を必須にするためのオプション。 i 注: この動作は、ページのロード時にのみ適用されます。これは、クライアント API を使用して変更できます。
アクティブ	これは読み取り専用フィールドで、[公開]、[廃止]、または [編集] の各アクションに基づいて有効になります。
順序	カタログアイテムページでの変数の配置順序。変数は上から下へ、最小順序値から最大順序値へと整理します。

フィールド	説明
	たとえば、順序値が 1 の変数は、順序値がより大きい他の変数よりも前に配置されます。
質問	関連情報を取得するためにカタログアイテムを注文しているユーザーに尋ねることができる質問。
名前	質問を識別するための名前。 注: このフィールドが空の場合、その値は、ブレーク、コンテナ分割、コンテナ終了を除くすべての変数タイプの [質問] フィールドに基づいて自動的に設定されます。
ツールヒント	ユーザーが変数を指したときに表示されるツールチップのテキストです。簡潔なメモを入力して質問の目的を説明します。
サンプルテキスト	ユーザーが値を入力する前に表示される質問フィールドのヒント。 次の変数にヒントを使用できます。 ○ IP アドレス ○ メール ○ URL ○ 1 行テキスト ○ ワイドな 1 行テキスト ○ 複数行テキスト ○ 日付 ○ 日付/時刻
タイプ仕様	変数のタイプに固有の値。 スクリプトを追加するには、[参照修飾子の条件を使用] で [詳細] を選択します。

5. オプション: 変数にスクリプトを追加します。

- a. [変数] フォームの [タイプ] ドロップダウン メニューで、[参照] を選択します。
- b. [タイプ仕様] タブで、[参照修飾子を使用] で [詳細] を選択します。
- c. [参照修飾子] テキストフィールドにスクリプトを追加します。

6. [Submit (送信)] を選択します。

このプロセスを繰り返して、同じリモートレコードプロデューサーの追加変数を作成します。

サービスブリッジ for Providers でのエンタイトルメントの作成

レコードプロデューサーに関連付けられたコンシューマー基準やその他の構成を使用して、サービスブリッジは適格なコンシューマーインスタンスにレプリケートされるエンタイトルメントレコードを自動的に生成します。

コンシューマー基準レコードは、リモートレコードプロデューサーやリモートタスク定義などのサービスブリッジコンテンツにサービスブリッジコンシューマーに資格を付与するために使用されます。コンシューマー基準を使用すると、コンシューマーが適切なサービスブリッジコンテンツにのみアクセスできるようにすることができます。コンシューマー基準を使用すると、単一の顧客または複数の顧客にコンテンツに明示的にエンタイトルメントを付与できます。

コンシューマー基準の設定方法の例をいくつか以下に示します。たとえば、コンテンツにエンタイトルメントを付与できます。

- 特定のコンシューマーに
- 特定のモデルのアクティブな販売済み製品を所有するすべてのコンシューマー。
- アクティブなサービス契約を結んでいるすべてのコンシューマー。

サービスブリッジエンタイトルメントプロセスは、スケジュール済みジョブとして毎晩実行されます。エンタイトルメントプロセス中に、コンシューマー基準レコードの条件ビルダーで定義されたフィルターが選択したテーブルに適用され、条件に一致するレコードが検索されます。一致するレコードが見つかった場合、関連付けられたサービスブリッジコンテンツはコンシューマーにエンタイトルメントされます。たとえば、アクティブな販売済み製品を持つコンシューマーが注文を作成すると、適切なサービスブリッジコンテンツが自動的にコンシューマーに付与されます。エンタイトルメントは毎日更新され、クエリ対象のテーブルのデータが変更された場合の変更を反映します。

福利厚生

コンシューマーは、資格のあるコンテンツを表示して要求できます。スケジュール済みジョブは夜間に実行され、コンシューマー基準によってクエリされたテーブルまたはレコードに加えられた変更に基づいてエンタイトルメントを更新します。さらに、エンタイトルメントは、更新が行われるとすぐにチェックされます。

サービスブリッジエンタイトルメントは、次の方法で更新できます。

- リモートレコードプロデューサーでコンシューマー基準を定義する。
- サービスブリッジに新しいコンシューマーを登録します。
- コンシューマー接続レコードまたはプロバイダーレコードの [エンタイトルメントを更新] 関連リンクをクリックします。

コンシューマー基準の定義

コンシューマー基準を定義するには、「[コンシューマー基準の作成](#)」を参照してください。

コンシューマー基準の作成

レコードプロデューサーに関連付けられたコンシューマー基準やその他の構成を使用して、サービスブリッジは適格なコンシューマーインスタンスにレプリケートされるエンタイトルメントレコードを自動的に生成します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [コンシューマー基準] 関連テーブルで、[新規] を選択します。
2. [条件] フィールドで、[リストから参照] アイコンを選択し、既存の条件を選択するか、新しい条件を作成します 🔍。

Example: コンシューマー基準

次の例は、コンシューマー基準の構成方法を示しています。

このコンシューマー基準を使用して、製品名に「ラップトップ - **DaaS**」が含まれるアクティブな販売済み製品を持つサービスブリッジ顧客にコンテンツ資格を付与できます。

The screenshot shows the 'Customer Condition' form for a new record. The name is 'Business Laptop Sold Product' and it is active. The condition is defined for the 'Account' table, specifically on the 'Sold Product [sn_install_base_so...]' field. The condition logic is: 'All of these conditions must be met'. The first condition is 'Product contains Laptop - DaaS'. The second condition is 'State is Active'. There are buttons to 'Add Filter Condition' and 'Add "OR" Clause'. A 'Customer field' dropdown is set to 'Account'.

このコンシューマー基準は、Boxeo サービスブリッジ コンシューマーにコンテンツの権利を付与します。これは、サービスブリッジ 接続テーブルのクエリに使用され、コンシューマーとして Boxeo でフィルタリングされます。

The screenshot shows the 'Customer Condition' form for a new record. The name is 'Boxeo Customer' and it is active. The condition is defined for the 'Company' table, specifically on the 'Consumer connection [sn_sb_pr...]' field. The condition logic is: 'All of these conditions must be met'. The first condition is 'Company is Boxeo'. There are buttons to 'Add Filter Condition' and 'Add "OR" Clause'. A 'Customer field' dropdown is set to 'Company'.

このコンシューマー基準は、契約モデルが印刷ソリューションで、契約タイプがサービス契約であるアクティブな契約を持つ サービスブリッジ コンシューマーにコンテンツの権利を付与します。

The screenshot shows the 'Customer Condition' form for a new record. The name is 'Print Service Contract' and it is active. The condition is defined for the 'Account' table, specifically on the 'Contract [ast_contract]' field. The condition logic is: 'All of these conditions must be met'. The first condition is 'Contract model is Print Solution'. The second condition is 'Contract type is Service Contract'. The third condition is 'Active is true'. There are buttons to 'Add Filter Condition' and 'Add "OR" Clause'. A 'Customer field' dropdown is set to 'Account'.

リモートレコードプロデューサーでの変数セットの使用

リモートレコードプロデューサーで単一行および複数行の変数セットを使用します。

変数セットを使用すると、複数のカタログアイテムと注文ガイドで再利用できる変数のコレクションを作成できます。変数セットを使用すると、多くのカタログアイテムに対して同じ変数を個別に作成する必要がないため、時間を節約できます。また、変数を変更する必要がある場合は、変数セットを変更でき、その変更は、その変数セットに関連付けられているすべてのリモートレコードプロデューサーに反映されます。

プロバイダーは、変数セットを作成してリモートレコードプロデューサーに関連付けることができます。これらの変数セットに加えられた変更は、コンシューマーが受ける資格のあるリモートレコードプロデューサーに自動的に同期されます。次のタイプの変数セットを作成できます。

- 単一行の変数セット: 単一行の変数セットを使用して、グループ化された変数からデータをキャプチャします。
- 複数行の変数セット: 複数行の変数セットを使用して、エンティティグループのグリッドレイアウトで変数データをキャプチャします。たとえば、従業員の再編成中の人事では、単一のリモートレコードプロデューサーで、従業員グループの部門やマネージャーなどの関連情報をキャプチャする必要があります。

注:

- サポートされていない変数タイプ (カスタム、ラベル付きカスタム、UIPage) の変数を含む変数セットは、無効な変数が削除されるまで同期されません。
- スクリプティングのある変数または UI ポリシーを含む変数セットは、すべてのスクリプティングが削除されるまで同期されません。
- 無効な変数セットを含むリモートレコードプロデューサーは公開できません。リモートレコードプロデューサーを公開するには、検証の問題を解決するか、リモートレコードプロデューサーから無効な変数セットのアサインを解除する必要があります。

変数セットとその使用方法の詳細については、[Service catalog variable sets](#)  を参照してください。

リモートレコードプロデューサーのサービスブリッジで変数セットを作成する

サービスブリッジ for Providers アプリケーションでリモートレコードプロデューサーの変数セットを作成します。

始める前に

必要なロール: admin

手順

1. 移動先 **すべて > サービスブリッジプロバイダー > アドミニストレーション > リモートカタログアイテム**.
2. 変数を作成するレコードプロデューサーをクリックします。
3. 関連リストの [変数セット] タブをクリックし、[新規] をクリックします。
4. 次のいずれかを選択します。
 - 単一行の変数セット: グループ化された変数を含む変数セットを作成します。[タイプ] フィールドが [単一行] に設定されている。
 - 複数行の変数セット: グリッドレイアウトで変数データをキャプチャする複数行の変数セットを作成します。[タイプ] フィールドが [複数行] に設定されている。
5. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
タイトル	変数セットのタイトル。
内部名	内部使用のための変数セット名。このフィールドを空白のままにすると、[タイトル] フィールドに基づいて自動入力されます。
順序	変数セットの順序番号。
タイプ	変数セットのタイプ。利用可能な選択肢は次のとおりです。 ○ 単一の行 ○ 複数の行
アプリケーション	この変数セットを使用できるアプリケーション。
タイトル表示	選択した場合、変数セットの右側にタイトルおよび展開可能なヘッダーを追加します。
変数セットの属性	複数行の変数セットを設定するための属性。 <i>max_rows</i> 属性を使用して、複数行の変数セットに追加できる行の数に制限を設定します。たとえば、フィールド値として <i>max_rows = 1</i> を指定します。
レイアウト	レイアウト表示。 [1 列幅] または [2 列幅] 、 [両側交互] または [2 列幅] 、 [片側] 、 [他方側] に設定します。
説明	変数セットの説明。

6. 右クリックして [保存] を選択します。

7. そのセットで使用する変数を作成します。

a. [変数] 関連リストで、[新規] をクリックします。

b. [サービスブリッジ for Providers](#) でリモートレコードプロデューサーの変数を作成するに記載されている手順に従って、変数を作成します。

i 注:

複数行の変数セットの場合:

- 含まれる変数はテーブルの列として表示されます。
- 列の順序は、変数セットで定義された変数の順序です。

8. **[Submit (送信)]** を選択します。

上記の手順を繰り返して、同じリモートレコードプロデューサーに追加の変数セットを作成します。

変数セットとレイアウトの詳細については、「[Variable set layout](#)」を参照してください。

プロバイダー向け サービスブリッジ でのリモートタスク定義の作成

プロバイダーは、リモートタスクの割り当てをトリガーするリモートタスク定義 (RTD) を作成します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて

リモートタスクを作成する前に、まず RTD を作成する必要があります。リモートタスクは、定義した RTD に基づいて生成されます。RTD とリモートタスクのしくみの詳細については、「[リモートタスク](#)」を参照してください。

手順

1. 移動先 **すべて** > サービスブリッジプロバイダー > アドミニストレーション > リモートタスク定義.
2. **[New (新規)]** を選択します。
3. フォームで、フィールドに入力します。

リモートタスク定義フォーム

フィールド	説明
名前	リモートタスク定義レコードの名前。
アプリケーション	これは読み取り専用フィールドで、アプリケーションスコープに基づいてデフォルトで設定されています。
状況	リモートタスク定義のステータスを表示します。リモートタスク定義を作成すると、このフィールドは [ドラフト] ステータスに設定されます。 注: このフィールドは、リモートタスク定義を公開、アーカイブ、または廃止すると自動的に更新されます。
プロバイダーテーブル	リストから選択した任意のタスクテーブル。たとえば、ケーステーブルまたはインシデントテーブルを選択できます。
コンシューマーテーブル	リストから選択した任意のタスクテーブル。たとえば、ケーステーブルまたはインシデントテーブルを選択できます。
互換性	このフィールドはデフォルトで設定されます。プロバイダーが使用している サービスブリッジバージョンが表示されます。コンシューマーが互換性のある サービスブリッジ バージョンを使用している場合は、プロバイダーインスタンスとコンシューマーインスタンス間でデータを同期できます。ただし、コンシューマーが互換性のあるバージョンを使用していない場合、対応する サービスブリッジ バージョンがアップグレードされるまで、新しいリモートタスク定義をアクティブ化することはできません。
添付ファイルを送信	このチェックボックスをオンにすると、添付ファイルが親レコードに追加されると、リモートタスクに送信されます。

フィールド	説明
簡単な説明	このリモートタスク定義に関する簡単な情報。
説明	このリモートタスク定義に関する詳細情報。

4. **[Submit (送信)]** を選択します。

5. この新しいリモートタスク定義レコードを開きます。

6. **[受信フィールド]** 関連タブで、**[新規]** を選択します。

サービスブリッジ バージョン 2.2.x 以降、ソースフィールドとターゲットフィールドをコメントとして設定した送信フィールドレコードが作成されます。このレコードにより、RTD のコメント間のマッピングが可能になります。

7. フォームで、フィールドに入力します。

受信フィールドを使用すると、リモートタスクが作成または更新されたときに、コンシューマーのインスタンスからデータを受信できます。



注:

受信フィールドの値が更新されると、更新された情報が親レコードの作業メモに表示されます。

受信フィールドフォーム

フィールド	説明
フィールドラベル	リモートタスクフォームに表示されるフィールドラベル。
フィールド名	リモートタスクフローとスクリプトで使用されるフィールド名。
最大長	ソースフィールド名の最大長。
同期タイミング	リモートタスクの親レコードのターゲットフィールドを直接更新するタイミングを指定できます。次を選択できます。 ○ 挿入する: リモートタスクが最初に挿入されたときのみ、リモートタスクの親レコードのターゲットフィールドを更新します。 ○ 挿入または更新: リモートタスクが更新されるたびに、リモートタスクの親レコードのターゲットフィールドを更新します。 ○ なし: 受信フィールドは、リモートタスクの親レコードのターゲットフィールドを直接更新しません。たとえば、このフィールドを、ターゲットフィールドを更新する前にフローを使用して受信値を変換するステータスマッピングに使用できます。 注: ここで選択したオプションに関係なく、受信フィールドが更新されるたびに、変更が親レコードの作業メモに反映されます。

フィールド	説明
[ソースマッピング] タブ	仮想フィールドマッピングを定義するために [仮想] チェックボックスをオンにした場合、このタブは表示されません。
ソーステーブル (読み取り専用)	リモートタスク定義の作成時に選択したコンシューマーテーブル。
ソースフィールド	別の ServiceNow インスタンスに送信されるソーステーブルのフィールド。 ソースフィールドでは、 関連するテーブルのデータにドット連結  することができます。これは、ServiceNow インスタンス間で参照データが利用できない場合に便利です。たとえば、変更インシデント (CI) の複数の受信マッピングを作成して、名前、クラス、IP アドレス、資産タグを含めることができます。
[ターゲットマッピング] タブ	次の条件でのみ表示されます。 - 同期するタイミング: [挿入] または [挿入または更新] を選択します。 - 仮想:仮想フィールドマッピングを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
ターゲットテーブル (読み取り専用)	リモートタスク定義の作成時に選択したプロバイダーテーブル。
ターゲットフィールド	別の ServiceNow インスタンスに送信されるターゲットテーブルのフィールド。 注: 仮想フィールドマッピングを定義する場合、ターゲットテーブルで選択したフィールドはソーステーブルに存在しません。
アクティブ	このフィールドはデフォルトで有効になっています。
仮想	仮想受信フィールドマッピングを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。仮想フィールドは、ターゲットテーブルには存在するが、ソーステーブルには存在しないフィールドです。 ターゲットテーブルに存在するフィールドがソーステーブルに含まれない場合、フィールドは仮想フィールドとして設定されます。仮想フィールドに指定された値は、ソースインスタンスからターゲットインスタンスに渡されます。コンシューマーは、リモートタスクを作成してデータを同期し、関連するターゲットタスクレコードの仮想フィールドの値を更新できます。

フィールド	説明
	ターゲットフィールドは、 での変換の作成サービスブリッジ で説明されている仮想受信オプションまたは <code>updateVirtualField</code> API を使用して更新できます。

8. [Submit (送信)] を選択します。

9. [送信フィールド] 関連タブで、[新規] をクリックします。

サービスブリッジ バージョン 2.2.x 以降、ソースフィールドとターゲットフィールドをコメントとして設定した送信フィールドレコードが作成されます。このレコードにより、RTD のコメント間のマッピングが可能になります。

10. フォームで、フィールドに入力します。

送信フィールドを使用すると、リモートタスクが作成または更新されたときに、コンシューマーのインスタンスにデータを送信できます。

送信フィールドフォーム

フィールド	説明
フィールドラベル	リモートタスクフォームに表示されるフィールドラベルの名前。
フィールド名	リモートタスクフローとスクリプトで使用されるフィールド名。
最大長	フィールド名の最大長。
同期タイミングの提案	ユーザー(プロバイダー)は、リモートタスクの親レコードのターゲットフィールドを直接更新するタイミングをコンシューマーに提案できます。コンシューマーは、定義をアクティブ化する前にこの設定を変更できます ○ 挿入する： リモートタスクが最初に挿入されたときのみ、リモートタスクの親レコードのターゲットフィールドを更新します。 ○ 挿入または更新: リモートタスクが更新されるたびに、リモートタスクの親レコードのターゲットフィールドを更新します。 ○ なし: 受信フィールドは、リモートタスクの親レコードのターゲットフィールドを直接更新しません。たとえば、このフィールドを、ターゲットフィールドを更新する前にフローを使用して受信値を変換するステータスマッピングに使用できます。
既存のエントリを同期	接続が確立されたときに、既存のすべてのコメントをターゲットタスクに同期できるようにするオプション。有効にすると、リモートタスクの作成時に、接続前に作成されたコメントが同期プロセスに含まれます。

フィールド	説明
	i 注: この機能は サービスブリッジ バージョン 2.2.x から利用可能です。
[ソースマッピング] タブ	仮想フィールドマッピングを定義するために [仮想] チェックボックスをオンにした場合、このタブは表示されません。
ソーステーブル (読み取り専用)	リモートタスク定義の作成時に選択したプロバイダーテーブル。
ソースフィールド	別の ServiceNow インスタンスに送信されるソーステーブルのフィールド。 ソースフィールドでは、関連するテーブルのデータにドット連結  することができます。これは、ServiceNow インスタンス間で参照データが利用できない場合に便利です。たとえば、変更インシデント (CI) の複数の受信マッピングを作成して、名前、クラス、IP アドレス、資産タグを含めることができます。 i 注: サービスブリッジバージョン 2.2.x から、
[ターゲットマッピング] タブ	次の条件でのみ表示されます。 - 同期するタイミング: [挿入] または [挿入または更新] を選択します。 - 仮想:仮想フィールドマッピングを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
ターゲットテーブル (読み取り専用)	リモートタスク定義の作成時に選択したコンシューマーテーブル。
ターゲットフィールド	別の ServiceNow インスタンスに送信されるターゲットテーブルのフィールド。 i 注: 仮想フィールドマッピングを定義する場合、ターゲットテーブルで選択したフィールドはソーステーブルに存在しません。
アクティブ	このフィールドはデフォルトで有効になっています。
仮想	仮想受信フィールドマッピングを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。仮想フィールドは、ターゲットテーブルには存在するが、ソーステーブルには存在しないフィールドです。

フィールド	説明
	ターゲットテーブルに存在するフィールドがソーステーブルに含まれない場合、フィールドは仮想フィールドとして設定されます。仮想フィールドに指定された値は、ソースインスタンスからターゲットインスタンスに渡されます。 ターゲットフィールドは、での変換の作成 サービスブリッジ で説明されている仮想送信オプションを使用するか、<code>updateVirtualField</code> API を使用して更新できます。

11. [Submit (送信)] を選択します。

12. [コンシューマー基準] 関連タブで、[新規] をクリックします。

13. フォームで、フィールドに入力します。

コンシューマー基準を使用すると、これらのリモートタスク定義を使用できるコンシューマーを管理できます。

[コンシューマー基準] フォーム

フィールド	説明
コンシューマー条件	このリモートタスク定義に付与する顧客、会社、またはアカウント。
リモートタスク定義	このリモートタスク定義レコードの名前。この名前は自動入力されます。

コンシューマー基準の詳細については、「[サービスブリッジ for Providers でのエンタイトルメントの作成](#)」を参照してください。

14. [公開] をクリックします。

リモートタスク定義を公開すると、リモートタスク変数が自動的に作成されます。これらの変数は、表示される受信フィールドのデータ変数であり、リモートタスクでアクセスできます。

タスクの結果

インスタンスにリモートタスク定義レコードが作成されます。このレコードは顧客のインスタンスとも同期され、コンシューマーのインスタンスでのアクティブ化の処理待ちになっています。[リモートタスク定義の自動アクティブ化 (**Auto activate remote task definition**)] フィールドがコンシューマーによって有効になっている場合、リモートタスク定義はコンシューマーのインスタンスで自動的にアクティブ化されます。

次のタスク

この公開されたリモートタスク定義の複数の構成リビジョンを作成できます。構成リビジョンの作成方法の詳細については、「[構成のリビジョンを作成](#)」を参照してください。次の操作を実行することもできます。

- 構成リビジョンのアーカイブ: 「」を参照してください。 [構成リビジョンのアーカイブ](#)
- 構成のリビジョンのコピー: [構成リビジョンのコピー](#)を参照してください。

- 構成を廃止する: [構成の廃止](#)。
- 構成の削除: [構成の削除](#)を参照してください。

関連情報

リモートタスク

サービスブリッジ **for Providers** のワークフロースタジオを使用したリモートタスクの作成

プロバイダーは、ワークフロースタジオを使用して顧客のリモートタスクをプロアクティブに作成します。

始める前に

必要なロール: admin

手順

1. 移動先 **すべて** > フローデザイナー。
2. フローデザイナーのランディングページのメインヘッダーで、**新規** > フロー。
3. [フロープロパティ] ウィンドウで、次のフィールドに入力します。

フロープロパティフィールド

フィールド	アクション
フロー名	フローの名前を入力します
説明	フローの説明
アプリケーション	グローバル
ドメイン	グローバル
保護	なし
実行方法	システムユーザー

4. [トリガー] セクションで [トリガーを追加] を選択します。
5. [トリガー] セクションで、次のフィールドに入力し、[完了] をクリックします。

トリガーセクションフィールド

フィールド	値
トリガー	作成済みまたは更新済み。
テーブル	コンシューマー用に作成するテーブル名。たとえば、ケース [sn_customerservice_case] などです。
条件	フィルターの詳細。たとえば、Account is consumer-name です。
トリガーを実行	更新ごと

i 注:

[詳細オプション] フィールドの値は変更しないでください。

6. [アクション] セクションで [アクション、フローロジック、またはサブフローを追加] を選択します。
7. クリック アクション > プロバイダー向け **Service Bridge** > コンシューマーのリモートタスクを作成します。
8. 次のフィールドに入力します。

フィールド	値
アクション	コンシューマーのリモートタスクを作成します
タスクレコード [タスク]	トリガー・レコードが作成または更新された・レコード
リモートタスク定義レコード	リストからリモートタスク定義を選択します。

9. [完了] を選択し、[保存] をクリックします。

タスクの結果

リモートタスクが (プロバイダーの) ServiceNow インスタンスで作成され、コンシューマーの ServiceNow インスタンスで同期されます。

での変換の作成 サービスブリッジ

プロバイダーまたはコンシューマーは、 サービスブリッジ で変換を作成して、接続されたインスタンス間でタスクを統合します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

次の手順では、プロバイダーの変換プロセスについて説明します。コンシューマーは すべて > サービスブリッジコンシューマー > 変換 そして同じプロセスに従います。

手順

1. 移動先 すべて > サービスブリッジプロバイダー > アドミニストレーション > 変換。
2. **[New]** をクリックします。
3. フォームで、フィールドに入力します。

変換フォーム

フィールド	説明
番号	変換レコードの自動生成された番号。
会社	この変換を適用できるコンシューマー名。
すべての会社	これを選択すると、同じ会社レベルの変換を持つ会社を除くすべての会社に対して変換が実行されます。 このフィールドを使用して、すべての会社に適用できるデフォルトの変換定義を作成します。 [すべての会社] フィールドでは、類似の要件がある場合でも、顧客アカウントごとに特定

フィールド	説明
	の変換を定義する必要がなくなります。デフォルトの定義を使用して、すべての会社の特定のフィールドを同時に変換できます。 グローバル変換は、構成に一致し、特定の变換がまだ定義されていない会社にも適用されます。同じ構成の会社固有の変換が既に存在する場合は、グローバル変換が上書きされます。
タイプ	○ シンプル: フィールドの各インスタンスに既知で安定した選択リストがある場合に使用されます。受信値と送信値を照合するために、変換ラインの関連リストが作成されます。 ○ 詳細: 新しい値を決定するためにスクリプトを必要とする複雑な基準に使用されます。 ○ 仮想受信: 仮想受信フィールドを変換するために使用されます。新しい値を決定するためのスクリプトが必要です。 ○ 仮想送信: 仮想送信フィールドを変換するために使用されます。新しい値を決定するためのスクリプトが必要です。
受信	この変換の受信変換を有効にするオプション。このオプションは、[タイプ] で [簡易] または [詳細] を選択した場合にのみ使用できます。
アウトバウンド	この変換の送信変換を有効にするオプション。このオプションは、[タイプ] で [簡易] または [詳細] を選択した場合にのみ使用できます。
プロバイダーテーブル	プロバイダーのタスクテーブルを指定するオプション。例: ケース。
コンシューマーテーブル	コンシューマーのタスクテーブルを指定するオプション。たとえば、[インシデント] です。
プロバイダーフィールド	プロバイダーのフィールドを指定するオプション。例: 州。このフィールドは、[タイプ] で [簡易] または [詳細] を選択した場合にのみ使用できます。
コンシューマーフィールド	コンシューマーのフィールドを指定するオプション。例: 州。このフィールドは、[タイプ] で [簡易] または [詳細] を選択した場合にのみ使用できます。
仮想フィールド	[タイプ] フィールドが [仮想受信] または [仮想送信] に設定されている場合、このフィールドは、この変換によって入力する必要がある仮想フィールドを参照できます。

4. **[Save (保存)]** をクリックします。

5. 次のいずれかを選択します。

- a. 簡単: [ラインの変換] 関連リストで [新規] をクリックし、フォームのフィールドに入力します。

[線の変換] フォーム

フィールド	説明
プロバイダーラベル	プロバイダーの選択肢ラベルを指定するオプション。たとえば、[オープン] などです。
プロバイダー値	プロバイダーの選択値を指定するオプション。例:10。
顧客ラベル	顧客の選択ラベルを指定するオプション。たとえば、「進捗状況」などです。
顧客価値	顧客の選択値を指定するオプション。例では2。

i 注:

変換マッピング支援機能を使用して、プロバイダーテーブルとコンシューマーテーブル間の変換マッピングを自動的に生成できます。詳細については、「[Automate transforms with Now Assist for TMT](#)」を参照してください。

- b. 詳細: 次の例に示すように、スクリプトを使用して送信と受信のラベルと値を定義します。

```
output.value=input.value;
output.label=input.label;

var ci=new GlideRecord('cmdb_ci');

if(direction=='inbound'){
    if(ci.get('correlation_id',input.value)){
        output.value=ci.sys_id+";
        output.label=ci.getDisplayValue();
    }
}
if (direction=='outbound'){
    if(ci.get(input.value)){
        if(ci.correlation_id){
            output.value=ci.correlation_id+";
            output.label=input.label;
        }
    }
}
```

- c. 仮想受信: 次の例に示すように、スクリプトを使用して受信ラベルと値を決定します。

```
var inputArr = input.value.split(',');
var outputValues = [];
var outputLabels = [];
for (i in inputArr) {
    getInstanceID(inputArr[i]);
}
output.value = outputValues+";
output.label = outputLabels+";
```

```
function getInstanceID(name) {
    var gr = new GlideRecord('cmdb_ci_server');
    if (gr.get('name', name)) {
        outputValues.push(gr.sys_id+");
        outputLabels.push(name);
    }
}
```

- d. 仮想送信:次の例に示すように、スクリプトを使用して送信ラベルと値を決定します。

```
/*
** The 'input' object contains the original value and label
** 'direction' contains an 'inbound' or 'outbound' value to determine transform direction
** 'object_data' contains the Remote Task GlideRecord
** It is required to set the variables 'output.value' and 'output.label' with your script.
*/
output.value = 'condev,conprod';
output.label = 'condev,conprod';
```

6. [Submit (送信)] を選択します。

7. 変換フォームで、[アクティブ化] をクリックします。

タスクの結果

変換レコードが ServiceNow インスタンスに作成されます。変換に一致するリモートタスクの受信フィールドまたは送信フィールドには、それらが自動的に使用されます。詳細については、「[プロバイダー向け サービスブリッジ でのリモートタスク定義の作成](#)」を参照してください。

認定ユーザーの設定を更新

プロバイダーは、コンシューマーのインスタンスで作成された認定ユーザーの設定を構成できます。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 **すべて** > **サービスブリッジプロバイダー** > **コンシューマー**。
2. 適切なコンシューマー接続フォームを開きます。
3. [関連リンク] で、[設定] タブをクリックし、表示されたレコードを開きます。
4. [認定ユーザー] タブをクリックします。
 - 最大承認ユーザー数:このフィールドは、[承認済みユーザーを制限] フラグが有効になっている場合にのみ使用できます。コンシューマーのインスタンスで定義できる認定ユーザーの最大数を指定します。
 - 承認済みユーザーの制限:コンシューマーのインスタンスで承認済みユーザーの数を制限する場合は、このチェックボックスをオンにします。
 - 認定ユーザーの自動承認:このチェックボックスをオンにすると、コンシューマーインスタンスで作成された認定ユーザーが自動的に承認されます。
5. [Update (更新)] をクリックします。

注:

[リモートレコードプロデューサー] タブと [リモートタスク定義] タブで定義された設定は表示できますが、変更することはできません。

リンクを有効化

マジックリンクを使用すると、コンシューマーユーザーは、手動でログインしなくてもプロバイダーインスタンス内のリンクされたリソースに直接アクセスできます。

始める前に

必要なロール:sn_sb.admin

手順

1. 移動先 **すべて > サービスブリッジプロバイダー > コンシューマー**.
2. 適切なコンシューマー接続フォームを開きます。
3. [関連リンク] で、[設定] タブをクリックし、表示されたレコードを開きます。
4. [マジックリンク] タブで、次の手順を実行します。

フィールド	説明
リンクを有効化	マジックリンク機能を有効にするオプション。有効にすると、マジックリンクは、タスクを完了するためにコンシューマーユーザー (リモートユーザー) をプロバイダーインスタンスにルーティングします。
シングルユーザーモード	プロバイダーインスタンスへのアクセス時にコンシューマーユーザーを特定のユーザーとして認証できるようにするオプション。
リダイレクトタイムアウト	コンシューマーユーザーをプロバイダーインスタンスにリダイレクトするのにかかる秒数を指定するオプション。デフォルト値は 5 で、上限は 30 です。 注: リダイレクトタイムアウトは、コンシューマーインスタンスでのみ設定できます。プロバイダーインスタンスの読み取り専用フィールドです。リダイレクトタイムアウト値が 0 または空の場合、コンシューマーユーザーはローダー UI なしでプロバイダーインスタンスに自動的にリダイレクトされます。

5. [Update (更新)] をクリックします。

プロバイダーの サービスブリッジ の使用

プロバイダーとして、サービスブリッジを使用してサービスカタログから要求を送信し、ServiceNow インスタンスから受注処理を追跡する方法を学びます。

このセクションでは、以下について説明します。

- [サービスブリッジコンシューマーを登録する](#)
- [サービスブリッジ リモートカタログアイテム](#)
- [でのプロアクティブサービスブリッジケース通知 サービスブリッジ](#)
- [サービスブリッジタスクにスクラッチパッドを使用する](#)

サービスブリッジコンシューマーを登録する

サービスブリッジ に新しいコンシューマーを登録すると、プロバイダーとコンシューマーの間にインスタンス間の統合が確立されます。

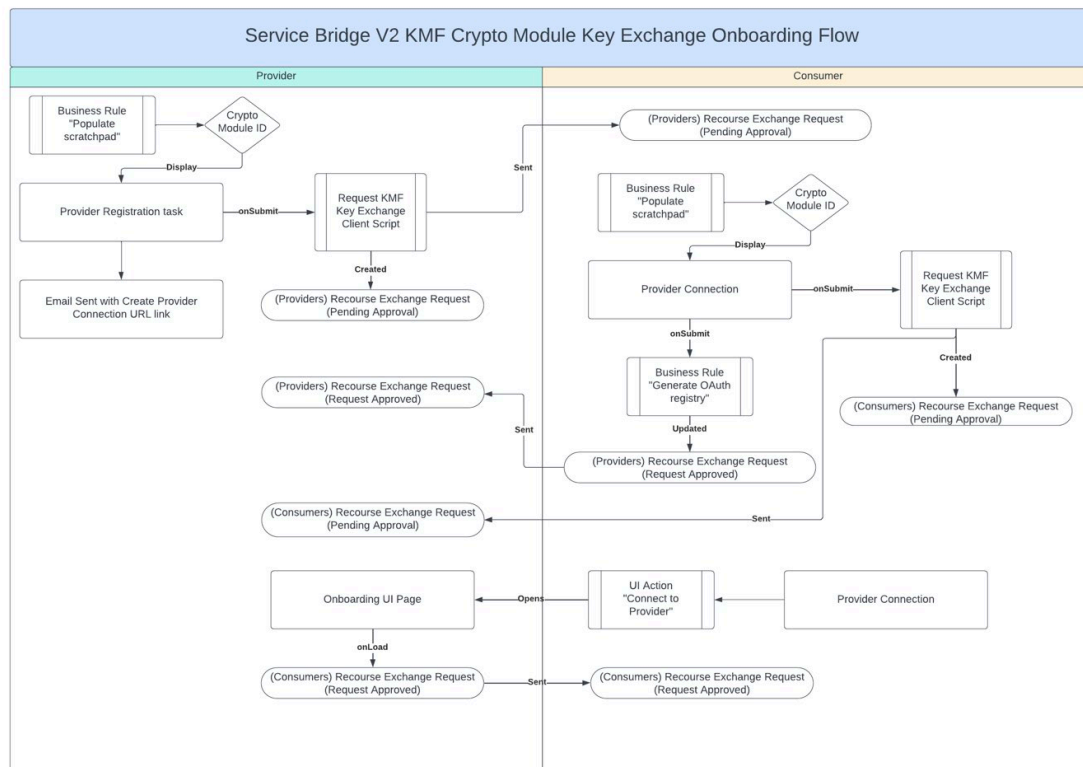
始める前に

- 必要なロール：admin
- プロバイダーレコードが作成されている必要があります。「[サービスブリッジプロバイダーレコードの設定](#)」を参照してください。
- コンシューマーの会社またはアカウントがプロバイダーのインスタンスに存在し、sn_sb_pro.consumer ロールを持つユーザーまたは連絡先が会社に関連付けられている必要があります。本番インスタンスの場合、ユーザーは登録メールを受信するための有効なメールアドレスを持っている必要があります。
- 次を実行します：キー管理 > 健全性 (診断) を使用して、キー管理フレームワークの健全性チェックに合格していることを確認します。健全性診断にアクセスするには、アドミニストレーターに sn_kmf.admin および sn_kmf.cryptographic_manager ロールが必要です。アドミニストレーターにアクセス権がない場合は、「[Assign Key Management Framework roles](#)」の指示に従って必要なロールを付与してください。

このタスクについて

接続先の会社とインスタンスの登録タスクを作成して、新しいコンシューマーを登録します。本番インスタンスまたはメール送信が有効になっているその他のインスタンスでこの登録タスクが作成されると、会社の連絡先にメールが送信されます。メール送信が有効になっていない場合、プロバイダーアドミニストレーターは登録タスクのコメントからリンクをコピーしてコンシューマーアドミンに送信できます。このメールには、コンシューマーが登録プロセスを完了するための手順とリンクが含まれています。

次の図は、オンボーディングフローと、サービスブリッジ プロバイダーとコンシューマーインスタンス間のデータ交換を示しています。



i 注:

デモンストレーションの目的で 2 つのインスタンスを設定する場合、コンシューマーインスタンスから登録を完了しようとするとき、コンシューマー連絡先がプロバイダーインスタンスに現在ログインしているユーザーと一致することを確認することが重要です。コンシューマーインスタンスで [プロバイダーに接続] オプションを選択すると、プロバイダーインスタンスに OAuth ページが開き、コンシューマーアドミンはそこで OAuth トークンを認証する必要があります。登録タスクにリストされている連絡先がログインしているユーザーと一致しない場合、このプロセスは失敗します。

手順

1. 移動先 **すべて > サービスブリッジプロバイダー > コンシューマー登録** をクリックし、[新規] をクリックします。

2. 以下の詳細を入力します。

- 登録するコンシューマーインスタンスに関連付けられている会社を選択します。
- 選択した会社に関連付けられている連絡先の詳細を選択します。

i 注:

この連絡先はコンシューマーインスタンスのアドミンユーザーである必要があります。そうでない場合、登録プロセスを完了できません。プロバイダーインスタンスでは、サービスブリッジコンシューマーロールのみが必要です。

- [URL] フィールドの ロック アイコンをクリックし、コンシューマー ServiceNow インスタンスの URL を入力します。

3. [Save (保存)] をクリックします。

メール送信が有効になっている場合、メールが生成され、登録時に指定されたコンシューマー連絡先に送信されます。そうでない場合、アドミンは作業メモからリンクをコピーし、手動でコンシューマーアドミニストレーターに送信する必要があります。コンシューマー連絡先は、[プロバイダーへの登録](#) に記載されている手順に従って、コンシューマーインスタンスの登録プロセスを完了する必要があります。

サービスブリッジコンシューマーのオフボーディング

オンボーディングされたコンシューマーをオフボーディングし、関連するすべてのレコードを削除します。

始める前に

必要なロール: admin、sn_sb.admin

手順

1. 移動先 **すべて > サービスブリッジプロバイダー > コンシューマー**。

2. [番号] 列を選択して、コンシューマー接続レコードを開きます。

3. フォームで [コンシューマーのオフボード] 関連リンクを選択します。

このアクションによってこの接続がオフボードになり、関連するすべての接続レコードが削除されることを示す確認メッセージが表示されます。

4. [OK] を選択してコンシューマー接続をオフボードします。

5. 関連するすべてのタスクを削除する場合は、確認メッセージで [この接続の既存のタスクをすべて削除する] チェック ボックスをオンにし、表示されるダイアログ ボックスに「削除」と入力して [OK] を選択します。

コンシューマーがオフボーディングされ、すべての関連データが削除されます。

タスクの結果

次のテーブルが削除されます。

- 接続テーブル:
 - ih_sync_capture_definition
 - ih_sync_outbound_definition
 - ih_sync_inbound_definition
 - ih_sync_process_event
 - ih_sync_remote_system
 - http_connection
 - sys_user
 - sys_user_has_role
 - sys_alias
 - oauth_2_0_credentials
 - oauth_credential
 - oauth_requestor_profile
 - oauth_entity_profile
 - oauth_entity
 - sn_sb_rps_connection
 - sn_transport_queue
 - sn_transport_profile
 - sn_sb_pro_registration
 - sn_sb_pro_service_bridge_settings
 - sn_sb_pro_authorized_user
 - sn_sb_pro_consumer_connection
 - sn_sb_pro_entitlement
- タスク (次のテーブルのレコードは、既存のタスクをすべて削除することを選択した場合にのみ削除されます)
 - sn_sb_pro_provider_task
 - sn_sb_pro_remote_task

サービスブリッジ リモートカタログアイテム

サービスブリッジ リモートカタログアイテムはコンシューマーの ServiceNow インスタンスから注文され、各インスタンスでプロバイダタスクが作成されます。プロバイダーのエージェントは、ServiceNow インスタンスでこれらのプロバイダタスクを実行します。これらのタスクのデータはインスタンス間で同期されるため、両方で進行状況を追跡できます。

リモートカタログアイテム サービスブリッジ 一般的なものは次のとおりです。

- ヘルプ要求
- サービスに影響を与える問題
- サービスの変更要求

サービスブリッジ 要求実行プロセス

1. コンシューマーは、サービスカタログから サービスブリッジ 関連アイテムを選択します。
2. コンシューマーは、 サービスブリッジ 要求フォームに情報を入力し、[送信] をクリックします。コンシューマーが要求を行うと、タスクビューが表示されます。

ビュー内で、コンシューマーはプロバイダーのインスタンスにレプリケートされるコメントを追加できます。

3. コンシューマーのインスタンスでは、サービスに関係なく、単一の追跡タスクタイプであるプロバイダータスクが生成されます。
4. プロバイダータスクがプロバイダーのインスタンスにレプリケートされ、親タスクをトリガーするフローがトリガーされます。
5. コンシューマーのインスタンスでのタスクのステータスが [受信済み] に設定されます。
6. プロバイダーのインスタンスでは、エージェントは [自分にアサイン] をクリックして親タスクの所有権を取得します。
7. エージェントが所有権を取得すると、コンシューマーのインスタンスでのプロバイダータスクのステータスが [対応中] に更新されます。

エージェントがプロバイダーのインスタンスにコメントを投稿すると、そのコメントはコンシューマーのインスタンスに複製されます。コンシューマー投稿のコメントは、プロバイダーのインスタンスに複製されます。

8. エージェントが要求を解決し、解決コードを設定して [ソリューションを提案] をクリックすると、コンシューマーのインスタンスのプロバイダータスクのステータスが [解決済み] に更新されます。

[アクション] メニューには、[承認]、[却下]、または [キャンセル] のオプションが表示されます。

9. コンシューマーが解決を受け入れると、コンシューマーのインスタンスでのプロバイダータスクのステータスと、プロバイダーのインスタンスでの要求のステータスが [クローズ済み] に更新されます。

関連情報

[プロバイダーの サービスブリッジ でのリモートカタログの作成](#)

でのプロアクティブサービスブリッジケース通知 サービスブリッジ

顧客が サービスブリッジ を通じてオンボーディングした後、その顧客はアラートモニタリングから作成されたケースの通知を受け取ります。顧客は、影響を受ける問題に関する最新情報を積極的に受け取り、それらの問題の解決の進捗状況について通知されます。

サービスブリッジ の積極的ケースは、顧客がサービス要求を送信するときにプロバイダーと顧客のインスタンス間で発生する同期に似ています。ただし、この場合、履行プロセスはアラートモニタリングによって事前にトリガーされます。

このプロセスは次のようになります。

1. オンボーディングされた サービスブリッジ 顧客に関連するアラートがプロバイダーのインスタンスでトリガーされ、ケースレコードが作成されます。
2. その場合、プロバイダータスクへのリンクがコメントとして追加されます。

3. 顧客のプライマリ連絡先に自動 カスタマーサービス管理 (CSM) 通知が送信され、プロバイダータスクへのリンクも含まれます。
4. プロバイダーのインスタンスでケースレコードに追加されたステータスの変更や追加のコメントは、顧客のインスタンスに表示されます。ケースのステータス変更により、プロバイダーのインスタンスでのケースの作成がトリガーされます。

ケースを解決するためのサービスブリッジ同期の詳細については、「[サービスブリッジ リモートカタログアイテム](#)」を参照してください。

サービスブリッジタスクにスクラッチパッドを使用する

スクラッチパッド機能は、サービスブリッジ タスクの実行中にプロバイダーインスタンスとコンシューマーインスタンス間での追加データの交換を容易にします。

プロバイダーとコンシューマーの両方が、スクラッチパッドテーブルに対して情報を追加、更新、および削除できます。サーバー側スクリプトを使用して、名前と値のペアがプロバイダータスクとリモートタスクに関連付けられ、このデータはインスタンス間で自動的に同期されます。共有データはプロバイダーまたはリモートタスクに関連付ける必要があり、関連付けられたタスクがアクティブな場合に自動的に同期されます。

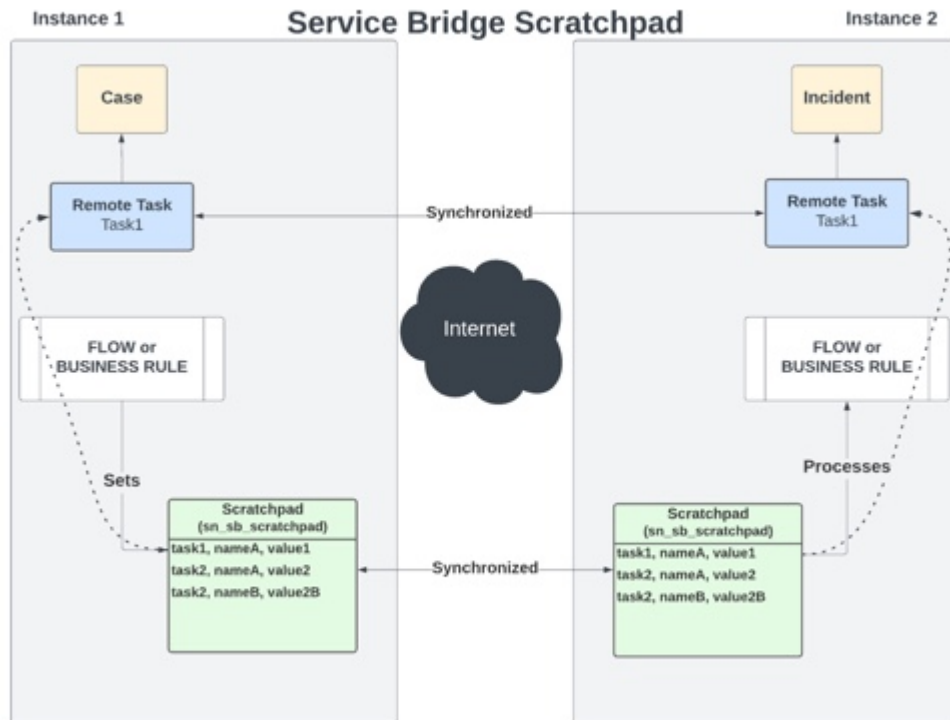
PSBScratchpadUtil API を使用すると、プロバイダーは、他の サービスブリッジ サービス以外の追加情報をコンシューマーと共有できます。詳細については、「[PSBScratchpadUtil - Scoped](#)」を参照してください。

CSBScratchpadUtil API を使用すると、コンシューマーは サービスブリッジ サービス外の追加情報をプロバイダーと共有できます。詳細については、「[CSBScratchpadUtil - Scoped](#)」を参照してください。

注:

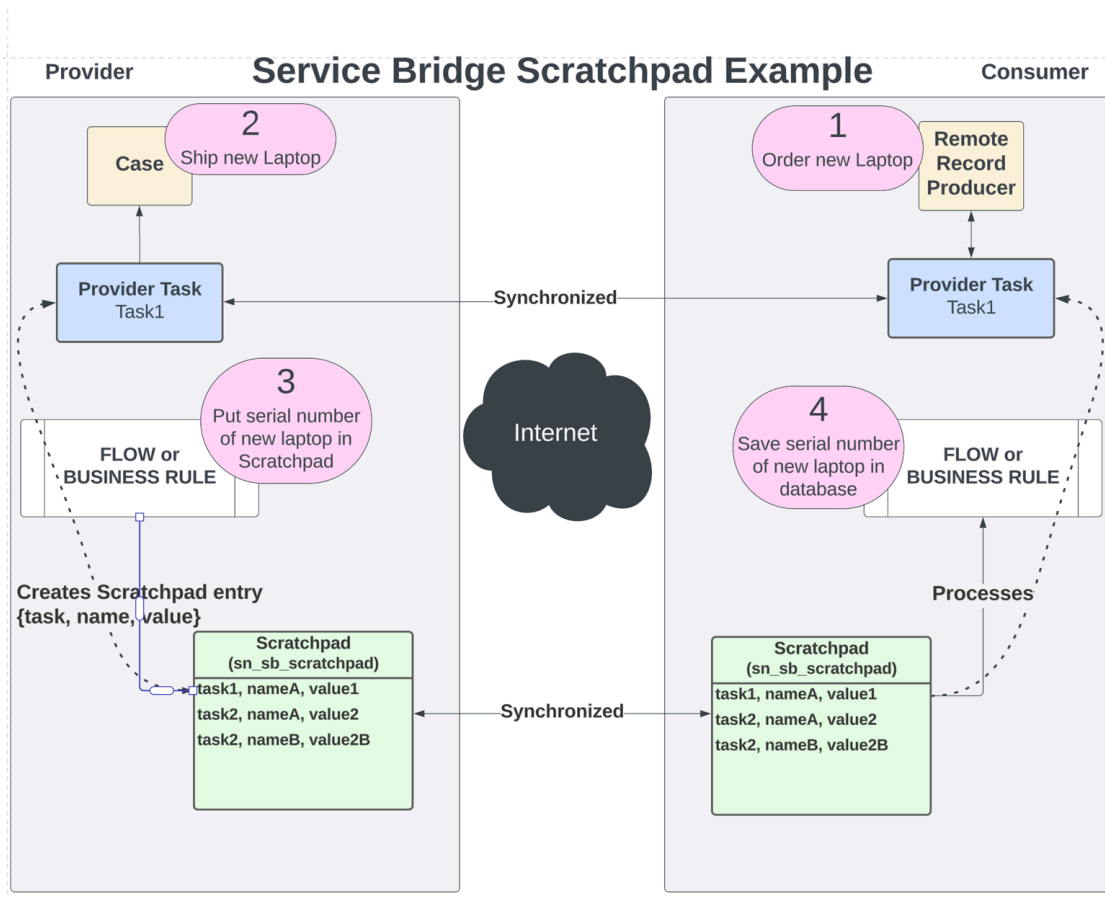
- 関連付けられたタスクが非アクティブ化または削除された場合、スクラッチパッドのデータは 3 日後に削除されます。この設定は、sn_sb.scratchpad.autodelete.days プロパティを使用して変更できます。
- 各タスクには、最大 50 個のスクラッチパッドエントリを設定できます。
- スクラッチパッドのデータは 4000 文字を超えることはできません。

次の図は、スクラッチパッドデータがインスタンス間でどのように同期されるかを示しています。



スクラッチパッドのユースケースの例: この例では、スクラッチパッド内のデータがコンシューマーインスタンスとプロバイダーインスタンス間でどのように同期されるかを示します。

- コンシューマーがローカルカタログからラップトップを注文します。この場合のローカルカタログは **リモートレコードプロデューサー**です。
- この要求はすぐにプロバイダーに転送され、プロバイダーのインスタンスにプロバイダータスクとして表示されます。
- 次に、プロバイダーはインベントリからラップトップを選択してセットアップし、シリアル番号、モデル、構成などの関連情報をスクラッチパッドに追加して、コンシューマーに自動的に送信します。
- コンシューマーのインスタンスで、ローカルデータベースでスクラッチパッドデータが取得され、更新されます。
- その後、ラップトップがコンシューマーに割り当てられます。



基盤データ同期をプロバイダーとして使用する

プロバイダーは、基盤データ同期 (FDS) を使用して、基盤データをコンシューマーと共有します。

FDS を使用する前に、FDS を設定する必要があります。

FDS 構成プロセス

ステップ	アクション	説明
1.	FDS 定義を作成します。	コンシューマーと共有するデータを定義します。 FDS 定義を作成して公開した後、コンシューマーが公開された定義に基づいて FDS オファリングを要求するまで待ちます。
2.	FDS 要求を確認し、サンプルペイロードを送信します。	コンシューマーから FDS 要求を受信したら、それを確認し、各サブスクリプションのサンプルペイロードを送信します。 ペイロードを送信した後、コンシューマーは各サブスクリプションの受信データを設定して承認します。
3.	サブスクリプションを公開します。	コンシューマーがサブスクリプションを承認したら、公開します。

FDS 構成プロセス (続く)

ステップ	アクション	説明
		FDS 構成が完了すると、定義された周期に基づいてコンシューマーとのデータの同期が開始されます。

関連情報

基盤データ同期

コンシューマーとしての基盤データ同期の使用

基盤データ同期オフリング定義の作成および公開

共有する準備ができていないデータについてコンシューマーに通知する基盤データ同期 (FDS) オフリング定義を作成します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 **すべて > サービスブリッジプロバイダー > アドミニストレーション > FDS オフリング定義**.
2. **[New (新規)]** を選択します。
3. FDS サブスクリプションを自動的に公開するか手動で公開するかを決定します。

メソッド	説明	アクション
FDS サブスクリプションの自動公開 (デフォルトオプション)	オフリングが公開された後、コンシューマーがサブスクリプションを受け入れると、サブスクリプションは自動的に公開され、定義された周期に従ってデータが同期されます。	まだオンになっていない場合は、 [FDS サブスクリプションの自動公開] チェックボックスをオンにします。
FDS サブスクリプションを手動で公開する	オフリングが公開され、コンシューマーがサブスクリプションを承認したら、それを確認し、サンプルファイルを送信して、受け取るデータのタイプについて知らせる必要があります。 詳細な手順については、「 基盤データ同期サブスクリプションアイテムを検証 」を参照してください。	[FDS サブスクリプションの自動公開] チェックボックスをオフにします。

4. 各 FDS 要求に応じてサンプルペイロードを自動的にコンシューマーに送信するか、または手動で確認するか、コンシューマー FDS 要求を自動的に確認するかを決定します。

メソッド	説明	アクション
自動確認 FDS 要求	オフリングが公開されると、コンシューマーからのすべての FDS 要求が自動的に確認され、各 FDS 要求に回答してサンプルペイロードがコンシューマーに送信されます。	まだ選択されていない場合は、[自動確認 FDS 要求] チェックボックスをオンにします。
FDS 要求を手動で確認	オフリングが公開された後、コンシューマー FDS 要求を手動で確認する必要があります。詳細な手順については、次を参照してください。 基盤データ同期サブスクリプションアイテムを検証	[自動確認 FDS 要求] チェックボックスをオフにします。

5. 名前と説明を入力します。

6. **[Save (保存)]** を選択します。

7. [オフリングアイテム] 関連リストで、オフリングアイテムを作成します。
共有するテーブルごとに、オフリングアイテムを作成する必要があります。複数のオフリングを作成できます。

a. **[New (新規)]** を選択します。

b. [テーブル名] フィールドで、コンシューマーと共有するテーブルを選択します。

c. [送信] フィールドで、ロックアイコンを選択し、[利用可能] 列から [選択済み] 列に移動して、共有するテーブルフィールドを選択します。

d. 非 CMDB テーブルを選択した場合は、[結合フィールド] フィールドのロックを解除し、共有するテーブルフィールドを選択して、[利用可能] 列から [選択済み] 列に移動します。

e. **[Save (保存)]** を選択します。

8. オプション: オフリングアイテムの依存関係を作成します。
提供しているテーブルが別のテーブルに依存している場合は、関連テーブルを共有するための依存テーブルオフリングを作成する必要があります。複数の依存オフリングを作成できます。

a. [依存オフリングアイテムを作成] を選択します。

b. ドロップダウンメニューから依存アイテムを選択し、[オフリングアイテムを作成] を選択します。

c. [送信] フィールドで、ロックアイコンを選択してフィールドのロックを解除し、共有するテーブルフィールドを選択します。

d. **[Save (保存)]** を選択します。

9. [戻る] を選択して、メインオフリングページに戻ります。

10. [コンシューマー基準] 関連リストで、コンシューマー基準を追加して、オフリングを受け取る対象となるコンシューマーインスタンスを決定します。
コンシューマー基準の詳細については、 [コンシューマー基準の作成](#) トピックを参照してください。

11. **[Publish (公開)]** を選択します。

タスクの結果

FDS オファリングが公開されました。コンシューマーは、公開された FDS オファリングに基づいて基盤データを要求できます。

次のタスク

基盤データ同期オファリング要求を確認。

基盤データ同期オファリング要求を確認

基盤データ同期 (FDS) オファリング要求を確認し、コンシューマーが受け取るデータのタイプを理解できるようにサンプルペイロードを送信します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

コンシューマーが FDS オファリングを要求すると、システムは FDS 要求と対応する FDS サブスクリプションを サービスブリッジ インスタンスに生成します。

[FDS 要求の自動確認] オプションが選択されていない場合は、コンシューマーの FDS 要求を手動で確認して、要求を処理していることを通知する必要があります。次に、サンプルペイロードを送信して、受け取るデータのタイプを理解できるようにします。

また、コンシューマーが FDS オファリングを要求すると、必要なアクションを含む新しい要求に関するメール通知が送信されます。

手順

1. 移動先 **すべて > ServiceBridge プロバイダー > オープンレコード > FDS 要求**.
2. [番号] 列のレコード番号を選択して、プロバイダーオファリング要求を開きます。
3. [確認] ボタンを選択します。
要求のステータスが [受領済み] から [対応中] に変わります。
4. 各サブスクリプションのサンプルペイロードを送信します。
各サンプルペイロードには、サンプルデータのレコードが最大 5 つ含まれています。
 - a. [基盤データプロバイダーサブスクリプション] 関連リストで、[番号] 列のレコード番号を選択してサブスクリプションを開きます。
 - b. [**Send Sample** (サンプルを送信)] ボタンを選択します。
顧客に送信されたサンプルペイロードは、[サブスクリプションアイテム] 関連テーブルの [サンプルペイロード] 列に一覧表示されます。

タスクの結果

各サブスクリプションのサンプルペイロードは、サンプルデータとしてコンシューマーに送信されます。

次のタスク

基盤データサブスクリプションの公開。

基盤データサブスクリプションの公開

基盤データ同期 (FDS) サブスクリプションを公開して、コンシューマーがサブスクリプションを構成して承認した後、基盤データ同期を完了します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

[FDS サブスクリプションの自動公開] オプションが選択されていない場合は、各サブスクリプションを手動で公開する必要があります。

手順

1. 移動先 **すべて > ServiceBridge プロバイダー > オープンレコード > FDS 要求**.
2. [番号] 列のレコード番号を選択して、プロバイダーオフリング要求を開きます。
3. [基盤データプロバイダーサブスクリプション] 関連リストから、[番号] 列のレコード番号を選択して、基盤データプロバイダーサブスクリプションを開きます。
4. **[Publish (公開)]** を選択します。
FDS を完了するには、コンシューマーが承認した各サブスクリプションを公開する必要があります。

カタログアイテムをリモートレコードプロデューサーとして公開する

プロバイダーは、ローカルカタログアイテムをリモートレコードプロデューサー (RRP) として サービスブリッジ にコピーできるため、カタログアイテムを手動で RRP として再作成する手間を省くことができます。

始める前に

コピーするカタログアイテムが次の要件を満たしていることを確認してください。

- 公開済みステータスである必要があります
- サポートされているクラスである必要があります
す:sc_cat_item、sc_cat_item_producer、pc_hardware_cat_item、または pc_software_cat_item
- まだにコピーされていない必要があります サービスブリッジ

必要なロール：admin

このタスクについて

ハードウェア、ソフトウェア、レコードプロデューサー、および一般的なカタログアイテムを個別に、または一括で RRP にコピーできます。コピー後、これらの RRP を編集して公開できます。

手順

1. [すべて] に移動し、ナビゲーションフィルターに「sc_cat_item.list」と入力します。
2. カatalogアイテムを選択します。
複数選択できます。

デフォルトでは、一度に 20 個のカタログアイテムを RRP としてコピーできます。制限を変更する場合は、整数タイプの `sn_sb_pro.max_batch_size_covertable_catalog_items` システムプロパティを追加する必要があります。
3. アクションメニューから、[サービスブリッジに公開] を選択します。
公開ステータスを示すメッセージが表示されます。
 - サービスブリッジへの公開が成功すると、成功メッセージが表示されます。
 - 公開が成功しなかった場合は、失敗のメッセージが表示されます。

ログを確認して問題を特定し、問題を修正して、サービスブリッジ への公開を再試行することで、失敗したプロセスを解決します。
4. コピーされた RRP を表示するには、成功メッセージで [[ここをクリック](#)] を選択します。

5. コピーした RRP が正確であることを確認してください。
6. 変数がまだ利用できない場合は、各 RRP に追加します。
各 RRP には少なくとも 1 つの変数が必要です。複数の変数を追加できます。詳細については、「[サービスブリッジ for Providers でリモートレコードプロデューサーの変数を作成する](#)」を参照してください。
7. [フロー] フィールドを使用して RRP にフローを追加します。
各 RRP にはフローが必要です。提供されているデフォルトの サービスブリッジ フローのいずれかを選択するか、必要に応じて独自のフローを作成します。
8. コンシューマー基準を追加します。
9. **[Publish (公開)]** を選択します。

リモートレコードプロデューサーへのスクリプトの追加または作成

プロバイダーは、リモートレコードプロデューサー (RRP) のさまざまなスクリプトを使用して、より複雑なタスクを実行し、コンシューマーからのカタログ要求をより適切に制御できます。RRP を使用するには、コンシューマーがすべてのスクリプトを承認する必要があります。

サービスブリッジでは、次のようにして RRP にスクリプトを適用できます。

- カatalogクライアントスクリプトの作成: カatalogアイテムスクリプトを作成して、RRP をカスタマイズできます。詳細については、「[カatalogクライアントスクリプトの作成](#)」を参照してください。
- 変数へのスクリプトの追加: 変数にスクリプトを追加し、RRP でその変数を使用できます。詳細については、「[サービスブリッジ for Providers でリモートレコードプロデューサーの変数を作成する](#)」を参照してください。
- UI ポリシーでのスクリプトの追加: UI ポリシーにスクリプトを追加し、RRP に UI ポリシーを適用できます。詳細については、「[Service catalog UI policy](#)」を参照してください。

カatalogクライアントスクリプトの作成

プロバイダーは、サービスブリッジ でカatalogクライアントスクリプトを作成して、コンシューマーに表示されるカatalogアイテムの動作を制御します。

始める前に

サービスブリッジ バージョン 2.1.x+ を使用している必要があります。

必要なロール: admin

このタスクについて

カatalogクライアントスクリプトは、カatalogアイテムまたは変数セットに適用できます。これらのスクリプトはサーバーではなくブラウザーで実行されるため、コンシューマーが送信する情報をより適切に制御できます。

手順

1. 移動先 **すべて > サービスブリッジプロバイダー > アドミニストレーション > リモートカatalogアイテム**.
2. リモートレコードプロデューサーを選択します。
互換性フィールド値が 2.1.x+ のレコードプロデューサーのみを選択できます。
3. [リモートレコードプロデューサー] フォームで、[カatalogクライアントスクリプト] 関連リストを選択し、[新規] を選択します。
4. フォームで、フィールドに入力します。

フィールド値の説明については、「[\[カタログクライアントスクリプトの新規レコード\] フォーム](#)」を参照してください。

5. [送信] を選択します。

[カタログクライアントスクリプトの新規レコード] フォーム

カタログクライアントスクリプトの新規レコードフォームのフィールドの説明には、カタログクライアントスクリプトフォームのフィールド値に関する情報が含まれています。

カタログクライアントスクリプトの新規レコードフォーム

フィールド	説明
名前	スクリプトの名前
適用先	スクリプトが適用されるアイテムタイプ。
アクティブ	スクリプトをアクティブにするオプション。
UI タイプ	スクリプトを適用する UI タイプ。
アプリケーション	このフィールドは、アプリケーションスコープに基づいて自動的にデフォルトアプリケーションに設定されます。
タイプ	スクリプトが実行されるタイミング (onLoad、onChange など)。
カタログアイテム	スクリプトを適用するカタログアイテムの名前。
カタログアイテムビューに適用	サービスカタログの注文画面内に表示されるカタログアイテムにカタログクライアントスクリプトを適用するオプション。
ターゲットレコードに適用	レコードプロデューサーを介してタスク拡張テーブル用に作成されたレコードにカタログクライアントスクリプトを適用するオプション。
スクリプト	スクリプトのコンテンツ。

構成のリビジョンを作成

プロバイダーは、開発してコンシューマーに展開できる更新された機能を含むエンタイトルメントのリビジョンを編集および作成できます。

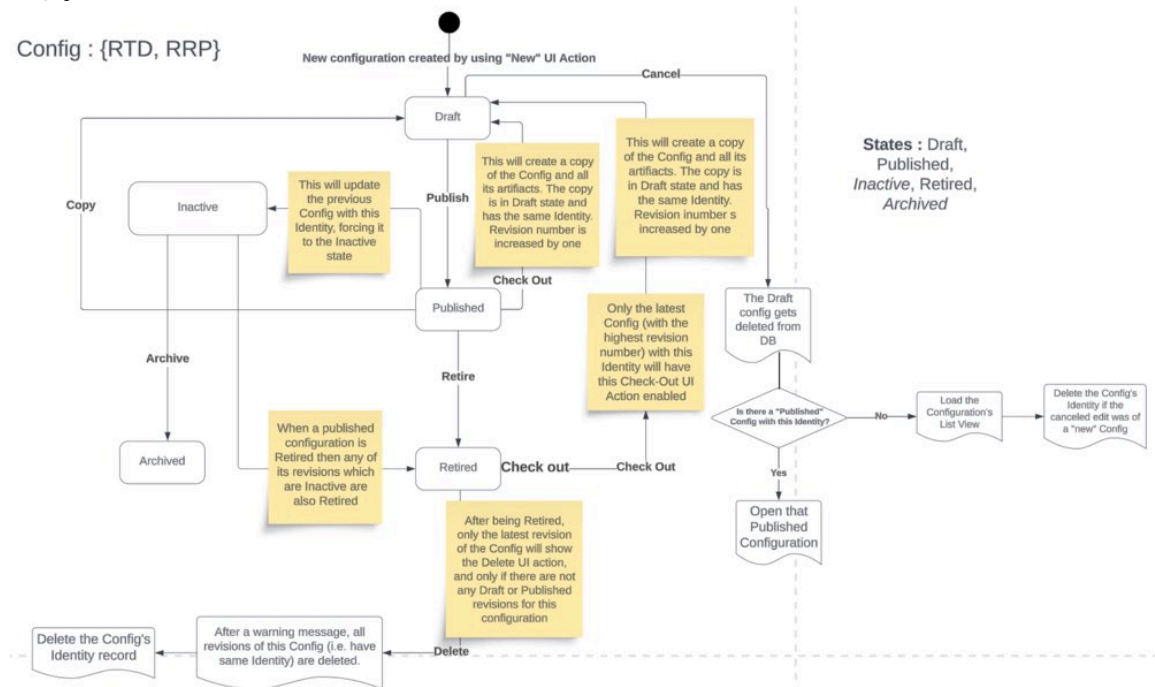
新しいリビジョンが展開されると、コンシューマーは新しいリビジョンをアクティブ化して使用するか、古いリビジョンを引き続き使用できます。新しいリビジョンは、コンシューマーがリビジョンで設定されたサービスブリッジアプリケーションバージョンと互換性のあるサービスブリッジアプリケーションバージョンを使用している場合にのみアクティブ化できます。コンシューマーが新しいリビジョンを使用する場合は、サービスブリッジアプリケーションを構成に設定されている最小互換性にアップグレードする必要があります。

構成のリビジョンのライフサイクル

構成は次のいずれかになります。

- リモートタスク定義
- リモートレコードプロデューサー

次の図は、構成リビジョンがどのように作成、公開され、コンシューマーに展開されるかを示しています。



注:

以下のセクションでは、リモートタスク定義の構成改訂ライフサイクルのさまざまなステージについて説明します。以下のことを行うことができます。

- 構成のリビジョンを作成
- 構成リビジョンのアーカイブ
- 構成の廃止
- 構成リビジョンのコピー
- 構成の削除

同じプロセスに従って、リモートレコードプロデューサーのリビジョンを作成できます。

構成のリビジョンを作成

1. に移動します すべて > サービスブリッジプロバイダー > リモートタスク定義。
2. 構成リビジョンを作成するリモートタスク定義を選択します。

注:

選択するリモートタスク定義は、[公開済み] ステータスである必要があります。

Compatibility フィールドを確認します。このフィールドには、プロバイダーが使用しているサービスブリッジバージョンが表示されます。コンシューマーが互換性のあるサービスブリッジバージョンを使用している場合は、プロバイダーインスタンスとコンシューマーインスタンス間でデータを同期できます。ただし、コンシューマーが互換性のあるバージョンを使用していない場合、対応するサービスブリッジバージョンがアップグレードされるまで、新しいエンタイトルメントをアクティブ化することはできません。詳細については、「[不一致バージョンのサポート](#)」を参照してください。

3. **[Checkout (チェックアウト)]** を選択します。

4. 構成の新しいリビジョンが作成され、**[ステータス]** が **[ドラフト]** に設定されます。

State	Name	Revision	Created
Published	BK Request Item RTD	1	2024-06-03 01:02:44

古いリビジョンを表示するには、**[関連リスト]** セクションの **[リビジョン]** タブに移動します。前の画像でわかるように、古いリビジョンはまだ **[公開済み]** ステータスのままです。

5. 必要な変更を行い、**[保存]** を選択して変更を保存します。**[公開]** を選択して、新しく作成された構成リビジョンをアクティブ化します。新しくアクティブ化されたリビジョンがコンシューマーインスタンスに同期されます。古いリビジョンの **[ステータス]** は **[非アクティブ]** に設定されます。

注:

非アクティブな構成は引き続きコンシューマーに利用可能であり、この構成がアーカイブされるか廃止されるまでデータ同期が続行されます。

6. コンシューマーインスタンスで、次の場所に移動します: サービスブリッジコンシューマー > プロバイダー接続. 新しく公開された設定リビジョンは、**[関連リンク]** セクションの **[エンタイトルメント]** タブで確認できま

Type	Latest revision	Latest revision status	Entity reference	Consumer active revision
Remote record producer	1	Inactive	Remote record producer: BK: Check Revision	0
Remote task definition	3	Inactive	Remote task definition: BK: Catalog Task RTD	0
Remote task definition	4	Inactive	Remote task definition: BK: Activating Revision	0

す。

7. 新しく公開された構成参照を選択し、**[エンティティ参照]** リンクを選択して **[リモートタスク定義]** ページに移動します。

8. **[アクティブ化]** を選択して、新しい構成リビジョンをアクティブ化します。新しいリビジョンがアクティブ化されると、以前のリビジョンが **非アクティブ** 状態に移行します。コンシューマーは、アーカイブまたは廃止されるまで、以前のリビジョンを引き続き使用できます。

9. 1 つの構成に対して複数の構成リビジョンを作成できますが、最新の公開リビジョンのみが有効であり、コンシューマーが使用できます。

i 注:

- 構成リビジョンを作成して [保存] を選択すると、リビジョンは [ドラフト] ステータスに設定されます。この構成の 公開済み リビジョンを開くと、[チェックアウト] と [廃止] オプションが使用できないことがわかります。この場合、変更を加えるにはドラフトバージョンを開く必要があります。
- 新しく作成されたドラフト リビジョンが不要な場合は、[キャンセル] を選択してそのドラフト リビジョンを削除します。既に公開されているリビジョンは、チェックアウト または 廃止に使用できます。

構成リビジョンのアーカイブ

非アクティブな構成リビジョンをアーカイブできます。プロバイダーによってリビジョンがアーカイブされると、そのリビジョンは非アクティブ化され、コンシューマーインスタンスで [ステータス] が [アーカイブ済み] に設定されます。次の手順では、リモートタスク定義の構成リビジョンをアーカイブする方法について説明します。リモートレコードプロデューサーと基盤データ同期オフアリングにも同じプロセスが適用されます。

1. に移動します **すべて > サービスブリッジプロバイダー > リモートタスク定義**。
2. リストからリモートタスク定義を選択します。
3. 関連リストの [*Revisions*] タブに移動します。
4. アーカイブする非アクティブなリビジョンを選択します。
5. [アーカイブ] をクリックして、リモートタスク定義を非アクティブ化します。アーカイブされると、コンシューマーはこのリビジョンを使用できなくなります。

i 注:

アーカイブされた構成リビジョンを公開、更新、またはチェックアウトすることはできません。[コピー] オプションを使用して、構成のコピーを作成できます。

構成の廃止

公開された構成は廃止できます。構成を廃止すると、その構成に関連付けられたリビジョンのセット全体が廃止されます。構成を廃止するには、次の手順を実行します。

1. に移動します **すべて > サービスブリッジプロバイダー > リモートタスク定義**。
2. リストでリモートタスク定義構成を選択します。
3. 廃止 を選択し、**OK** を選択します。この構成が廃止されると、コンシューマーは使用できなくなります。

i 注:

このオプションは、公開済みで非アクティブな構成リビジョンを廃止します。ただし、[アーカイブ済み] ステータスの構成リビジョンは廃止されません。

4. リモートタスク定義を再度使用する場合は、次のことができます。
 - [チェックアウト] を選択して、新しい構成リビジョンを作成します。
 - [コピー] を選択して、新しい構成のコピーを作成します。

構成リビジョンのコピー

次のいずれかの状況の構成リビジョンのコピーを作成できます。

- 公開済み
- 非アクティブ
- アーカイブ化済み
- 廃止

1. に移動します すべて > サービスブリッジプロバイダー > リモートタスク定義.
2. 上記のいずれかの状況にあるリモートタスク定義構成リビジョンを選択します。
3. [コピー] を選択して、構成リビジョンのコピーを作成します。

構成の削除

廃止された構成は削除できます。廃止されたリビジョンが多数存在する可能性があります。[削除] オプションは、廃止された最新の構成リビジョンでのみ使用できます。リビジョンが削除されると、構成セット全体が削除されます。

1. に移動します すべて > サービスブリッジプロバイダー > リモートタスク定義.
2. [廃止] ステータスのリモートタスク定義を選択します。
3. 不要になった構成を削除するには、[削除] を選択します。削除すると、この ID に関連付けられているすべてのレコードが削除され、元に戻すことはできません。

サービスブリッジ コンシューマー向け

コンシューマー向け サービスブリッジ アプリケーションを使用して、プロバイダーとシームレスにやり取りし、コラボレーションします。

サービスブリッジ概要

コンシューマーは、次のことができます。

- ローカルカタログから資格のあるリモートカタログアイテムを確認し、実行のためにプロバイダーに要求を送信します。
- 自分のタスクをプロバイダーのタスクと双方向に統合します。
- 透明性とコラボレーションのためにプロバイダーから積極的なタスクを受け取ります。

コンシューマー向け サービスブリッジ のインストールと構成

コンシューマーは、次の手順に従って、自分のインスタンスで サービスブリッジ for Consumers アプリケーションを設定します。

インストール前のチェック

glide.servlet.uri プロパティの確認:Glide インスタンスの `glide.servlet.uri` プロパティが正しいインスタンス URL に設定されていることを確認します。インスタンスが本番環境からクローンされても、`glide.servlet.uri` プロパティの本番 URL を参照している場合、問題が発生する可能性があります。

コンシューマー向けサービスブリッジの設定

タスク	リンク
コンシューマー向け サービスブリッジ アプリケーションをインストールします。	「コンシューマー向けインストールサービスブリッジ」 を参照してください。
コンシューマーの サービスブリッジ ロールを追加します。	「コンシューマーのペルソナ」 を参照してください。
プロバイダーに登録します。	「プロバイダーへの登録」 を参照してください。
エンタイトルメントをアクティブ化します。	「でのリモートレコードプロデューサーのアクティブ化 サービスブリッジ」 を参照してください。
コンシューマーのプリフローを設定します。	「サービスブリッジ コンシューマーのプリフロー」 を参照してください。
認定ユーザーを追加します。	「認定ユーザーの追加」 を参照してください。
変換を作成します。	「での変換の作成 サービスブリッジ」 を参照してください。
データを同期するためのリモートタスクを作成します。	「データを同期するためのリモートタスクを作成する」 を参照してください。
設定を構成します。	「コンシューマーインスタンスでの設定の構成」 を参照してください。

コンシューマー向けインストールサービスブリッジ

admin ロールを持っている場合は、コンシューマー向け サービスブリッジ アプリケーションをインストールできます。このアプリケーションには、ServiceNow Store アプリケーションとプラグインに関連するデモデータとインストールが含まれています。

始める前に

- アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認してください。詳細については、次を参照してください。 [のエンタイトルメントを取得する ServiceNow 製品またはアプリケーション](#)。

必要なロール：admin

このタスクについて

次のプラグインは、コンシューマー向け サービスブリッジ アプリケーションとともにインストールされます。

- sn_sb
- sn_sb_rps
- sn_transport
- com.glide.hub.process.sync
- com.snc.ihub_spoke_util_pack

これらとは別に、ロール、ビジネスルール、テーブル、フローなどのいくつかのコンポーネントもインストールされます。このアプリケーションとともにインストールされるコンポーネントの詳細については、「[コンシューマー向け サービスブリッジ とともにインストールされるコンポーネント](#)」を参照してください。

手順

1. 移動先 **すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて**.
2. フィルター基準と検索バーを使用して、コンシューマー向け サービスブリッジ アプリケーションを検索します。

名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store へのリクエストが必要になることがあります。

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「[ServiceNow Store/バージョン履歴のリリースノート](#)」を参照してください。

3. 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] をクリックします。

デモデータには、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードが含まれています。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。

i 重要:

インストール時にデモデータを読み込んでおかないと、後から読み込むことはできません。

4. **[Install (インストール)]** を選択します。

コンシューマーのペルソナ

サービスブリッジアプリケーションのさまざまなペルソナについて説明します。

リモートレコードプロデューサーはペルソナに関連付けることができます。リモートレコードプロデューサーにペルソナがない場合、サービスブリッジ 要求者ロールを持つすべてのユーザーがアイテムを注文できます。ただし、1 つ以上のペルソナがリモートレコードプロデューサーに割り当てられている場合、ユーザーは要求者ロールと、リストされているペルソナの少なくとも 1 つを持っている必要があります。ペルソナは、[認定ユーザー] テーブルを介してユーザーにアサインされます。ペルソナによって保護されているアイテムにアクセスするには、ユーザーの承認ユーザーレコードがプロバイダーによって承認され、コンシューマーインスタンスでアクティブ化され、適切なペルソナが設定されている必要があります。

コンシューマーペルソナ

ペルソナ	スキル	タスク	ロール
システムアドミニストレーター	認定 ServiceNow システムアドミニストレーターである	• プロバイダーレコードと接続レコードを作成します。 • サービスブリッジアプリケーションをインストールします。 • 変換を作成して維持します。 • 公開されたリモートタスク定義とリモートレコードプロデューサーをアクティブ化します。	• アドミン • sn_sb.admin • sn_transport.admin

コンシューマーペルソナ (続く)

ペルソナ	スキル	タスク	ロール
		サービスブリッジ トランスポートペイ ロードのトラブル シューティングを行 います。	
サービスブリッジ要求者	IT アドミニストレータである	1 社または複数の外部ベンダーによって完全にまたは部分的にサポートされる何らかの形の IT サービスの責任者です。 - 外部プロバイダーに提供されるサービス要求を、自身のインスタンスから要求および監視します。	- itil - sn_sb.requestor
コンシューマー要求者	エンドユーザー	リモートカタログから要求を行います。	sn_sb.requestor

のグループへのロールのアサイン サービスブリッジ

ロールをアサインして、各ユーザーが使用できるアクションを制御します。コンシューマー向け サービスブリッジ アプリケーションでは、個々のユーザーではなくグループごとにロールをアサインします。これにより、ユーザーのジョブの説明が変更されたときに、そのロールが自動的に更新されます。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 **すべて > ユーザー管理 > グループ**.
2. ロールをアサインするグループをクリックします。
3. [ロール] 関連リストで、[編集] をクリックします。
4. 必要なロールをグループに追加します。
5. **[Save (保存)]** をクリックします。

プロバイダーへの登録

登録プロセスを完了して、プロバイダーインスタンスへの接続を確立します。

始める前に

- 必要なロール：admin
- 次を実行します：キー管理 > 健全性 (診断) を使用して、キー管理フレームワークの健全性チェックに合格していることを確認します。健全性診断にアクセスするには、アドミニストレーターに

sn_kmf.admin および sn_kmf.cryptographic_manager ロールが必要です。アドミニストレーターにアクセス権がない場合は、「[Assign Key Management Framework roles](#)」の指示に従って必要なロールを付与してください。

このタスクについて

続行する前に、プロバイダーは、登録レコードのメインの連絡先として設定するように、アドミンの連絡先の詳細を要求しておく必要があります。この指定された連絡担当者は、プロバイダーのインスタンスから、またはプロバイダーの管理者から直接、登録リンクを含むメールを受信します。このリンクをクリックすると、コンシューマーインスタンスにプロバイダー接続レコードが生成されます。次の手順では、登録リンクが既にクリックされていることを前提としています。

手順

1. プロバイダーの登録メールで送信された [プロバイダーに接続] リンクをクリックするか、プロバイダーのアドミンから直接提供されたリンクに従ってください。

このリンクにより、プロバイダー接続レコードが生成されます。

注:

登録プロセスを完了するコンシューマーアドミンは、プロバイダーの登録タスクの指定連絡先、またはプロバイダーのインスタンスのアドミンである必要があります。OAuth 認証ステップ中に別のユーザーが登録を試みた場合、登録は失敗します。

2. 移動先 **すべて > サービスブリッジコンシューマー > プロバイダー接続**.
3. コンシューマーインスタンスのプロバイダー接続フォームで、プロバイダーが関連付けられている会社の名前を選択し、[保存] をクリックします。
プロバイダー接続レコードが表示されます。
4. プロバイダー接続レコードページで [プロバイダーに接続] をクリックします。
5. サービスブリッジ登録メッセージが表示されたら、[認証] をクリックします。
OAuth 認証ページが表示されます。
6. [許可] をクリックし、[送信] をクリックして登録を続行します。
ステータスを確認できる登録タスクにリダイレクトされます。登録が完了すると、プロバイダーとコンシューマーインスタンス間の接続が確立され、プロバイダーのインスタンスの登録タスクの [ステータス] が [完了してクローズ] に設定されます。

サービスブリッジプロバイダーのオフボーディング

プロバイダー接続をオフボードし、関連するすべてのレコードを削除します。

始める前に

必要なロール: admin、sn_sb.admin

手順

1. 移動先 **すべて > サービスブリッジコンシューマー > プロバイダー接続**.
2. [番号] 列をクリックして、プロバイダー接続レコードを開きます。
3. [プロバイダーのオフボード] をクリックします。
このアクションによってこの接続がオフボードになり、関連するすべての接続レコードが削除されることを示す確認メッセージが表示されます。
4. [OK] をクリックしてプロバイダー接続をオフボードします。
5. 関連するすべてのタスクを削除する場合は、確認メッセージで [この接続の既存のタスクをすべて削除] チェック ボックスをオンにし、表示されるダイアログ ボックスに「削除」と入力して [OK] をクリックします。
コンシューマーはオフボーディングされ、関連するすべてのデータが削除されます。

タスクの結果

次のテーブルが削除されます。

- 接続テーブル:
 - ih_sync_capture_definition
 - ih_sync_outbound_definition
 - ih_sync_inbound_definition
 - ih_sync_process_event
 - ih_sync_remote_system
 - http_connection
 - sys_user
 - sys_user_has_role
 - sys_alias
 - oauth_2_0_credentials
 - oauth_credential
 - oauth_requestor_profile
 - oauth_entity_profile
 - oauth_entity
 - sn_sb_rps_connection
 - sn_transport_queue
 - sn_transport_profile
 - sn_sb_con_service_bridge_settings
 - sn_sb_con_authorized_user
 - sn_sb_con_persona
 - sn_sb_con_provider_connection
 - sn_sb_con_entitlement
- 次のテーブルは、確認ダイアログで [この接続の既存のタスクをすべて削除] チェックボックスをオンにした場合にのみ削除されます。
 - タスク
 - sn_sb_con_provider_task
 - sn_sb_con_remote_task
 - エンタイトルメント
 - sn_sb_con_remote_record_producer
 - item_option_new
 - item_option_new_set
 - sn_sb_con_remote_task_def (および子テーブル)
 - sn_sb_con_remote_task_variable
 - sn_sb_con_inbound_field
 - sn_sb_con_outbound_field

でのリモートタスク定義レコードのアクティブ化 サービスブリッジ

コンシューマーは、インスタンスでリモートタスク定義を有効にして、リモートタスクを作成できるようにします。

始める前に

ServiceNow インスタンスでリモートタスク定義 (RTD) を有効にする前に、プロバイダーはまず ServiceNow インスタンスで RTD を作成する必要があります。詳細については、「[プロバイダー向け サービスブリッジ でのリモートタスク定義の作成](#)」を参照してください。

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 すべて > サービスブリッジコンシューマー > プロバイダー接続.
 2. [番号] 列を選択して、プロバイダー接続レコードに移動します。
 3. [リモートタスク定義] 関連リストを選択し、アクティブ化する RTD を選択します。
 4. リモートタスク定義フォームで、フォームの [簡易トリガー] セクションを確認します。
タスクレコードの更新に一致する簡易トリガーを設定すると、タスクレコードに対してリモートタスクが自動的に作成されます。
 5. [受信フィールド] 関連タブで、変数データを確認します。
プロバイダーは、これらの受信フィールドを定義します。リモートタスクを作成すると、プロバイダーはこれらの受信フィールドを介してリモートタスクデータを受信します。[フィールドドラベル]、[同期条件]、および [ターゲットフィールド] フィールドを変更できます。
 6. [送信フィールド] 関連タブで、次のアクションを実行します。
 - a. 変数データを確認します。
プロバイダーがこれらの送信フィールドを定義します。プロバイダーがリモートタスクに応答すると、これらの送信フィールドを介してリモートタスクデータを受信します。これらのレコードの [ソース] フィールドのみを変更できます。
 - b. [既存のエントリを同期 (**Sync pre-existing entries**)] オプションを選択して、接続が確立されたときに既存のすべてのコメントをターゲットタスクに同期できるようにします。
有効にすると、リモートタスクの作成時に、接続前に作成されたコメントが同期プロセスに含まれます。
- 注:**
この機能は、サービスブリッジ バージョン 2.2.x でのみ使用できます。
7. [リモートタスク変数] 関連タブで、変数データを確認します。
リモートタスク変数は、リモートタスクフォームに表示される受信フィールドから作成されます。
 8. **[Activate (アクティブ化)]** を選択します。
 9. 受信変数と送信変数のマッピングを確認し、**[OK]** を選択します。
ポップアップウィンドウでは、インバウンドとアウトバウンドのマッピングを確認できます。

でのリモートレコードプロデューサーのアクティブ化 サービスブリッジ

購入したサービスまたは製品を使用するためのエンタイトルメントをアクティブ化します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 **すべて** > **サービスブリッジコンシューマー** > **プロバイダー接続**.
2. [番号] 列を選択して、プロバイダー接続レコードに移動します。
利用可能なエンタイトルメントのリストが表示されます。
3. [リモートレコードプロデューサー] 関連リストを選択し、アクティブ化するリモートレコードプロデューサーを選択します。
4. [リモートレコードプロデューサー] ページで、[アクティブ化] を選択してエンタイトルメントをアクティブ化します。
リモートレコードプロデューサーにスクリプトが含まれている場合、[アクティブ化] を選択するとスクリプトが自動的に承認されます。
5. オプション: [リモートスクリプト承認] タブからスクリプトを個別に承認します。
 - a. [承認済み] 列で、スクリプトのステータスを true に変更します。
リモートレコードプロデューサーをアクティブ化するには、すべてのスクリプトを承認する必要があります。すべてのスクリプトを承認しないと、リモートレコードプロデューサーをアクティブ化できません。

認定ユーザーの追加

コンシューマーは、新しい認定ユーザーを追加して、プロバイダーから資格を付与されたカタログアイテムへのアクセスを制御します。

始める前に

必要なロール: admin

手順

1. 移動先 **すべて** > **サービスブリッジコンシューマー** > **プロバイダー接続**.
2. [プロバイダー接続] ページで、[番号] リンクをクリックしてプロバイダー接続レコードを開きます。
3. [カタログベルソナ] 関連タブを選択し、プロバイダーから資格のあるベルソナがあるかどうかを確認します。
4. [認定ユーザー] 関連タブで、[新規] をクリックします。
5. フォームで、フィールドに入力します。

[認定ユーザー] フォーム

フィールド	説明
コンシューマーユーザー	ユーザーの名前。ユーザーのリストから名前を選択できます。
プロバイダー接続	サービスプロバイダーの名前。このフィールドは自動入力されます。
ベルソナ	ユーザーに追加するベルソナ。

6. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
7. [アクティブ化] をクリックします。

タスクの結果

承認されたユーザーレコードは、承認のためにプロバイダーの ServiceNow インスタンスに同期されます。承認されてアクティブ化されると、ユーザーは、アサインされたペルソナとともにリモートレコードプロデューサーを表示できます。

サービスブリッジ コンシューマーのプリフロー

コンシューマーは、コンシューマーインスタンスとプロバイダーインスタンスのプロバイダータスク間でデータを同期するタイミングを制御できます。

始める前に

- 必要なロール：admin
- 同期条件を含むサブフローが作成されている必要があります

必要なロール：admin

このタスクについて

サービスブリッジリモートレコードプロデューサーにサブフローを添付し、承認などのプロセスを実行してから、タスクをプロバイダーと同期することができます。新しいプロバイダータスクが作成されると、コンシューマーインスタンスとプロバイダーインスタンス間でデータが同期される前に、添付されたサブフローが実行されます。サブフローでは、レコードをプロバイダーに同期するために、プロバイダータスクの [同期] フィールドを **true** に設定する必要があります。リモートレコードプロデューサーにサブフローが添付されていない場合、プロバイダータスクはすぐにプロバイダーインスタンスに同期されます。

手順

1. 移動先 **すべて** > サービスブリッジプロバイダー > プロバイダー接続.
2. サブフローを添付するリモートレコードプロデューサーを選択します。
3. [フロー] フィールドで、プロバイダータスクに適用するサブフローを選択します。
添付されたサブフローがプロバイダータスクで *Sync* フラグを **true** に設定した場合にのみ、データがプロバイダーインスタンスに同期されます。
4. **[Update (更新)]** を選択します。
サブフローで定義された条件に応じて、プロバイダータスクがプロバイダーインスタンスに同期されます。

リモートレコードプロデューサーへのコンシューマー変数の追加

コンシューマーは、変数セットを使用して、コンシューマーインスタンスにあるプロバイダーのリモートレコードプロデューサー (RRP) に独自の変数を追加できます。コンシューマー変数は、コンシューマープリフローで追加情報を追加してフローを完成させるのに役立ちます。

始める前に

次の要件に注意してください。

- サービスブリッジ バージョン 2.1.x+ を使用している必要があります。
- 必要な変数を変数セットに追加しました。詳細については、「[リモートレコードプロデューサーでの変数セットの使用](#)」を参照してください。

必要なロール:admin、itil、sn_sb.admin

このタスクについて

- コンシューマーインスタンスでプロバイダーの RRP に追加できる変数セットは 1 つだけです。
- コンシューマーインスタンスに追加する変数セットは、プロバイダーインスタンスと自動的に同期されません。
- プロバイダー変数は編集できません。

手順

1. 移動先 **すべて** > サービスブリッジコンシューマー > プロバイダー接続.
2. [プロバイダー接続] ページで、関連する番号リンクを選択してプロバイダー接続を開きます。
3. [リモートレコードプロデューサー] 関連リストを選択します。
4. リモートレコードプロデューサーを選択します。
互換性フィールド値が 2.1.x+ のレコードプロデューサーのみを選択できます。
5. リモートレコードプロデューサーフォームの [コンシューマー変数] フィールドで、追加する変数セットを選択します。
6. [Update (更新)] を選択します。

データを同期するためのリモートタスクを作成する

リモートタスクは、複数のインスタンス間でリンクされたタスクを提供し、カスタム統合なしでビジネスワークフローを可能にします。

始める前に

- 必要なロール：admin
- リモートタスク定義が既に存在している必要があります。

このタスクについて

コンシューマーは、リモートタスクを使用して、インシデント、ケース、サービス要求などのタスクをプロバイダーと双方向に統合できます。

手順

1. 移動先 **すべて** > インシデント > オープン.
2. [番号] リンクをクリックしてインシデントを開きます。
3. [関連リンク] セクションの [プロバイダーのリモートタスクを作成] をクリックします。

i 注:
 [プロバイダーのタスクを作成] リンクは、タスクに関連付けられたプロバイダーテーブルで少なくとも 1 つのアクティブで有効なリモートタスク定義が使用可能な場合にのみ、このセクションに表示されます。
4. [リモートタスク] ページが表示されます。
[リモートタスク] ページで、[親] フィールドにタスクレコードが入力され、[ステータス] フィールドが [新規] に設定されます。
5. リストからリモートタスク定義を選択します。

i 注:

- 親タスクに関連付けられたアクティブで有効なリモートタスク定義のみが表示されます。
- [プロバイダー接続] フィールドは、選択したリモートタスク定義に基づいて自動的に入力されます。
- 利用可能なリモートタスク定義が 1 つしかない場合は、[リモートタスク定義] フィールドが自動的に入力されます。

6. [Submit (送信)] を選択します。

親タスクに戻ると、新しく作成されたリモートタスクが [リモートタスク] 関連リストに表示されます。

i 注:

リモートタスクは非同期に作成されるため、親タスクフォームがすぐにロードされると、最初は表示されないことがあります。新しく作成されたリモートタスクを表示するには、フォームの更新が必要な場合があります。

7. 移動先 サービスブリッジコンシューマー > リモートタスク。

リモートタスクのリストが表示されます。新しく作成されたリモートタスクがプロバイダーインスタンスで受信されると、リモートタスクに基づく新しい親タスクが作成されます。

8. 新しく作成されたタスクをクリックし、[関連リンク] セクションの [リモートタスク] タブでリモートタスクをクリックします。

[Status] フィールドが [Connected] に設定され、説明が更新されていることがわかります。

9. 親タスクに戻ります。**10. 親タスクの簡単な説明を更新し、[保存] をクリックします。****11. コンシューマーインスタンスにログインし、タスクを開きます。**

コンシューマーインスタンスでデータが同期され、[簡単な説明] フィールドが更新されていることがわかります。プロバイダーによって簡単な説明が更新されたことを示す作業メモも表示されます。

i 注:

- 同じ手順に従って、プロバイダーインスタンスにリモートタスクを作成できます。データはコンシューマーインスタンスとプロバイダーインスタンスの間で同期され、コンシューマーインスタンスで行った変更はプロバイダーインスタンスで自動的に更新されます。
- コンシューマーインスタンスでリモートタスクを作成する場合、リモートタスク定義を選択すると、[プロバイダー接続] フィールドが自動的に入力されます。

リモートタスクの接続と切断

アクティブなリモートタスク定義に関連付けられたリモートタスクを使用すると、プロバイダーインスタンスとコンシューマーインスタンスの 2 つの親タスク間でデータを同期できます。

アクティブなリモートタスク定義のリモートタスクを作成すると、エラーがなければ、プロバイダーインスタンスとコンシューマーインスタンスでリモートタスクのステータスが [接続済み] に設定されます。これにより、リモートタスクが親タスク間でフィールドの更新、添付ファイル、コメントなどのデータを同期するようになります。

インスタンス間のデータの同期を停止するには、プロバイダーまたはコンシューマーインスタンスの [リモートタスク] ページに移動し、[切断] をクリックします。切断されると、リモートタスクはインスタンス間での作業メモやコメントを含むデータのコピーまたは転送を一時停止します。

i 注:

データの同期を再開するには、[リモートタスク] ページに移動して [接続] をクリックします。このオプションは、既存の構成が有効で変更されておらず、リモートタスク定義がアクティブである場合にのみ機能します。

コンシューマーインスタンスでの設定の構成

コンシューマーは、インスタンスのデフォルト設定を構成および定義できます。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 **すべて** > サービスブリッジコンシューマー > プロバイダー接続.
2. [プロバイダー接続] ページの [番号] リンクをクリックします。
3. [関連リンク] で [設定] タブをクリックし、[新規] をクリックします。
4. [設定] ページで、[関連リンク] の下にある [リモートレコードプロデューサー] タブをクリックします。
5. リモートレコードプロデューサーを自動的にアクティブにする場合は、[リモートレコードプロデューサーの自動アクティブ化] チェックボックスをオンにします。
6. [リモートタスク定義] タブをクリックします。
7. リモートタスク定義を自動的にアクティブにする場合は、[リモートタスク定義を自動アクティブ化 (**Auto activate remote task definition**)] チェックボックスをオンにします。
8. [認定ユーザー] タブをクリックします。
 - 最大承認ユーザー数:このフィールドは、[承認済みユーザーを制限] フラグが有効になっている場合にのみ使用できます。コンシューマーのインスタンスで定義できる認定ユーザーの最大数を指定します。
 - 承認済みユーザーの制限:コンシューマーのインスタンスで承認済みユーザーの数を制限する場合は、このチェックボックスをオンにします。
 - 認定ユーザーの自動承認:このチェックボックスをオンにすると、コンシューマーインスタンスで作成された認定ユーザーが自動的に承認されます。
9. [Update (更新)] をクリックします。

サービスブリッジタスクにスクラッチパッドを使用する

スクラッチパッド機能は、サービスブリッジ タスクの実行中にプロバイダーインスタンスとコンシューマーインスタンス間でのデータ交換を容易にします。

プロバイダーとコンシューマーの両方が、スクラッチパッドテーブルに対して情報を追加、更新、および削除できます。スクラッチパッド機能の使用の詳細については、[サービスブリッジタスクにスクラッチパッドを使用する](#) を参照してください。

コンシューマーとしての基盤データ同期の使用

コンシューマーは、基盤データ同期 (FDS) を使用してプロバイダーから基盤データを受信します。

FDS を使用する前に、基盤データを要求して構成する必要があります。プロバイダーが FDS 定義を作成して公開したら、FDS を要求して構成します。

FDS を要求および構成するプロセス

ステップ	アクション	説明
1.	基盤データオフリングを要求します。	公開されたオフリングに基づいて、プロバイダーに FDS オフリングを要求します。 基盤データオフリングを要求すると、プロバイダーは FDS 要求を確認し、各サブスクリプションのサンプルペイロードを送信します。
2.	サンプルデータを構成し、サブスクリプションアイテムを検証します。	CMDB または非 CMDB テーブルに基づいて受信データを構成し、サブスクリプションアイテムを検証します。 サブスクリプションアイテムを検証したら、サブスクリプションを承認する必要があります。
3.	サブスクリプションを承認する	サブスクリプションを承認します。 サブスクリプションを承認すると、プロバイダーがサブスクリプションを公開し、定義された周期に従ってデータが同期されます。

関連情報

基盤データ同期

基盤データ同期オフリングの要求

プロバイダーに基盤データ同期 (FDS) オフリングを要求して、基盤データを受信します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 **すべて** > サービスブリッジコンシューマー > 要求 **FDS** オフリング。
2. [オフリング] ドロップダウンメニューからプロバイダーを選択します。
3. オフリングのリストからオフリングを選択します。
複数のオフリングを選択できます。
4. [その他詳細] セクションで、同期間隔と UTC 時間を指定して、データ同期スケジュールを定義します。
5. [オフリングへの追加の変更を共有する] フィールドに、必要な変更に関する情報を追加します。
6. [Submit (送信)] を選択します。

タスクの結果

コンシューマーオフリング要求が作成され、ステータスが [対応中] に変わります。コンシューマーオフリングが作成されると、対応するレコードがプロバイダーのインスタンスに生成されます。

次のタスク

サブスクリプションを検証して、基盤データの受信を開始します。

基盤データ同期サブスクリプションアイテムを検証

プロバイダーから受信したサンプルデータを構成して、基盤データ同期 (FDS) サブスクリプションアイテムを検証します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

FDS オファリング要求を作成すると、プロバイダーは要求を確認し、サンプルペイロードを送信します。このペイロードは、受信するデータの構造とタイプを理解するのに役立ちます。

プロバイダーがサンプルを送信すると、FDS オファリング要求のオフリングごとにサブスクリプションが生成され、各サブスクリプションには、プロバイダーが共有している各テーブルのサブスクリプション項目が含まれます。受信サンプルデータを設定して、FDS サブスクリプションアイテムを検証する必要があります。

手順

1. 移動先 **すべて > サービスブリッジコンシューマー > FDS 要求**.
2. 要求を選択します。
3. [基盤データコンシューマーサブスクリプション] 関連リストから、[番号] 列でレコード番号を選択してコンシューマーサブスクリプションを開きます。
4. [サブスクリプションアイテム] 関連リストから、[番号] 列でレコード番号を選択してサブスクリプションアイテムを開きます。
5. 構成管理データベース (CMDB) テーブルと非 CMDB テーブルのどちらを使用しているかに応じて、統合ハブ ETL または変換マップのいずれかを使用して受信データを構成します。
依存サブスクリプションアイテムを除く各サブスクリプションアイテムの受信データを構成する必要があります。

タスクの結果

構成が完了すると、サブスクリプションアイテムとサブスクリプションのステータスが [検証済み] に変わります。

次のタスク

[サブスクリプションを承認します。](#)

基盤データ同期サブスクリプションの承認

基盤データ同期 (FDS) サブスクリプションを承認して、FDS 構成を完了します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

サブスクリプションアイテムが検証されたら、サブスクリプションを受け入れて FDS 構成を完了する必要があります。

手順

1. 移動先 **すべて > サービスブリッジコンシューマー > オープンレコード > FDS 要求**.
2. 要求を選択します。
3. [基盤データコンシューマーサブスクリプション] 関連リストから、[番号] 列でレコード番号を選択してコンシューマーサブスクリプションを開きます。

4. [承認] を選択します。

[拒否] を選択してサブスクリプションを拒否した場合、プロバイダーはサンプル ファイルを再送信する必要があります、サブスクリプションを再度受け入れる前にサブスクリプション アイテムを再構成する必要があります。

基盤データ同期構成のインポートとエクスポート

更新セットを使用して、基盤データ同期 (FDS) の ETL 構成をあるインスタンスから別のインスタンスにエクスポートします。

始める前に

FDS では、インポートされた構成のリンクまたは使用をサポートするために、サブスクリプションの次のフィールドをエクスポートインスタンスとインポートインスタンスの両方で同一にする必要があります。

- オファリング定義名
- オファリングの一部として提供されるテーブルのリスト
- サブスクリプションのケイデンス
- プロバイダーの会社名
- FDSの互換性。

また、オファリング定義と接続会社は、エクスポートインスタンスとインポートインスタンスの両方で同じである必要があります。

必要なロール：admin

このタスクについて

あるインスタンスから ETL 構成をエクスポートし、別のインスタンスにインポートすることができます。たとえば、本番前環境で ETL を構成し、それらの構成をエクスポートして本番環境にインポートできます。FDS は更新セットを介したこの転送をサポートしており、構成のシームレスな再利用を可能にします。

手順

1. ETL 構成をエクスポートします。

- a. ローカル更新セットを作成し、現在の更新セットとしてマークします。
- b. 基盤データ同期 (FDS) オファリングを要求し、構成を完了して、データ同期が正しく機能していることを確認します。
基盤データ同期 (FDS) オファリングを要求する方法の詳細については、「[基盤データ同期オファリングの要求](#)」を参照してください。
- c. 更新セットを完成させてエクスポートします。
更新セットの詳細については、「[Get started with update sets](#)」を参照してください。

2. ETL 構成を別のインスタンスにインポートします。

- a. 新しいインスタンスで、[ステップ 1](#) と同じ頻度で基盤データ同期 (FDS) オファリングを要求します。
- b. FDS 要求のサブスクリプションが作成され、要求が検証待ちステータスになったら、ステップ 1 でエクスポートした構成をインポートします。

更新セットにエラーがある場合は、それらのファイルをスキップして残りのファイルを収容できます。構成は影響を受けません。更新セットの詳細については、「[Get started with update sets](#)」を参照してください。

c. サブスクリプションとサブスクリプションアイテムを開きます。

d. **[ETL 変換マップ支援]** を選択します。

ガイド付きセットアップでは、ステップ 1、ステップ 2、ステップ 3 が完了としてマークされます。詳細については、「[基盤データ同期サブスクリプションアイテムを検証](#)」を参照してください。

e. ETL 構成のすべての手順を確認してすべてが正しくマッピングされていることを確認し、統合を実行してロールバックを実行してください。

詳細については、「[IntegrationHub ETL](#)」を参照してください。

セールスと注文管理 との統合

プロバイダーは、サービスブリッジを使用して、サービスブリッジリモートレコードプロデューサーを使用して製品オファーを消費者に公開できます。

消費者は、接続されたプロバイダーの セールスと注文管理 製品オフリングを ServiceNow インスタンスのサービスカタログから注文できるため、迅速な注文処理、精度の向上、および顧客満足度の向上が可能になります。詳細については、「[Order Management for providers with Service Bridge](#)」を参照してください。

サービスブリッジの参照

参照トピックには、サービスブリッジ データモデルと構成に関する追加情報が記載されています。

サービスブリッジデータモデル

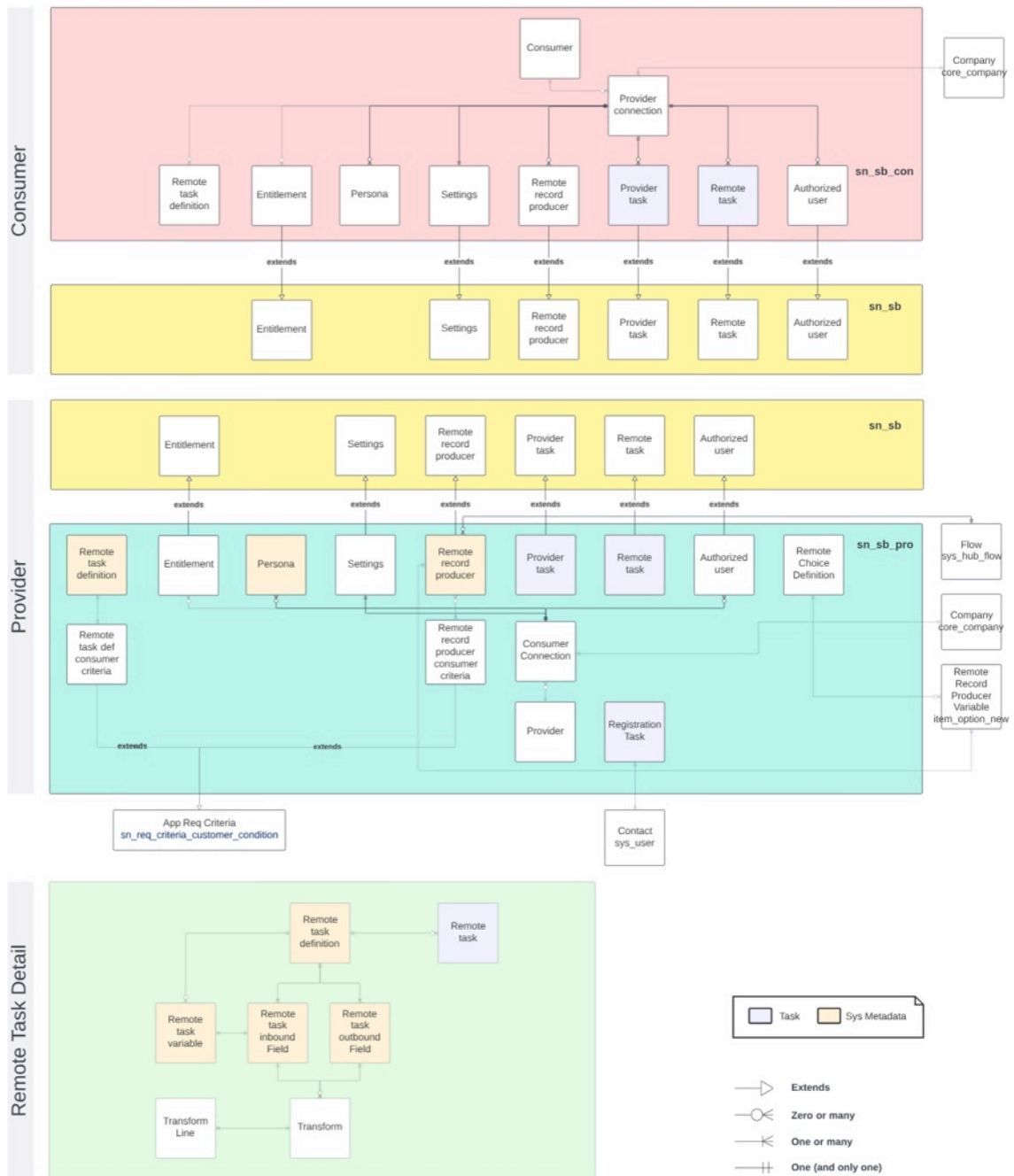
サービスブリッジアプリケーションデータモデルは、サービスブリッジで使用するテーブルが互いにどのように関連しているかについてのインサイトを提供します。

データモデルでは、次のタイプのテーブルを組み合わせてデータを格納します。

- サービスブリッジ アプリケーションテーブル。
- ServiceNow AI Platform 標準テーブル。

次の図は、サービスブリッジのデータモデルの概要を示しています。

サービスブリッジデータモデル



自動翻訳

次の表に、特定の サービスブリッジ ベーステーブルのアクセス制御権限 (ACR) を示します。

サービスブリッジベースアプリケーションのロール別のテーブルへのアクセス

テーブル	読み込み	書き込み	削除	作成
認定ユーザー [sn_sb_authorized_user]	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin
接続 [sn_sb_connection]	アドミン sn_sb.admin	アドミン	アドミン	アドミン

サービスブリッジベースアプリケーションのロール別のテーブルへのアクセス (続く)

テーブル	読み込み	書き込み	削除	作成
エンタイトルメント [sn_sb_entitlement]	アドミン sn_sb.admin	アドミン	なし	なし
プロバイダータスク [sn_sb_provider_task]	アドミン sn_sb.admin sn_sb.requestor	アドミン sn_sb.admin sn_sb.requestor	アドミン	アドミン sn_sb.admin sn_sb.requestor
リモートレコードプロ デューサー [sn_sb_remote_record_producer]	アドミン sn_sb.admin	アドミン	アドミン	アドミン
リモートタスク [sn_sb_remote_task]	アドミン sn_sb.admin sn_sb.remote_task_creator	なし	なし	なし
スクラッチパッド [sn_sb_scratchpad]	アドミン	なし	なし	なし
変換 [sn_sb_transform]	アドミン sn_sb.admin	なし	なし	なし
線を変換 [sn_sb_transform_line]	アドミン sn_sb.admin	なし	なし	なし

サービスブリッジ **for Providers** データモデル

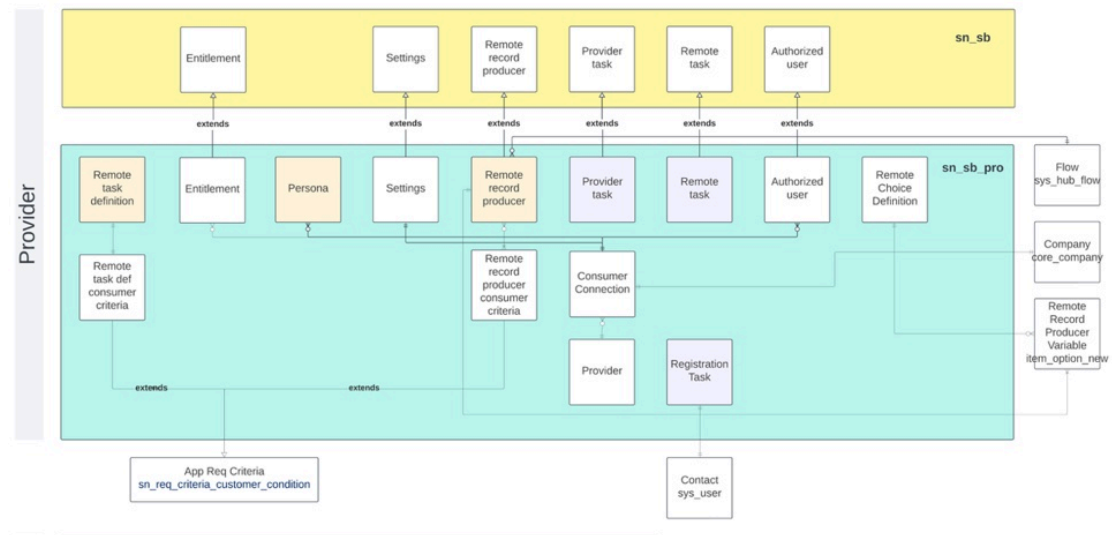
プロバイダー向け サービスブリッジ データモデルは、プロバイダー向け サービスブリッジ アプリケーションで使用されるテーブルが互いにどのように関連しているかについてのインサイトを提供します。

プロバイダー向け サービスブリッジ アプリケーションデータモデルは、次のタイプのテーブルの組み合わせを使用してデータを格納します。

- サービスブリッジ あります
- カスタマーサービス管理 (CSM) アプリケーションテーブル。
- ServiceNow AI Platform 標準テーブル。

次の図は、 サービスブリッジ for Providers アプリケーションのデータモデルの概要を示しています。

プロバイダー向けサービスブリッジのデータモデル



次の表に、プロバイダーテーブルの特定の サービスブリッジ のアクセス制御権限 (ACR) を示します。

サービスブリッジ **for Providers** アプリケーションでのロール別のテーブルへのアクセス

テーブル	読み込み	書き込み	削除	作成
認定ユーザー [sn_sb_pro_authorized_user]	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin
コンシューマー接続 [sn_sb_pro_consumer_connection]	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin
エンタイトルメント [sn_sb_pro_entitlement]	アドミン sn_sb.admin	なし	なし	なし
受信フィールド [sn_sb_pro_inbound_field]	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin
送信フィールド [sn_sb_pro_outbound_field]	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin
ペルソナ [sn_sb_pro_persona]	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin
プロバイダー	アドミン	アドミン	アドミン	アドミン

サービスブリッジ **for Providers** アプリケーションでのロール別のテーブルへのアクセス (続く)

テーブル	読み込み	書き込み	削除	作成
[sn_sb_pro_provider]	sn_sb.admin			
プロバイダタスク	アドミン	アドミン	アドミン	アドミン
[sn_sb_pro_provider_task]	sn_sb.admin sn_sb.requestor	sn_sb.admin sn_sb.requestor		sn_sb.admin sn_sb.requestor
登録	アドミン	アドミン	アドミン	アドミン
[sn_sb_pro_registration]	sn_sb.admin sn_sb_pro_consumer	sn_sb.admin	sn_sb.admin	sn_sb.admin
リモート選択定義	アドミン	なし	なし	なし
[sn_sb_pro_remote_choice_definition]	sn_sb.admin			
リモートレコード プロデューサ	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin
[sn_sb_con_remote_record_producer]				
コンシューマー基準	アドミン	アドミン	アドミン	アドミン
[sn_sb_pro_remote_record_producer_consumer_standard]	sn_sb.admin	sn_sb.admin	sn_sb.admin	sn_sb.admin
リモートサービス	アドミン	アドミン	アドミン	アドミン
[sn_sb_pro_remote_service]	sn_sb.admin			
リモートタスク	アドミン	アドミン	アドミン	アドミン
[sn_sb_con_remote_task]	sn_sb.admin sn_sb.remote_task_作成者	sn_sb.admin sn_sb.remote_task_作成者	sn_sb.admin sn_sb.remote_task_作成者	sn_sb.admin sn_sb.remote_task_作成者
リモートタスク 定義	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin
[sn_sb_con_remote_task_definition]	sn_sb.remote_task_作成者			sn_sb.remote_task_作成者
コンシューマー基準	アドミン	アドミン	アドミン	アドミン

サービスブリッジ **for Providers** アプリケーションでのロール別のテーブルへのアクセス (続く)

テーブル	読み込み	書き込み	削除	作成
[sn_sv_pro_remote_task_definition_criteria]	sn_sb.admin	sn_sb.admin	sn_sb.admin	sn_sb.admin
変数 [sn_sb_con_remote_task_variable]	sn_sb.admin	sn_sb.admin	sn_sb.admin	sn_sb.admin
サービスブリッジ 設定 [sn_sb_con_service_bridge_settings]	sn_sb.admin	sn_sb.admin	なし	なし
変換 [sn_sb_con_transform]	sn_sb.admin	sn_sb.admin	sn_sb.admin	sn_sb.admin

サービスブリッジ **for Consumers** データモデル

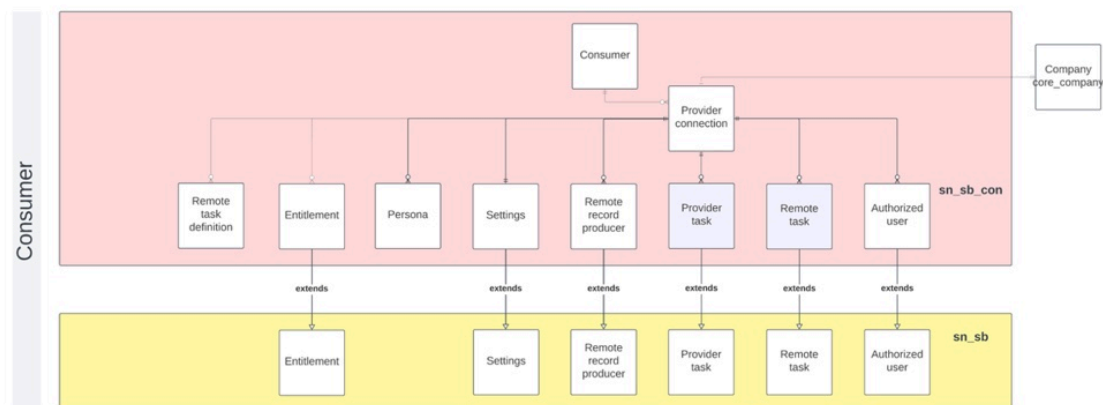
コンシューマー向け サービスブリッジ データモデルは、コンシューマー向け サービスブリッジ アプリケーションで使用するテーブルが互いにどのように関連しているかについてのインサイトを提供します。

コンシューマー向け サービスブリッジ データモデルでは、次のタイプのテーブルを組み合わせることでデータを格納します。

- サービスブリッジ コンシューマーアプリケーションテーブル。
- カスタマーサービス管理 (CSM) アプリケーションテーブル。
- ServiceNow AI Platform 標準テーブル。

次の図は、コンシューマー向け サービスブリッジ アプリケーションのデータモデルの概要を示しています。

コンシューマー向けサービスブリッジデータモデル



次の表に、コンシューマーテーブルの特定の サービスブリッジ のアクセス制御権限 (ACR) を示します。

コンシューマー向け サービスブリッジ アプリケーションでのロール別のテーブルへのアクセス

テーブル	読み込み	書き込み	削除	作成
認定ユーザー [sn_sb_con_authorized_user]	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin
コンシューマー [sn_sb_con_consumer]	アドミン sn_sb.admin	アドミン	アドミン	アドミン
エンタイトルメント [sn_sb_con_entitlement]	アドミン sn_sb.admin	なし	なし	なし
受信フィールド [sn_sb_con_inbound_field]	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	なし	なし
送信フィールド [sn_sb_con_outbound_field]	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	なし	なし
ペルソナ [sn_sb_con_persona]	アドミン sn_sb.admin	なし	なし	なし
プロバイダー接続 [sn_sb_con_provider_connection]	アドミン sn_sb.admin	アドミン	アドミン	なし
プロバイダータスク [sn_sb_con_provider_task]	アドミン sn_sb.admin sn_sb_requestor	アドミン sn_sb.admin sn_sb_requestor	アドミン	アドミン sn_sb.admin sn_sb_requestor
リモート選択キャッシュ [sn_sb_con_remote_choice_cache]	アドミン	アドミン	なし	なし
リモートレコードプロ デューサー [sn_sb_con_remote_record_producer]	アドミン sn_sb.admin sn_sb_requestor	なし	アドミン sn_sb.admin	なし
リモートタスク	アドミン	アドミン	アドミン	アドミン

コンシューマー向け サービスブリッジ アプリケーションでのロール別のテーブルへのアクセス (続く)

テーブル	読み込み	書き込み	削除	作成
[sn_sb_con_remote_tasks]	sn_sb.admin sn_sb_remote_tasks_ 作成者	sn_sb.admin sn_sb_remote_tasks_ 作成者	sn_sb.admin sn_sb_remote_tasks_ 作成者	sn_sb.admin sn_sb_remote_tasks_ 作成者
リモートタスク定義 [sn_sb_con_remote_tasks_def]	アドミン sn_sb.admin sn_sb_remote_tasks_ 作成者	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	なし
変数 [sn_sb_con_remote_tasks_variable]	アドミン sn_sb.admin	なし	なし	なし
サービスブリッジ設定 [sn_sb_con_service_bridge_settings]	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	なし	なし
リモート選択 [sn_sb_con_st_remote_choices]	アドミン sn_sb.admin sn_sb_requestor	なし	なし	なし
変換 [sn_sb_con_transform]	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin	アドミン sn_sb.admin

プロバイダー向け サービスブリッジ とともにインストールされるコンポーネント

プロバイダー向け サービスブリッジ アプリケーションをアクティブ化すると、いくつかのタイプのコンポーネント (テーブル、ユーザーロール、ビジネスルールなど) がインストールされます。

アプリケーションファイル [sys_metadata] テーブルには、このアプリケーションとともにインストールされたコンポーネントがリストされています。このテーブルへのアクセス手順については、「[アプリケーションとともにインストールされているコンポーネントの検索](#)」を参照してください。

インストールされているロール

次のロールは、プロバイダー向け サービスブリッジ アプリケーションとともにインストールされます。

プロバイダー向け サービスブリッジアプリケーションとともにインストールされるロール

ロールタイトル [名前]	説明	含まれるロール
サービスブリッジ要求者 [sn_sb.requestor]	- 顧客の IT スタッフのメンバーが、サービスカタログからプロバイダーへのサービスを要求および監視できるようにします。 i 注: プロバイダーのリモートレコードプロデューサーにアクセスする必要がある顧客のスタッフのメンバーには、このロールが必要です。 - リモートレコードプロデューサーとプロバイダータスクへのアクセスを提供します。	該当なし
サービスブリッジ読み取り [sn_sb.read]	- プロバイダーのカスタマーサービスエージェントがプロバイダータスクレコードの内容を読み取れるようにします。 - サービスブリッジ アプリケーションへの読み取り専用アクセス権を付与します。	該当なし
サービスブリッジアドミン [sn_sb.admin]	- 通常、顧客とプロバイダー側の両方の サービスブリッジ アプリケーションのアドミニストレーターにアサインされます。 - すべての サービスブリッジ テーブルへの読み取りアクセス権を付与します	- sn_sb.requestor - sn_sb.remote_task_creator - sn_sb.read - flow_designer - sn_customerservice.case_viewer - sn_customerservice.customer_data_viewer - カタログ

インストールされるビジネスルール

次のビジネスルールは、 サービスブリッジ for Providers アプリケーションとともにインストールされます。

プロバイダー向け サービスブリッジアプリケーションとともにインストールされるビジネスルール

ビジネスルール	テーブル	説明
重複リモートタスクの挿入を中止	sn_sb_pro_remote_task	リモートタスクがすでに存在する場合は、リモートタスクの挿入を中止します。
重複する変換が見つかった場合は中止	sn_sb_pro_transform	重複が見つかった場合、変換の挿入または更新を中止します。
URL が重複している場合は中止	sn_sb_pro_consumer_接続	重複する URL が既に存在する場合、コンシューマー接続の挿入を中止します。
フィールド名が既に使用中の場合は中止	sn_sb_pro_inbound_field	名前が重複している場合は、受信フィールドの挿入を中止します。
フィールド名が既に使用中の場合は中止	sn_sb_pro.outbound_field	名前が重複している場合は、送信フィールドの挿入を中止します。
リモートタスク定義を編集できない場合は中止	sn_sb_pro_remote_task_def_customer_criteria	関連するリモートタスク定義が編集可能ステータスでない場合、コンシューマー基準の作成または編集をブロックします。
リモートタスク定義を編集できない場合は中止	sn_sb_pro_inbound_field	関連付けられたリモートタスク定義が編集可能ステータスでない場合、受信フィールドの挿入をブロックします。
リモートタスク定義を編集できない場合は中止	sn_sb_pro_outbound_field	関連付けられたリモートタスク定義が編集可能ステータスでない場合、送信フィールドの挿入をブロックします。
重複レコードの場合は公開を中止	sn_sb_pro_remote_task_def	重複レコードの場合、リモートタスク定義の公開をブロックします。
リモートタスクを中止 接続がない場合に作成	sn_sb_pro_remote_task	リモートタスクが存在する場合は接続を設定し、見つからない場合は挿入を中止します。
プロバイダーによるリモートタスク定義の削除を中止	sn_sb_pro_remote_task_def	定義が廃止ステータスでない場合、リモートタスク定義の削除を防止します。

プロバイダー向け サービスブリッジアプリケーションとともにインストールされるビジネスルール
(続く)

ビジネスルール	テーブル	説明
g_scratchpadに cat_item名を追加	item_option_new	カタログアイテム名をディスプレイのスクラッチパッドに追加します。
コンシューマー接続 データをセッションに 追加	sn_sb_pro_consumer_ 接続	コンシューマー接続データをセッションデータに追加します。
承認レコードを承認	sn_sb_pro_provider_task	プロバイダータスクを通じてレコード承認を処理します。
削除可能であることを 保証	sn_sb_pro_remote_ choice_definition	リモートタスク定義が削除可能であることを確認します。
ペルソナ名の一意性を 保証	sn_sb_pro_persona	同じ名前のペルソナレコードが作成されないようにします。
一意で更新可能である ことを保証	sn_sb_pro_remote_choice_ 定義	一意のリモートタスク定義のみが挿入または更新されるようにします。
RRP の基準の一意性を 保証	sn_sb_pro_remote_record_ producer_consumer_criteria	リモートレコードプロデューサーに追加された基準が一意であることを確認します。
リモートタスククライ アントデータをクリア	sn_sb_pro_remote_task	リモートタスクトランザクションのセッションデータをクリアします。
プロバイダータスクか ら添付ファイルをコ ピー	sys_attachment	同期されたプロバイダータスクから親タスクに添付ファイルをコピーします。
添付ファイルをプロバ イダータスクにコピー	sys_attachment	添付ファイルを親タスクからプロバイダータスクにコピーします。
挿入時にデフォルトの ユーザー基準を作成	sn_sb_pro_remote_ record_producer	リモートレコードプロデューサーの挿入時にデフォルトのユーザー基準を作成します。
トランスポート接続を 作成または更新	sn_sb_pro_consumer_ 接続	接続変更時のトランスポート接続を管理します。

プロバイダー向け サービスブリッジアプリケーションとともにインストールされるビジネスルール
(続く)

ビジネスルール	テーブル	説明
同期されたリモートタスクに親を作成	sn_sb_pro_remote_task	同期されたリモートタスクの挿入時に親タスクを作成します。
関連基準レコードを削除	sn_sb_pro_remote_task_def	リモートタスク定義の削除時に、関連する基準レコードを削除します。
関連レコードを削除	sn_sb_pro_remote_task_def	リモートタスク定義に関連付けられた受信および送信マッピングレコードを削除します。
RTD の削除時に RT を切断	sn_sb_pro_remote_task_def	リモートタスク定義が削除されると、関連するすべてのリモートタスクを切断します。
表示スコープの不一致の警告	Item_option_new	誤ったスコープ内にある場合、変数レコードに警告を表示します。
親が削除されたときにエラー RT	タスク	親タスクが削除されると、関連するすべてのリモートタスクのステータスがエラー状態に設定されます。
編集時に RRP をドラフトステータスに強制する	catalog_ui_policy_action	関連レコードが編集されたときに、リモートレコードプロデューサーのステータスを [ドラフト] に設定します。
編集時に RRP をドラフトステータスに強制する	sys_attachment	関連レコードが編集されたときに、リモートレコードプロデューサーのステータスを [ドラフト] に設定します。
編集時に RRP をドラフトステータスに強制する	catalog_ui_policy	関連レコードが編集されたときに、リモートレコードプロデューサーのステータスを [ドラフト] に設定します。
編集時に RRP をドラフトステータスに強制する	question_choice	関連レコードが編集されたときに、リモートレコードプロデューサーのステータスを [ドラフト] に設定します。
編集時に RRP をドラフトステータスに強制する	item_option_new	関連レコードが編集されたときに、リモートレコードプロデューサーのステータスをドラフトに設定します。

プロバイダー向け サービスブリッジアプリケーションとともにインストールされるビジネスルール
(続く)

ビジネスルール	テーブル	説明
更新セットを強制的に更新	item_option_new	レコードの編集時に更新セットを強制的に更新します。
更新セットを強制的に更新	catalog_ui_policy	レコードの編集時に更新セットを強制的に更新します。
更新セットを強制的に更新	catalog_ui_policy_action	レコードの編集時に更新セットを強制的に更新します。
更新セットを強制的に更新	question_choice	レコードの編集時に更新セットを強制的に更新します。
RRP の公開/廃止の生成エンタイトルメント	sn_sb_pro_remote_record_producer	公開済みまたは廃止されたリモートレコードプロデューサーのエンタイトルメントを生成します。
更新ペルソナの生成エンタイトルメント	sn_sb_pro_persona	編集時にペルソナのエンタイトルメントを生成します。
リモートタスク定義のエンタイトルメントを生成	sn_sb_pro_remote_task_def	リモートタスク定義変更のエンタイトルメントを生成します。
認定ユーザーのトランスポートを処理	sn_sb_pro_authorized_user	トランスポートレイヤーを介した許可されたユーザーの変更の送信を管理します。
会社および URL で登録タスクを制限する	sn_sb_pro_registration	会社および URL 別に登録タスクを制御します。
プロバイダーに顧客の詳細を入力	sn_sb_pro_provider_task	挿入されたプロバイダータスク情報をコンシューマー接続から入力します。
スクラッチパッドを入力	sn_sb_pro_registration	登録時にスクラッチパッドに関連情報を入力します。
サービスブリッジバージョンの変更の伝播	v_plugin	設定レコードにサービスブリッジバージョンの変更を追加します。
承認レコードを却下	sn_sb_pro_provider_task	プロバイダータスクを通じて却下を処理します。

プロバイダー向け サービスブリッジアプリケーションとともにインストールされるビジネスルール (続く)

ビジネスルール	テーブル	説明
リモート選択:属性フィールドを更新	item_option_new	変数変更のリモート選択の [属性] フィールドを更新します。
マッピング時にコンシューマーテーブルをリセット	sn_sb_pro_remote_task_def	コンシューマーテーブルのマッピングが変更されたときに、リモートタスク定義に関連付けられたマッピングのコンシューマーテーブルフィールドをリセットします。
マッピングのプロバイダーテーブルをリセット	sn_sb_pro_remote_task_def	定義プロバイダーテーブルの変更時に、リモートタスク定義に関連付けられたマッピングのプロバイダーテーブルフィールドをリセットします。
RRP 変数タイプを制限する	item_option_new	リモートタスク定義に関連付けるときに許可される変数のタイプを制限します。
RTD アクティベーション時にエラーが発生した RT を再試行	sn_sb_pro_remote_task_def	関連付けられたリモートタスク定義がアクティブで、リモートタスクの親が null の場合、リモートタスクの親の作成を再試行します。
自動承認を送信	sn_sb_pro_authorized_user	認定ユーザーの自動承認を管理します。
サービスブリッジブートストラップ	sn_sb_pro_registration	サービスブリッジオンボーディングの管理に役立ちます。
リモートタスク挿入に会社を設定	sn_sb_pro_remote_task	同期による挿入時にリモートタスクに会社 (および存在する場合はアカウント) を設定します。
コピーした RRP ステータスをデフォルトに設定	sn_sb_pro_remote_record_producer	コピー時のリモートレコードプロデューサーステータスの設定を管理します。
デフォルト値の設定	sn_sb_pro_authorized_user	挿入時に認定ユーザーのデフォルト値を設定します。
挿入時に送信変数 json を設定	sn_sb_pro_remote_task	現在のインスタンスによるリモートタスク挿入の送信変数 json フィールドを設定します。

プロバイダー向け サービスブリッジアプリケーションとともにインストールされるビジネスルール
(続く)

ビジネスルール	テーブル	説明
プロバイダータスク番号の設定	sn_sb_pro_provider_task	同期されたプロバイダータスク番号にプロバイダータスク番号を設定します。
リモートタスク番号を設定	sn_sb_pro_remote_task	同期されたリモートタスク番号にリモートタスク番号を設定します。
警告メッセージを表示	sn_sb_pro_remote_record_producer	リモートレコードプロデューサーのエラーに関する警告メッセージを表示します。
未完了のリモートタスク定義に警告を表示	sn_sb_pro_remote_task_def	必要な関連レコードがない場合、リモートタスク定義に警告を表示します。
親タスクから添付ファイルを同期	sys_attachment	添付ファイルを親タスクから関連するリモートタスクに同期します。
プロバイダータスクからのコメントを同期	sys_journal_field	同期されたプロバイダータスクのコメントを親タスクに同期します。
リモートタスク添付ファイルを親に同期	sys_attachment	同期されたリモートタスク添付ファイルを親タスクにコピーします。
変更された添付ファイルのトランスポートをトリガー	sys_attachment	トランスポートレイヤーを介して同期する添付ファイルの変更を処理します。
エンタイトルメントの転送をトリガー	sn_sb_pro_entitlement	トランスポートレイヤーを介して同期するエンタイトルメントを管理します。
挿入された添付ファイルの転送をトリガー	sys_attachment	トランスポートレイヤーを介した添付ファイルの挿入同期を管理します。
トリガープロバイダー PT トランスポート	sn_sb_pro_provider_task	トランスポートレイヤーを介したプロバイダータスク同期を管理します。
トリガープロバイダー リモートタスク移送	sn_sb_pro_remote_task	トランスポートレイヤーを介したリモートタスクの挿入と削除の同期を管理します。
リモートタスク転送の更新をトリガー	sn_sb_pro_remote_task	トランスポート層を介したリモートタスク更新同期を管理します。

プロバイダー向け サービスブリッジ アプリケーションとともにインストールされるビジネスルール (続く)

ビジネスルール	テーブル	説明
SBScratchpad トランスポートのトリガー	sn_sb_scratchpad	トランスポートレイヤーを介したスクラッチパッドの更新同期を管理します。
トリガー設定のトランスポート	sn_sb_pro_service_bridge_設定	トランスポートレイヤーを介した サービスブリッジ 設定の同期を管理します。
タスクから PT にコメントを更新	タスク	親タスクからプロバイダータスクへのコメントの同期を処理します。
コンシューマー登録の更新	sn_sb_pro_service_bridge_設定	設定レコードの挿入時にコンシューマー登録を更新します。
変更時にペルソナ RRP を更新	sn_sb_pro_persona	リモートレコードプロデューサーのペルソナが変更されたときに更新します。
認定ユーザーのフィールド値の検証	sn_sb_pro_service_bridge_設定	[認定ユーザー] フィールド値が更新されたときに検証します。
最大認定ユーザー数を検証	sn_sb_pro_service_bridge_設定	許可された最大ユーザー数が有効な範囲内にあることを確認します。
プロバイダータスクを検証	sn_sb_pro_provider_task	プロバイダータスクの挿入または更新が許可されていることを検証します。

インストールされるテーブル

次のテーブルは、プロバイダー向け サービスブリッジ アプリケーションとともにインストールされます。

プロバイダー向け サービスブリッジ アプリケーションとともにインストールされるテーブル

テーブル	説明
認定ユーザー [sn_sb_pro_authorized_user]	許可されたユーザーレコードが含まれています。
コンシューマー接続 [sn_sb_pro_consumer_connection]	プロバイダーのコンシューマー接続レコードは、ベース接続テーブルを拡張します。
エンタイトルメント [sn_sb_pro_entitlement]	プロバイダーエンタイトルメントは、資格のあるコンシューマーにレコードを関連付け、ベースエンタイトルメントテーブルを拡張します。

プロバイダー向け サービスブリッジ アプリケーションとともにインストールされるテーブル (続く)

テーブル	説明
受信フィールド [sn_sb_pro_inbound_field]	リモートタスク定義のプロバイダー側の受信フィールドマッピングを管理します。
送信フィールド [sn_sb_pro_outbound_field]	リモートタスク定義のプロバイダー側の送信フィールドマッピングを管理します。
ペルソナ [sn_sb_pro_persona]	サービスブリッジペルソナを管理します。
プロバイダー [sn_sb_pro_provider]	プロバイダー側のレコードを結び付けるプロバイダー関連付けレコード。
プロバイダータスク [sn_sb_pro_provider_task]	リモートレコードプロデューサーを介してコンシューマーによって作成された、プロバイダー側のプロバイダータスク。
登録 [sn_sb_pro_registration]	サービスブリッジ 登録レコード。
リモート選択定義 [sn_sb_pro_remote_choice_definition]	リモートレコードプロデューサーのリモート選択定義。
コンシューマー基準 [sn_sb_pro_remote_record_producer_consumer_criteria]	リモートレコードプロデューサーに起因するコンシューマー基準レコードは、特定のリモートレコードプロデューサーに対する資格を持つコンシューマーを制御します。
リモートサービス [sn_sb_pro_remote_service]	リモートサービスレコード。
リモートタスク [sn_sb_pro_remote_task]	同期されたインスタンスの親タスク間のデータ転送を管理するためのリモートタスク。
リモートタスク定義 [sn_sb_pro_remote_task_def]	リモートタスク定義は、リモートタスクの作成と処理を制御します。
コンシューマー基準 [sn_sb_pro_remote_task_def_consumer_criteria]	リモートタスク定義に起因するコンシューマー基準レコードは、特定のリモートタスク定義に対する資格を持つコンシューマーを制御します。
リモートタスク変数 [sn_sb_pro_remote_task_variable]	リモートタスクに関連付けられた Glide 変数により、受信した同期データを表示できます。
サービスブリッジ設定 [sn_sb_pro_service_bridge_settings]	プロバイダーの設定レコードは、プロバイダーとコンシューマーの間のさまざまな サービスブリッジ 設定の調整を管理します。
変換 [sn_sb_pro_transform]	プロバイダー側の変換レコード。

インストールされたフロー

次のフローは、プロバイダー向け サービスブリッジ アプリケーションとともにインストールされます。

プロバイダー向け サービスブリッジアプリケーションとともにインストールされるフロー

フロー	説明
ケースからプロアクティブプロバイダータスクを作成 [create_proactive_provider_task_from_case]	積極的ユースケースのケースからプロバイダータスクを作成します。
受信コンシューマープロバイダータスクを処理 [process_incoming_consumer_provider_task]	コンシューマーから受信したプロバイダータスクを管理します。
プロセス サービスブリッジの登録 [process_service_bridge_registration]	サービスブリッジの登録を管理します。
サービスブリッジ添付ファイルをタスクに同期 [attachment_sync_provider_task_to_task]	添付ファイルをプロバイダータスクから親タスクに同期します。
サービスブリッジケースからプロバイダーへのタスクの更新 [service_bridge_case_to_provider_task_update]	ケース更新時のプロバイダータスクの作成を管理します。
プロバイダーへのサービスブリッジの変更要求タスクの更新 [service_bridge_change_request_to_provider_task_update]	変更更新時のプロバイダータスクの作成を管理します。
プロバイダーへのサービスブリッジインシデント task_Update [service_bridge_incident_to_provider_task_update]	インシデント更新時のプロバイダータスクの作成を管理します。
サービスブリッジプロバイダーのタスクからケースへの更新 [service_bridge_provider_task_to_case_update]	プロバイダータスクの処理と関連する親ケースタスクの作成を管理します。
変更するサービスブリッジプロバイダータスク更新を要求 [service_bridge_provider_task_to_change_request_update]	プロバイダータスクの処理と関連する親変更要求タスクの作成を管理します。
サービスブリッジプロバイダータスクからインシデントの更新	プロバイダータスクの処理と関連する親インシデントタスクの作成を管理します。

プロバイダー向け サービスブリッジ アプリケーションとともにインストールされるフロー (続く)

フロー	説明
[service_bridge_provider_task_to_incident_update]	

インストールされるサブフロー

次のサブフローは、プロバイダー向け サービスブリッジ アプリケーションとともにインストールされます。

プロバイダー向け サービスブリッジ アプリケーションとともにインストールされるサブフロー

サブフロー	説明
プロバイダータスクからケースを作成 [create_case_from_provider_task]	プロバイダータスクから親タスクケースを作成します。
プロバイダータスクから変更を作成 [create_change_from_provider_task]	プロバイダータスクから親タスク変更を作成します。
プロバイダータスクからインシデントを作成 [create_incident_from_provider_task]	プロバイダータスクから親タスクインシデントを作成します。
OAuth クライアントを作成 [create_oauth_client]	オンボーディング時に OAuth クライアントを作成します。
無効なプロバイダータスクを処理 [process_invalid_provider_task]	構成が無効なプロバイダータスクを管理します。
RPS コンシューマー接続エラーを修復 [repair_rps_consumer_connection_error]	コンシューマー接続のリモートプロセス同期エラーの修正を試みます。

インストールされたフローアクション

次のフローアクションは、プロバイダー向け サービスブリッジ アプリケーションとともにインストールされます。

プロバイダー向け サービスブリッジ アプリケーションとともにインストールされるフローアクション

フローアクション	説明
添付ファイルをコピー [copy_attachment]	指定された添付ファイルを指定されたレコードにコピーします。
タスク変数をコピー [copy_task_variables]	フローで使用するタスク変数データを取得します。
リモートタスクから親を作成 [create_parent_from_remote_task]	指定されたリモートタスクから親タスクを作成します。
コンシューマーのリモートタスクを作成します [create_remote_task_for_consumer]	指定された親タスクとコンシューマーのリモートタスクを作成します。
サービスブリッジ登録メールイベントをファイル [file_service_bridge_registration_email_event]	サービスブリッジ登録時の情報を含むファイルを電子メールで送信します。
トランスポーターユーザーである [is_transporter_user]	現在のユーザーがトランスポーターユーザーかどうかを確認します。
プロバイダータスクvars_jsonを解析 [parse_provider_task_vars_json]	プロバイダータスクの vars json フィールドを解析します。
RPS コンシューマー接続を修復 [repair_rps_consumer_connection]	コンシューマー接続のリモートプロセス同期エラーの修正を試みます。

コンシューマー向け サービスブリッジ とともにインストールされるコンポーネント

いくつかのタイプのコンポーネント (テーブル、ユーザーロール、ビジネスルールなど) が、コンシューマー向け サービスブリッジ アプリケーションのアクティブ化とともにインストールされます。

注:

アプリケーションファイル [sys_metadata] テーブルには、このアプリケーションとともにインストールされたコンポーネントがリストされています。このテーブルへのアクセス手順については、「[アプリケーションとともにインストールされているコンポーネントの検索](#)」を参照してください。

インストールされているロール

次のロールは、コンシューマー向け サービスブリッジ アプリケーションとともにインストールされます。

サービスブリッジコンシューマーアプリケーションとともにインストールされるロール

ロールタイトル [名前]	説明	含まれるロール
サービスブリッジアドミン [sn_sb.admin]	• 通常、顧客とプロバイダー側の両方の サービスブリッジ アプリケーションのアドミニストレーターにアサインされます。 • すべての サービスブリッジ テーブルへの読み取りアクセス権を付与します	• sn_sb.read • sn_sb.requestor • sn_sb.remote_task_creator • flow_designer • カタログ
サービスブリッジの読み取り [sn_sb.read]	プロバイダータスクへの読み取り専用アクセス権を付与します	該当なし
サービスブリッジ要求者 [sn_sb.requestor]	リモートレコードプロデューサーとプロバイダータスクへのアクセスを提供します	該当なし

インストールされるビジネスルール

次のビジネスルールは、コンシューマー向け サービスブリッジ アプリケーションとともにインストールされます。

サービスブリッジ **for Consumers** アプリケーションとともにインストールされるビジネスルール

ビジネスルール	テーブル	説明
リモートタスクの挿入の重複を中止	[sn_sb_con_remote_task]	同じ親およびリモートタスク定義に一致するリモートタスクが既に存在する場合は、リモートタスクの挿入を中止します。
重複する変換が見つかった場合は中止	[sn_sb_con_transform]	重複が見つかった場合、変換の挿入を中止します。
URL が重複している場合は中止	[sn_sb_con_provider_connection]	同じ URL のレコードが見つかった場合、接続レコードの挿入を中止します。
リモートタスクを中止 接続がない場合に作成	[sn_sb_con_remote_task]	接続フィールドが空の場合、リモートタスクの挿入を中止します。

サービスブリッジ **for Consumers** アプリケーションとともにインストールされるビジネスルール
(続く)

ビジネスルール	テーブル	説明
プロバイダー接続データをセッションに追加	[sn_sb_con_provider_connection]	後で使用するために接続データを保存します。
ステータスを [対応中] に変更	[sn_sb_con_provider_task]	プロバイダータスクのステータスを [対応中] に更新します。
プロバイダーの公開変数を確認	[item_option_new]	公開されたプロバイダー側の変数が有効かどうかを確認します。
リモートタスク定義の単純なトリガーを確認	[task]	親タスクへの変更によってリモートタスク定義の簡易トリガー条件の変更がトリガーされたかどうかを確認します。
リモートタスククライアントデータをクリア	[sn_sb_con_remote_task]	トランザクションの完了後に、リモートタスクに関連付けられたクライアントデータをクリアします。
トランスポート接続を作成または更新	[sn_sb_con_provider_connection]	トランスポート接続の挿入と更新を管理します。
同期されたリモートタスクに親を作成	[sn_sb_con_remote_task]	同期されたリモートタスクの親タスクを作成します。
関連レコードを削除	[sn_sb_con_remote_task_def]	リモートタスク定義が削除されると、関連するレコードが削除されます。
RTD の削除時に RT を切断	[sn_sb_con_remote_task_def]	リモートタスク定義が削除されると、関連するすべてのリモートタスクを切断します。
親が削除されたときにエラー RT	[task]	親タスクが削除されると、関連するすべてのリモートタスクでエラーになります。
OAuth レジストリの生成	[sn_sb_con_provider_connection]	接続の OAuth レジストリを作成します。
認定ユーザーのトランスポートを処理	[sn_sb_con_authorized_user]	許可されたユーザーレコードをトランスポートレイヤー経由で送信します。
アーカイブ時の非アクティブなリモートタスク定義	[sn_sb_con_remote_task_def]	プロバイダーによってアーカイブされたコンシューマーインスタンスのリモートタスク定義を非アクティブ化します。
コンシューマーに会社を入力	[sn_sb_con_provider_task]	挿入時にプロバイダータスクに会社フィールドを設定します。
プロバイダータスクデータの入力	[sn_sb_con_provider_task]	プロバイダータスクの挿入時に追加データを追加します。

サービスブリッジ **for Consumers** アプリケーションとともにインストールされるビジネスルール
(続く)

ビジネスルール	テーブル	説明
削除されたエンタイトルメントを処理	[sn_sb_con_entitlement]	関連する要素を削除してエンタイトルメントの削除を管理します。
エンタイトルメント添付ファイルの変更を処理	[sys_attachment]	エンタイトルメントの添付ファイルの変更を管理します。
新規および更新されたエンタイトルメントを処理	[sn_sb_con_entitlement]	新しいエンタイトルメントの作成と既存のエンタイトルメントの更新を管理します。
サービスブリッジバージョンの変更の伝播	[v_plugin]	サービスブリッジバージョンが更新されたときに設定を追跡して更新します。
リモート選択:ユーザー選択をキャッシュ	[sn_sb_con_provider_task]	ユーザーの選択をキャッシュして、同じデータに対する要求が繰り返されるのを防ぎます。
RTD アクティベーション時にエラーが発生した RT を再試行	[sn_sb_con_remote_task_def]	関連するリモートタスク定義がアクティブ化されている場合に、エラーが発生したリモートタスクの親タスクの作成を試みます。
リモートタスク挿入時に会社フィールドを設定	[sn_sb_con_remote_task]	挿入中のリモートタスクの会社フィールドを設定します。
RRP から接続 ID を設定	[sn_sb_con_provider_task]	プロバイダタスクに関連付けられたリモートレコードプロデューサーからの接続 ID を設定します。
設定の挿入時に顧客バージョンを設定	[sn_sb_con_service_bridge_settings]	挿入操作中に [設定] でコンシューマーアプリケーションのバージョン サービスブリッジを設定します。
デフォルト値の設定	[sn_sb_con_authorized_user]	作成時に認定ユーザーのデフォルト値を設定します。
挿入時に送信変数 json を設定	[sn_sb_con_remote_task]	現在のインスタンスによって挿入されたとき、リモートタスクの送信 json フィールドを設定します。
プロバイダタスク番号の設定	[sn_sb_con_provider_task]	クライアントデータからの挿入時にプロバイダタスク番号を設定します
リモートタスク番号を設定	[sn_sb_con_remote_task]	クライアントデータからの挿入時にリモートタスク番号を設定します
仮想変換のテーブルの詳細を設定	[sn_sb_con_transform]	仮想変換にテーブルデータを設定します。

サービスブリッジ **for Consumers** アプリケーションとともにインストールされるビジネスルール
(続く)

ビジネスルール	テーブル	説明
親タスクから添付ファイルを同期	[sys_attachment]	親タスクの添付ファイルを、親タスクに関連付けられたすべてのリモートタスクに同期します。
リモートタスク添付ファイルを親に同期	[sys_attachment]	添付ファイルをリモートタスクから親タスクに同期します。
変更された添付ファイルのトランスポートをトリガー	[sys_attachment]	更新時に、トランスポートレイヤーを介した添付ファイルの同期をトリガーします。
コンシューマー PT トランスポートのトリガー	[sn_sb_con_provider_task]	トランスポートレイヤーを介してプロバイダタスクの同期をトリガーします。
コンシューマーリモートタスク転送をトリガー	[sn_sb_con_remote_task]	挿入または削除操作中にトランスポートレイヤーを介したリモートタスク同期をトリガーします。
挿入された添付ファイルの転送をトリガー	[sys_attachment]	挿入操作中にトランスポートレイヤーを介した添付ファイルの同期をトリガーします。
リモートタスク転送の更新をトリガー	[sn_sb_con_remote_task]	更新時にトランスポートレイヤーを介したリモートタスク同期をトリガーします。
SBScratchpad トランスポートのトリガー	[sn_sb_scratchpad]	トランスポートレイヤーを介したスクラッチパッドの同期をトリガーします。
トリガー設定のトランスポート	[sn_sb_con_service_bridge_settings]	トランスポートレイヤーを介した設定レコードの同期をトリガーします。
削除時にエンタイトルメントステータスを更新	[sn_sb_con_service_bridge_settings]	削除時にエンタイトルメントステータスを更新します。
削除時にエンタイトルメントステータスを更新	[sn_sb_con_persona]	削除時にエンタイトルメントに関するペルソナレコードを更新します。
削除時にエンタイトルメントステータスを更新	[sn_sb_con_remote_task_def]	エンタイトルメントに関するリモートタスク定義レコードが削除されると、更新されます。
更新時にエンタイトルメントステータスを更新	[sn_sb_con_persona]	更新時にエンタイトルメントのペルソナレコードを管理します。
更新時にエンタイトルメントステータスを更新	[sn_sb_con_remote_task_def]	更新時にエンタイトルメントのリモートタスク定義レコードを管理します。

サービスブリッジ **for Consumers** アプリケーションとともにインストールされるビジネスルール (続く)

ビジネスルール	テーブル	説明
更新時にエンタイトルメントステータスを更新	[sn_sb_con_remote_record_producer]	更新時にエンタイトルメントレコードプロデューサーレコードを管理します。
アクティベーションを検証し、セットアップを完了します	[sn_sb_con_remote_record_producer]	アクティブ化する前に、リモートレコードプロデューサーを検証します。
顧客の要求を検証	[sn_sb_con_provider_task]	プロバイダータスクで有効な接続を確認します。
グローバルスクリプトインクルードがない場合に警告	[sn_sb_con_remote_record_producer]	リモートレコードプロデューサーの処理時にグローバルスクリプトインクルードが存在しない場合は、警告を表示します。

インストールされるテーブル

サービスブリッジ **for Consumers** アプリケーションとともにインストールされるテーブル

テーブル	説明
認定ユーザー [sn_sb_con_authorized_user]	認定ユーザー。
接続 [sn_sb_con_consumer]	コンシューマー側の接続レコード。
エンタイトルメント [sn_sb_con_entitlement]	エンタイトルメントを拡張するコンシューマーサイドテーブル。
受信フィールド [sn_sb_con_inbound_field]	リモートタスク定義のコンシューマー側受信フィールド。
送信フィールド [sn_sb_con_outbound_field]	リモートタスク定義のコンシューマー側の送信フィールド。
ペルソナ [sn_sb_con_persona]	コンシューマー側のペルソナレコード。
プロバイダー接続 [sn_sb_con_provider_connection]	ベース接続テーブルを拡張し、コンシューマーをプロバイダーインスタンスにリンクするプロバイダー接続レコード。
プロバイダータスク [sn_sb_con_provider_task]	コンシューマー側のプロバイダータスクレコードは、プロバイダータスクベーステーブルを拡張します。

サービスブリッジ **for Consumers** アプリケーションとともにインストールされるテーブル (続く)

テーブル	説明
リモート選択キャッシュ [sn_sb_con_remote_choice_cache]	リモート選択クエリーのコンシューマー側のキャッシュ。
リモートレコードプロデューサー [sn_sb_con_remote_record_producer]	コンシューマー側のリモートレコードプロデューサーレコード。
リモートタスク [sn_sb_con_remote_task]	コンシューマー側のリモートタスクレコードは、リモートタスクベーステーブルを拡張します。
リモートタスク定義 [sn_sb_con_remote_task_def]	コンシューマー側のリモートタスク定義レコード。
リモートタスク変数 [sn_sb_con_remote_task_variable]	Glide 変数を拡張するリモートタスク関連変数テーブル。
サービスブリッジ設定 [sn_sb_con_service_bridge_settings]	設定レコード サービスブリッジ コンシューマー側は、設定ベーステーブルを拡張します。
リモート選択 [sn_sb_con_st_remote_choice]	コンシューマー側のリモート選択レコード。
変換 [sn_sb_con_transform]	コンシューマー側変換レコード、拡張変換ベーステーブル。

インストールされたフロー

次のフローは、サービスブリッジ for Consumers アプリケーションとともにインストールされます。

サービスブリッジ **for Consumers** アプリケーションとともにインストールされるフロー

フロー	説明
リモート選択変数を使用してリモートレコードプロデューサーのエントリーメントを処理 [process_remote_record_producer_entitlements_with_remote_choice_variables]	リモート選択変数を含むコンシューマーのリモートレコードプロデューサーのエントリーメントを処理します。

インストールされるサブフロー

次のサブフローは、コンシューマー向け サービスブリッジ アプリケーションとともにインストールされます。

コンシューマー向け サービスブリッジ アプリケーションとともにインストールされるサブフロー

サブフロー	説明
RPS プロバイダー接続エラーを修復 [repair_rps_provider_connection_error]	エラー状態の場合、リモートプロセス同期を使用してプロバイダー接続エラーを処理します。

インストールされたフローアクション

次のフローアクションは、コンシューマー向け サービスブリッジ アプリケーションとともにインストールされます。

コンシューマー向け サービスブリッジ アプリケーションとともにインストールされるフローアクション

アクション	説明
リモートタスクから親を作成 [create_parent_from_remote_task]	同期されたリモートタスクの親レコードを作成します。
レコードプロデューサーとリモート選択依存変数を作成 [create_record_producer_and_entities]	同期されたエンタイトルメントから、リモートレコードプロデューサーと関連するリモート選択枝依存変数を作成します。
リモートタスクを作成 [create_remote_task]	指定された親およびリモートタスク定義のリモートタスクを作成します。
RPS プロバイダー接続を修復 [repair_rps_provider_connection]	プロバイダー接続のリモートプロセス同期エラーの修正を試みます。

サービスブリッジ エラーログ

最近のトランザクションのエラーを追跡し、接続ステータスを提供し、健全性チェックを実行し、推奨事項を提供します。

このタスクについて

注:

Yokohamaリリースには、サービスブリッジエラーをキャプチャするためのフレームワークが含まれています。現在、テーブルには次の既知のエラーが表示されます。

1. グローバルスクリプトインクルードチェック: このスクリプトがインストールされているかどうか、および最新バージョンかどうかを確認します。
2. プロバイダーの登録時: 登録タスクの作成から完了してクローズまでのエラーをキャプチャします。過去 1 時間にキャプチャされたエラーのリストと、原因および解決策が記載されたメール通知が、 サービスブリッジ アドミニストレーターに送信されます。
3. コンシューマーの登録中: プロバイダー接続レコードの作成から完了してクローズまでのエラーをキャプチャします。過去 1 時間にキャプチャされたエラーのリストと、原因および解決策が記載されたメール通知が、 サービスブリッジ アドミニストレーターに送信されます。
4. リモートシステムの送受信エラー
5. ハートビート接続

エラーを表示および診断し、提供された手順に従ってエラーを解決できます。エラーは発生時にログに記録され、過去 1 時間に新しいエラーが発生した場合は、サービスブリッジ アドミニストレーターにメール通知が送信されます。各エラーレコードには、次の詳細が表示されます。

- エラーの詳細な説明。
- エラーが発生した理由。
- エラーを解決する手順。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 移動先 **すべて > サービスブリッジプロバイダー > アドミニストレーション > エラーログ**。
発生したエラーのリストが表示されます。

注：
コンシューマーインスタンスのエラーを表示できます。これを行うには、コンシューマーインスタンスにログインし、**すべて > サービスブリッジコンシューマー > アドミニストレーション > エラーログ**。

2. エラーを表示するには、[番号] リンクをクリックします。
3. 次の詳細が表示されます。

フィールド	説明
番号	エラーに割り当てられた番号。
既知のエラー	エラーとその解決方法に関する詳細情報。この情報は下のフィールドに表示されます。
エラー	エラーの詳細な説明。
原因	エラーが発生した理由。これが既知の問題でない場合、[原因] は [不明] に設定されます。
ソリューション	エラーを解決するために必要な手順が記載されたナレッジベース記事へのリンクが表示されます。
接続	エラーの原因が接続の問題である場合に、このフィールドに値が入力されます。
作成日時	エラーが発生した日時。

ドメインセパレーションと サービスブリッジ

サービスブリッジ ではドメインセパレーションがサポートされています。ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：ベーシック

- アプリケーションサービスプロバイダーのユースケースに合わせてデータが適切なドメインに送られるようにするビジネスロジックが存在します。
- このアプリケーションは、ドメインセパレーションを完全にサポートしています。ドメインセパレーションには、ユーザーインターフェイス、キャッシュキー、レポート、ロールアップ、および集計からのドメインの分離が含まれます。
- インスタンスのオーナーは、複数のテナント間で正常に機能するようにアプリケーションをセットアップする必要があります。

サンプルユースケース：サービスプロバイダーがチャットを使用してテナント顧客のメッセージに回答する場合、お客様がサービスプロバイダーの応答を確認できるようにする必要があります。

サポートレベルの詳細については、「[アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート](#)」を参照してください。

プロバイダータスクテーブルとリモートタスクテーブルでは、ドメインセパレーションを使用できます。これらのテーブルにデータが追加されると、サービスブリッジは親タスクのドメイン (利用可能な場合)、またはデフォルトで関連会社に基づいて接続されたインスタンスに挿入します。必要に応じて、インスタンスアドミンは、サービスブリッジデフォルトルールが適用された後に独自のビジネスルールを適用してデータをリダイレクトできます。ただし、これは、レコードを挿入する前にレコードに別の会社を設定することによってのみ行う必要があります。

サービスブリッジにおけるドメインセパレーションの仕組み

- アプリケーション内のプロバイダータスクテーブルとリモートタスクテーブルは、ドメインセパレーションされています。
- ドメインセパレーションロジックが機能するように、コンシューマー会社テーブルとアカウントテーブルが適切なドメインに関連付けられていることを確認してください。

ユースケース

プロバイダーのコンシューマーデータがドメインによって分離されている場合、プロバイダータスク、リモートタスク、および対応する親タスクは、それぞれの顧客ドメインに関連付けられます。

関連情報

[サービスプロバイダーのドメインセパレーション](#)

サービスブリッジによるインスタンスのクローン作成

サービスブリッジをインストールする場合、クローン作成後に接続を維持するために、特定のテーブルを保持または除外する必要があります。

デフォルトのシステムプロファイルが使用されている場合、サービスブリッジテーブルデータの一部は保持されません。この問題を解決するには、サービスブリッジに必要な特定の設定を使用してカスタムクローンプロファイルを作成する必要があります。移動先 [すべて > システムクローン > クローンプロファイル](#) をクリックし、[新規] を選択してカスタムプロファイルを作成します。クローンプロファイルの詳細については、「[Create a custom clone profile \(legacy\)](#)」を参照してください。このプロファイルでは、次のことを行う必要があります。

- [クリーンアップスクリプト] 関連リストから [リモートプロセス同期の無効化レコード] スクリプトを削除します。
- カスタムプロファイルに次の サービスブリッジ テーブルが含まれているかどうかを検証します。

i 注:

- プロバイダーインスタンスとコンシューマーインスタンスに同じ会社が存在しない場合、[会社] フィールドは削除され、受信接続と発信接続は [エラー] ステータスに移行します。
- 両方のインスタンスに同じ会社が存在する場合でも、接続がエラー状態になることがあります。この場合、接続を再確立し、キャプチャ定義をアクティブ化する必要があります。

保持する サービスブリッジ テーブル

次の サービスブリッジ テーブルがない場合は、[クローンプロファイル保持者] リストに追加します。このリストにない サービスブリッジ テーブルを削除します。

ユーザー	テーブル名
プロバイダー	• catalog_ui_policy • catalog_ui_policy_action • ih_sync_capture_definition • ih_sync_definition • ih_sync_inbound_definition • ih_sync_outbound_definition • ih_sync_process_event • ih_sync_remote_system • item_option_new • sc_cat_item_catalog • sc_cat_item_category • sc_cat_item_user_criteria_mtom • sc_cat_item_user_criteria_no_mtom • sc_category • scan_finding • scan_task • sn_sb_authorized_user • sn_sb_error • sn_sb_identity • sn_sb_known_error_code • sn_sb_pro_authorized_user • sn_sb_pro_consumer_connection • sn_sb_pro_entitlement • sn_sb_pro_provider • sn_sb_pro_provider_task • sn_sb_pro_registration • sn_sb_pro_remote_choice_definition

ユーザー	テーブル名
	• sn_sb_pro_remote_record_producer • sn_sb_pro_remote_service • sn_sb_pro_remote_task • sn_sb_pro_remote_task_variable • sn_sb_pro_service_bridge_settings • sn_sb_pro_transform • sn_sb_provider_task • sn_sb_release • sn_sb_remote_script_approval • sn_sb_remote_task • sn_sb_rps_connection • sn_sb_scratchpad • sn_sb_service_bridge_settings • sn_sb_transform_line • sn_transport_profile • sn_transport_queue • sys_alias • sys_user • sys_user_has_role • user_criteria
コンシューマー	• catalog_ui_policy • catalog_ui_policy_action • ih_sync_capture_definition • ih_sync_definition • ih_sync_inbound_definition • ih_sync_outbound_definition • ih_sync_process_event • ih_sync_remote_system • item_option_new • sc_cat_item_catalog • sc_cat_item_category • sc_cat_item_user_criteria_mtom • sc_cat_item_user_criteria_no_mtom • sc_category • scan_finding

ユーザー	テーブル名
	• scan_task • sn_sb_authorized_user • sn_sb_con_authorized_user • sn_sb_con_consumer • sn_sb_con_entitlement • sn_sb_con_inbound_field • sn_sb_con_outbound_field • sn_sb_con_persona (コンシューマー側) • sn_sb_con_provider_connection • sn_sb_con_provider_task • sn_sb_con_remote_record_producer • sn_sb_con_remote_task • sn_sb_con_remote_task_def • sn_sb_con_remote_task_variable • sn_sb_con_service_bridge_settings • sn_sb_con_transform • sn_sb_error • sn_sb_identity • sn_sb_known_error_code • sn_sb_provider_task • sn_sb_release • sn_sb_remote_script_approval • sn_sb_remote_task • sn_sb_rps_connection • sn_sb_scratchpad • sn_sb_service_bridge_settings • sn_sb_transform_line • sn_transport_profile • sn_transport_queue • sys_alias • sys_user • sys_user_has_role • user_criteria

除外する サービスブリッジ テーブル

次の サービスブリッジ テーブルがない場合は、これらをクローンプロファイル除外リストに追加します。このリストにない サービスブリッジ テーブルを削除します。

ユーザー	テーブル名
プロバイダー	• ih_sync_capture_definition • ih_sync_definition • ih_sync_inbound_definition • ih_sync_outbound_definition • ih_sync_process_event • ih_sync_remote_system • scan_finding • scan_task • sn_sb_authorized_user • sn_sb_connection • sn_sb_entitlement • sn_sb_error • sn_sb_identity • sn_sb_pro_inbound_field • sn_sb_pro_outbound_field • sn_sb_pro_persona • sn_sb_pro_provider • sn_sb_pro_registration • sn_sb_pro_remote_record_producer_consumer_criteria • sn_sb_pro_remote_task_def • sn_sb_pro_remote_task_def_consumer_criteria • sn_sb_pro_remote_task_variable • sn_sb_pro_transform • sn_sb_provider_task • sn_sb_remote_record_producer • sn_sb_remote_script_approval • sn_sb_remote_task • sn_sb_rps_connection • sn_sb_scratchpad • sn_sb_service_bridge_settings • sn_sb_transform_line

ユーザー	テーブル名
	• sn_transport.* • sys_alias
コンシューマー	• ih_sync_capture_definition • ih_sync_definition • ih_sync_inbound_definition • ih_sync_outbound_definition • ih_sync_process_event • ih_sync_remote_system • scan_finding • scan_task • sn_sb_authorized_user • sn_sb_con_consumer • sn_sb_con_inbound_field • sn_sb_con_outbound_field • sn_sb_con_persona (コンシューマー側) • sn_sb_con_remote_task_def • sn_sb_con_remote_task_variable • sn_sb_con_transform • sn_sb_connection • sn_sb_entitlement • sn_sb_error • sn_sb_identity • sn_sb_provider_task • sn_sb_remote_record_producer (コンシューマー側) • sn_sb_remote_script_approval • sn_sb_remote_task • sn_sb_rps_connection • sn_sb_scratchpad • sn_sb_service_bridge_settings • sn_sb_transform_line • sn_transport.* • sys_alias

コンシューマー基準の新規レコードフォーム

コンシューマー基準の新規レコードフォームのフィールドの説明には、コンシューマー基準の新規レコードフォームのフィールド値に関する情報が含まれています。

コンシューマー基準の新規レコードフォーム

フィールド	説明
名前	コンシューマー条件の名前。
アクティブ	コンシューマー条件を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
次のための条件：	クエリ対象のテーブルのレコードを照合するために会社またはアカウントを指定できます。クエリ対象のテーブルで使用できるフィールド (会社またはアカウント) に基づいて、対応するオプションを選択します。 たとえば、このフィールドは、[アカウント] フィールドがテーブルのクエリに使用されるため、[販売済み製品] テーブルで使用できます。
次に関する条件：	一致するレコードを見つけるためにクエリを実行するテーブルを示すフィールド。 i 注： 顧客フィールドを選択できないテーブルは使用しないでください。
顧客フィールド	サービスブリッジ接続で定義されている会社またはアカウントと一致する、クエリ対象のテーブルのフィールドを選択します。サービスブリッジを介して接続されているコンシューマーがアカウントである場合は、[会社] または [アカウント] フィールドを使用して照合できます。接続されているコンシューマーが会社のみである場合は、会社に制限されます。
条件	フィルターの詳細。例、Active is True。

役に立つ参考資料

[コンシューマー基準の作成。](#)

のスキランチェックのリスト サービスブリッジ

複数のスキランチェックを サービスブリッジ して、問題やシステムの不整合を特定し、システムの健全性を維持し、ダウンタイムを短縮することができます。

でサポートされているスキランチェックのリスト サービスブリッジ

チェック	説明	スイート	チェックタイプ	実行タイプ
[PRO] 依存アプリのインストールバージョンはすべて正しいです	依存アプリケーションのインストールバージョンが正しくありません	サービスブリッジのクローン後、アップグレード後、オンボーディング前、接続の健全性	PRO	オンデマンド、スケジュール済み

でサポートされているスキャンチェックのリスト サービスブリッジ (続く)

チェック	説明	スイート	チェックタイプ	実行タイプ
[PRO] エンタイトルメントコンシューマーのアクティブなリビジョンが 0 であることを確認します	エンタイトルメントがコンシューマーによってアクティブ化されませんでした	サービスブリッジ エンタイトルメント、クローン後、アップグレード後、オンボーディング後	PRO	オンデマンド、スケジュール済み
[PRO] エンタイトルメントの確認が処理待ちでスタックする	エンタイトルメントが予想よりも長く「処理待ち」状況になっています	サービスブリッジ エンタイトルメント、クローン後、アップグレード後、オンボーディング後	PRO	オンデマンド、スケジュール済み
[PRO] 接続ステータスがアクティブでないか、有効ではありません	コンシューマー接続ステータスがアクティブまたは有効ではありません	サービスブリッジ 接続の健全性	PRO	予約済み
[PRO] エンティティ参照が無効なエンタイトルメント	エンタイトルメントは有効なエンティティを参照していません	サービスブリッジ エンタイトルメント、クローン後、アップグレード後、オンボーディング後	PRO	オンデマンド、スケジュール済み
[PRO] ID 参照が無効なエンタイトルメント	エンタイトルメントが有効な ID を参照していません	サービスブリッジ のアップグレード後、オンボーディング後、クローン後	PRO	オンデマンド
[PRO] 接続のないエンタイトルメント	エンタイトルメントがコンシューマー接続を参照していない	サービスブリッジ エンタイトルメント、オンボーディング後、アップグレード後、クローン後	PRO	オンデマンド、スケジュール済み
[PRO] 統合ユーザー名が sb_user で始まっていません	統合ユーザー名が「sb_user」で始まっていません。	サービスブリッジ のクローン後、オンボーディング後	PRO	オンデマンド
[PRO] マジックリンクが設定されていません	マジックリンクが正しく設定されていません	サービスブリッジ マジックリンク構成	PRO	予約済み
[PRO] マジックリンクが完全に有効になっていません	マジックリンクが完全に有効になっていません	サービスブリッジ マジックリンク構成	PRO	予約済み
[PRO] プロセス同期定義構成が有効です	サービスブリッジ 接続の RPS プロセス同期定義が存在していません	サービスブリッジ 接続の健全性、クローン後、オンボーディング前	PRO	オンデマンド、スケジュール済み

でサポートされているスキャンチェックのリスト サービスブリッジ (続く)

チェック	説明	スイート	チェックタイプ	実行タイプ
[PRO] プロバイダー (sn_sb_pro_provider) がありません	プロバイダー (sn_sb_pro_provider) がありません	オンボーディング前のサービスブリッジ	PRO	オンデマンド
[PRO] プロバイダータスクの親ドメインの不一致	プロバイダータスクドメインが親タスクドメインと一致しません	サービスブリッジのクローン後、プロバイダータスクの構成	PRO	オンデマンド、スケジュール済み
[PRO] プロバイダータスクに接続参照がありません	プロバイダータスクがコンシューマー接続を参照していません	サービスブリッジのクローン後、アップグレード後、プロバイダータスクの構成	PRO	オンデマンド、スケジュール済み
[PRO] プロバイダータスクに親参照がありません	プロバイダータスクが親タスクを参照していません	サービスブリッジのアップグレード後、プロバイダータスク構成、クローン後	PRO	オンデマンド、スケジュール済み
[PRO] RRP コンシューマー基準は、コンシューマーと一致しません	公開されたリモートレコードプロデューサーを使用する資格を持つコンシューマーはありません。	サービスブリッジリモートレコードプロデューサー構成	PRO	予約済み
[PRO] RTD コンシューマー基準は、コンシューマーと一致しません	公開されたリモートタスク定義を使用する資格を持つコンシューマーはありません	サービスブリッジリモートタスク定義構成	PRO	予約済み
[PRO] リモートレコードプロデューサーが無効です	リモートレコードプロデューサーが有効な ID を参照していません	サービスブリッジリモートレコードプロデューサー構成	PRO	予約済み
[PRO] リモートタスク定義が無効です	リモートタスク定義に 1 つ以上の問題があります	サービスブリッジリモートタスク定義構成	PRO	予約済み
[PRO] リモート選択定義がないか、非公開です	リモートカタログ変数が、欠落しているか未公開のリモート選択定義を参照しています	サービスブリッジクローン後、リモートレコードプロデューサー構成	PRO	オンデマンド、スケジュール済み
[PRO] リモート選択依存変数が無効です	リモート選択変数が無効な依存関係または欠落している依存関係を参照しています	サービスブリッジリモートレコードプロデューサー構成	PRO	予約済み

でサポートされているスキャンチェックのリスト サービスブリッジ (続く)

チェック	説明	スイート	チェックタイプ	実行タイプ
[PRO] 親タスクドメインに一致するリモートタスクドメイン	リモートタスクドメインが親タスクドメインと一致しません	サービスブリッジクローン後、リモートタスク構成	PRO	オンデマンド、スケジュール済み
[PRO] リモートタスクに接続参照がありません	リモートタスクが接続を参照していません	サービスブリッジリモートタスク構成、クローン後、アップグレード後	PRO	オンデマンド、スケジュール済み
[PRO] リモートタスクに親参照がありません	リモートタスクが親タスクを参照していません	サービスブリッジのクローン後、アップグレード後、リモートタスク構成	PRO	オンデマンド、スケジュール済み
[PRO] プロバイダーと同期された設定およびコンシューマーバージョンが利用可能	サービスブリッジ設定が存在しないか有効ではありません	サービスブリッジ接続の健全性、オンボーディング後	PRO	オンデマンド、スケジュール済み
[PRO] 古いコンシューマー接続レコード	古い (使用されない) コンシューマー接続レコード	サービスブリッジのクローン後、オンボーディング前、基本構成	PRO	オンデマンド、スケジュール済み
[PRO] 古い OAuth レジストリレコード	古い (使用されない) OAuth レジストリレコード	サービスブリッジの基本構成、オンボーディング前、クローン後	PRO	オンデマンド、スケジュール済み
[PRO] オンボーディング再試行からの古いサービスブリッジサービスアカウントレコード	古い (使用されない) サービスブリッジ統合ユーザー	サービスブリッジのオンボーディング前、クローン後	PRO	オンデマンド
[CON] 依存アプリのインストールバージョンはすべて正しいです	依存アプリケーションのインストールバージョンが正しくありません	サービスブリッジのクローン後、アップグレード後、オンボーディング前、接続の健全性	CON	オンデマンド、スケジュール済み
[CON] エンタイトルメントコンシューマーのアクティブなリビジョンが 0 であることを確認します	エンタイトルメントがコンシューマーによってアクティブ化されていません	サービスブリッジエンタイトルメント、オンボーディング後、アップグレード後、クローン後	CON	オンデマンド、スケジュール済み
[CON] 接続ステータスがアクティブでないか、	プロバイダー接続ステータスがアク	サービスブリッジ接続の健全性	CON	予約済み

でサポートされているスキャンチェックのリスト サービスブリッジ (続く)

チェック	説明	スイート	チェックタイプ	実行タイプ
有効ではありません	ティブまたは有効ではありません			
[CON] エンティティ参照が無効なエンタイトルメント	エンタイトルメントは有効なエンティティを参照していません	サービスブリッジ エンタイトルメント、オンボーディング後、アップグレード後、クローン後	CON	オンデマンド、スケジュール済み
[CON] ID 参照が無効なエンタイトルメント	エンタイトルメントは有効な ID を参照していません	サービスブリッジ エンタイトルメント、オンボーディング後、アップグレード後、クローン後	CON	オンデマンド、スケジュール済み
[CON] 接続のないエンタイトルメント	エンタイトルメントはプロバイダー接続を参照していません	サービスブリッジ エンタイトルメント、オンボーディング後、アップグレード後、クローン後	CON	オンデマンド、スケジュール済み
[CON] 受信 RRP がタイムアウトしました	リモートレコードプロデューサーで変数と UI ポリシーのビルドが完了しませんでした	サービスブリッジ リモートレコードプロデューサー構成	CON	予約済み
[CON] 統合ユーザー名が sb_user で始まっています	統合ユーザー名が「sb_user」で始まっています	サービスブリッジ のクローン後、オンボーディング後	CON	オンデマンド
[CON] プロセス同期定義構成が有効です	サービスブリッジ コンシューマー RPS プロセス同期定義が存在していません	サービスブリッジ オンボーディング前、接続の健全性、クローン後	CON	オンデマンド、スケジュール済み
[CON] プロバイダーサービスカタログカテゴリがありません	プロバイダーサービスカテゴリがありません	サービスブリッジ リモートレコードプロデューサー構成	CON	予約済み
[CON] プロバイダータスクの親ドメインの不一致	プロバイダータスクドメインが親タスクドメインと一致していません	サービスブリッジ プロバイダーのタスク構成、クローン後	CON	オンデマンド、スケジュール済み
[CON] プロバイダータスクに接続参照がありません	プロバイダータスクがプロバイダー接続を参照していません	サービスブリッジ プロバイダーのタスク構成、クローン後、アップグレード後	CON	オンデマンド、スケジュール済み

でサポートされているスキャンチェックのリスト サービスブリッジ (続く)

チェック	説明	スイート	チェックタイプ	実行タイプ
[CON] リモートレコードプロデューサーが無効です	リモートレコードプロデューサーに ID またはエンタイトルメントがありません	サービスブリッジ リモートレコード プロデューサー構成	CON	予約済み
[CON] リモートタスク定義が無効です	リモートタスク定義に 1 つ以上の問題があります	サービスブリッジ リモートタスク定義構成	CON	予約済み
[CON] 親タスクドメインに一致するリモートタスクドメイン	リモートタスクドメインが親タスクドメインと一致していません	サービスブリッジ リモートタスク構成、クローン後	CON	オンデマンド、スケジュール済み
[CON] リモートタスクに接続参照がありません	リモートタスクが接続を参照していません	サービスブリッジ のクローン後、アップグレード後、リモートタスク構成	CON	オンデマンド、スケジュール済み
[CON] リモートタスクに親参照がありません	リモートタスクに親タスクへの参照がありません	サービスブリッジ のアップグレード後、クローン後、リモートタスク構成	CON	オンデマンド、スケジュール済み
[CON] プロバイダーと同期された設定およびコンシューマーバージョンが利用可能	サービスブリッジ設定が有効ではありません	サービスブリッジ のオンボーディング後、接続の健全性	CON	オンデマンド、スケジュール済み
[CON] 古い OAuth レジストリレコード	古い (使用されない) OAuth レジストリレコード	サービスブリッジ の基本構成、オンボーディング前、クローン後	CON	オンデマンド、スケジュール済み
[CON] 古いプロバイダー接続レコード	古い (使用されない) プロバイダー接続レコード	サービスブリッジ の基本構成、オンボーディング前、クローン後	CON	オンデマンド、スケジュール済み
[CON] オンボーディング再試行からの古いサービスブリッジサービスアカウントレコード	古い (使用されない) サービスブリッジ統合ユーザーレコード	サービスブリッジ のオンボーディング前、アップグレード後、クローン後	CON	オンデマンド
[PRO][CON] 添付ファイルが大きすぎます	添付ファイルのサイズがサポート対象外です	サービスブリッジ 添付ファイルの処理、パフォーマンス	両方	予約済み

でサポートされているスキャンチェックのリスト サービスブリッジ (続く)

チェック	説明	スイート	チェックタイプ	実行タイプ
[PRO][CON] 添付ファイルが非常に大きくなっています	パフォーマンスを低下させる大きな添付ファイルが見つかりました	サービスブリッジ 添付ファイルの処理	両方	予約済み
[PRO][CON] キャプチャ定義の状況が無効です	必須である RPS 接続のキャプチャ定義がありません	サービスブリッジ 接続の健全性、クローン後	両方	オンデマンド、スケジュール済み
[PRO][CON] グローバルスクリプトインクルードのバージョンチェック	グローバルサービスブリッジのスクリプトインクルードの更新が必要です	サービスブリッジ のクローン後、アップグレード後、オンボーディング前、基本構成	両方	オンデマンド、スケジュール済み
[PRO][CON] KMF が異常です	KMF キー管理が健全ではありません	サービスブリッジ のオンボーディング前、クローン後、アップグレード後	両方	オンデマンド
[PRO][CON] 添付ファイルの数が多くなっています	添付ファイルの数が異常に多いです	サービスブリッジ のパフォーマンス、添付ファイル処理	両方	予約済み
[PRO][CON] OAuth 暗号化モジュールアクセスポリシーチェック	OAuth 暗号化モジュールのアクセスポリシーが正しくありません	オンボーディング 前のサービスブリッジ	両方	オンデマンド
[PRO][CON] プロバイダーアプリとコンシューマーアプリのバージョンがインスタンスで同じです	サービスブリッジ プロバイダーとコンシューマーアプリのインストールバージョンが一致していません	サービスブリッジ のオンボーディング前、基本構成、アップグレード後、クローン後	両方	オンデマンド、スケジュール済み
[PRO][CON] リモートシステムの受信および送信の状況が有効です	接続の RPS リモートシステムがアクティブ状態ではありません	サービスブリッジ クローン後、接続の健全性	両方	オンデマンド、スケジュール済み
[PRO][CON] アップグレード履歴にリストされるスキップされたファイル	アップグレード履歴にスキップされたファイルがあります	アップグレード後 のサービスブリッジ	両方	オンデマンド
[PRO][CON] トランスポート受信キューの処理が遅くなっています	一部の受信レコードの処理に異常に長い時間がかかっています	サービスブリッジ ベース構成	両方	予約済み
[PRO][CON] トランスポートシステム	sn_transport_system ユーザーのドメイン	サービスブリッジ 接続の健全性	両方	予約済み

でサポートされているスキャンチェックのリスト サービスブリッジ (続く)

チェック	説明	スイート	チェックタイプ	実行タイプ
テムのユーザードメインと user_id は変更されません	ンまたは user_id が変更されました			
[PRO][CON] RPS でのユーザーの非認証エラー	OAuth クライアントトークンの有効期限が切れています (「ユーザーが認証されていません」)	サービスブリッジ ベース構成	両方	予約済み
[PRO][CON] glide.servlet.uri が空です	システムプロパティ「glide.servlet.uri」が空です	オンボーディング 前のサービスブリッジ	両方	オンデマンド